

事項一 ローザンヌ平和會議關係

一 一月四日 在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

調整委員會ニ於テ議了セラレタル事項ニツキ

報告ノ件

第八三号

(二月五日接受)

往電第七九号ニ関シ

「コラルジナシヨン」委員會ニ於テ一月二日迄ニ議了セル
事項左ノ通

一、海峡自由通過並武備撤廃ニ関スル条項

右ハ往電第六八号別電所報ノ案ヲ同盟側起草委員ニ於テ
条約文ノ形式ニ整ヘ(本件ハ往電第六八号末段四中所謂
最終案ト称スルモノニシテ十二月二十七日付機密公第二
号ヲ以テ郵送済)タル処「コラルジナシヨン」ニテ更ニ
二三變更ヲ加ヘ再ビ右起草委員ニ廻付セラレタリ往電第
六八号別電中主要ナル變更左ノ通

(a)海峡自由通過条項中第三条(c)「スタシヨンネール」関
係条項削除

(b)武備撤廃条項第一条ニ条約発効後十五日以内ニ英仏伊

及土国ノ四国委員ヨリ成ル武備撤廃地域画定委員ヲ設
クル旨ノ一項ヲ加フ

(c)海峡委員會並保障条項ニ関シテハ右起草委員會ニ於テ
裁定次第追テ電報ス

二、東「トラース」国境武備撤廃地帯設定ニ関スル条項

本件ニ関シテハ「コラルジナシヨン」ニテ新ニ条文ヲ起
草シ一月三日起草委員ニ於テ採決ス(右条文郵送ス)該
条項中注目スベキ点左ノ通

(a)武備撤廃地帯其他往電第一七号(一)ノ趣旨ヲ規定ス

(b)往電第一七号武備撤廃地帯ノ单独並軍隊保障ニ関スル
土国ノ要求ハ容レラレズ其代リ「接壤国ノ一ガ右地帯
關係条項ノ遵守ニ関シ異議アル場合之ヲ連盟理事会ニ
訴フル」ノ途ヲ開ク

(c)武備撤廃地帯画定委員會ハ英仏伊勃希土六国ノ委員ヨ
リ成ル但勃以下三国委員ハ各自国内ノ画定事業ニ参与
スルニ止マル

二 一月四日 在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ローザンヌ平和條約全体ノ構成ニ関シ報告ノ
件

付記一 大正十一年十二月四日在ローザンヌ近東平和會

議代表内田外務大臣宛電報第三四号

ローザンヌ平和會議ニ露国招請ノ経緯報告ノ件

二 大正十一年十二月四日在ローザンヌ近東平和會

議代表内田外務大臣宛電報第三五号

招請三国委員ニヨル露国委員ノ會議一律参加要

求ニ対シ反对ノ件

三 大正十一年十二月四日在ローザンヌ近東平和會

議代表内田外務大臣宛電報第三六号

招請三国ノ通牒ニ対スル露国委員ノ抗議回答大

要報告ノ件

第八四号

(一月五日接受)

今回ノ講和會議ニ於テハ参加国ノ地位一樣ナラザルニ顧ミ
昨今同盟側起草委員ノ間ニ来ル平和條約全体ノ構成ニ関シ
一、講和條約ノ外

二、海峡制度ニ関スル協約

三、「トラース」国境ニ関スル特殊規定

四、「デデアガッチ」港規定並ニ勃国ノ「エージアン」海

与ヘテ會議ヲ開キタル旨ヲ記述シ次デ會議ノ結果トシテ前
記諸約定ヲ羅列シ最後ニ各国全權ヲシテ之ニ署名セシムル
ノ考案アリ尤以上ノ考案ハ未ダ土国側ノ同意ヲ經ズ從テ今
後變化無キヲ保シ難キモ不取敢御参考迄
在欧米各大使、希、羅、土ヘ暗送セリ

(付記一)

大正十一年十二月四日在ローザンヌ近東平和會議代表内田

外務大臣宛電報第三四号

ローザンヌ平和會議ニ露国招請ノ経緯報告ノ件

第三四号

(十二月五日接受)

今回平和會議ニ露国ヲ招請セル経緯大要左ノ如シ

(一) 仏、英、伊三国政府ハ十月二十六日付ニテ露国政府ニ対
シ右三国政府ハ近東平和條約締結ノ為十一月十三日「ロ
ーザンヌ」ニ日、羅、塞、希、土諸国ヲ招請シタルカ同會
議討議事項中ノ海峡問題ニ関シテハ交戦国ノミナラス黒
海沿岸諸国トモ協議スルノ必要ヲ認ムルニ依リ同問題討
議参加ノ為露国委員ヲ「ローザンヌ」ニ派遣セラレタク
該問題討議ノ期ハ追テ通知スヘキ旨ヲ通牒シ右ニ対シ露
国政府ハ十一月二日付ニテ近東問題討議ニ露国ヲ除外セ
ラルルコトヲ抗議スルト共ニ同国政府ハ「ウクライナ」

ニ対スル自由連絡ニ関スル協約

五、土国ニ於ケル外国人外国会社學術慈善団体ニ関スル規
定並ニ土国裁判所ノ權限ニ関スル協約

六、「アルバニア」ノ土国公債償還参加ニ関スル宣言

七、「モハレム」勅令ノ確認ニ関スル土国ノ宣言

八、土国ニ於ケル通商規定ニ関スル協約

九、土国ニ於ケル衛生問題ニ関スル協約

十、戦争ニ関連セル大赦ニ関スル宣言

十一、埃及承認ニ基ク諸問題ニ関スル協約

十二、希土人民交換ニ関スル協約

十三、希臘少数民族規定

ヲ設ケ全般的會議参加国ノ外部分的参加国並ニ特殊利害關
係国ニ対シテハ其利害關係ヲ有スル約定ニ限り調印ノ機會
ヲ与フルト共ニ海牙平和會議ノ例ニ倣ヒ當會議成立由来並
ニ各参加国ノ會議ニ於ケル地位ヲ明白ニスル目的ヲ以テ最
終議定書ヲ調製シ其内ニ先ヅ英、仏、伊三国ガ日本ノ同意
ヲ以テ一方希、羅、塞並ニ米國他方土国ヲ招請シ又海峡問
題ニ関シテハ沿岸国タル勃、露ヲモ招集シ其他利害關係国
ニ対シテハ其關係事項ニ就キ発言又ハ討議ノ權(白国)ヲ

及「ジョルデア」ト共ニ他國「デレゲーション」ト均等
ノ地位ニ於テ會議ニ参加センコトヲ要求セリ

(二) 會議招請三国ハ十一月十四日付ニテ露国政府ニ対シ「ロ
ーザンヌ」會議ハ土国ト平和條約ヲ締結シ近東ノ戦争狀
態ヲ終熄セシメンコトヲ所期スルモノナルヲ以テ同國ト
現在平和關係ノ確立セサル諸國ヲ招請セル次第ニテ露国
委員ハ海峡討議ニ際シ其ノ討議並決定ニ参与スル權限ヲ
有シ同問題ニ関連スル諸事項ニ対シ意見ヲ開陳シ得ヘク
又露国ハ其ノ「デレゲーション」中ニ「ゼノア」會議ニ
於ケルト同様ノ方法ニ於テ「ウクライナ」及「ジョルジ
ア」委員ヲ包含セシムルノ自由ヲ有スヘキ旨ヲ通報シ露
国政府ハ右ニ対シ二十七日付ニテ(イ)「トラス」地方ノ解
決及海峡並黒海、多島海沿岸ノ領土の変更ハ總テ海峡問
題ニ関連シ是等ノ問題ハ政治上並經濟上露国及其ノ与國
ト緊密ナル關係ヲ有スルニ依リ其ノ解決ニ対シテハ露国
及其ノ与國カ特定ノ問題ニ関シ意見ヲ開陳スルノミナラ
ス會議ノ全討議及決定ニ参与スルニアラサレハ到底満足
ナル解決ニ到達シ得サルヘク露国ヲ除外セル近東問題ノ
解決ハ結局死文ニ終ルヘシ(ロ)招請国政府ノ一首相カ露国

ノ全會議参加ニ有利ノ声明ヲ為セルハ露國ノ見地カ公正ナルノミナラス會議ノ目的達成ニ副フコトヲ証スルモノニシテ本主張ノ趣旨ハ會議開催ニ際シ陳述セラレ又最近米國委員ニ宣言セル各国民間ノ恒久平和樹立ノ見地ニ適フモノナリト述ヘ露國委員カ列國委員ト平等ノ地位ニ於テ直ニ會議ニ参加センコトヲ要求セリ

英、仏、独ヘ電報セリ

(付記二)

大正十一年十二月四日在ローザンヌ近東平和會議代表内田外務大臣宛電報第三五号

招請三国委員ニヨル露國委員ノ會議一律参加要求ニ対シ反对ノ件

第三五号

(十二月五日接受)

往電第三四号末段露國委員ノ會議一律参加要求ニ対シ招請三国委員ハ二十七日付ニテ十四日付三国政府ノ通牒電報カ露國ノ會議参加ヲ海峡問題ノ討議決定並同問題ニ関連スル諸事項ニ対スル意見開陳等ニ限定シ居ル事実ヲ述ヘ露國ノ申出ヲ認諾シ難キ旨回答セリ尚右回答ニ関シテハ發送前本使等ニ内示シ来リタルニ付予メ承知シ居タル所ナルカ二十七日付露國書翰中ノ招請國ノ一首相云々ハ伊國首相ヲ指シ

タルモノナルコト判明セル為メ伊國全權ハ本件ニ関シ本國政府ニ請訓シ其ノ結果右回答ハ二十七日夜漸ク露國委員ニ手交セラレタリ

英、仏、独ヘ暗送セリ

(付記三)

大正十一年十二月四日在ローザンヌ近東平和會議代表内田外務大臣宛電報第三六号

招請三国ノ通牒ニ対スル露國委員ノ抗議回答大要報告ノ件
第三六号
(十二月五日接受)

客月二十七日付招請三国通牒ニ対シ露國委員ハ十二月三日大要左ノ通り回答セリ

招請三国全權ガ二十七日付露國ノ通牒ニ対シ何等具体的反駁ヲナサズシテ從來ノ決定ヲ固執シ露國及其ノ与國ノ近隣諸國及国民ニ関連スル問題ヲ已定事実トシテ提議セントスルハ利害關係諸國ノ權利ヲ侵害スルモノナリ而シテ露土兩國ガ交戦状態ニアラザル故ヲ以テ露國ノ會議全討議参加ノ必要ナシトスル招請三国ノ見解ハ露國委員ノ意外トスル処ニシテ右ハ近東平和ニ関スル案件ヲ数分シ海峡問題ヲ独立ノ事項トナスモノナル処同問題ガ列國干涉事件トナリテヨリ以来露國ガ近東ノ平和確立ニ重要ナル關係ヲ有シ又之ガ

確保ニ協力スル權利ヲ有スルハ疑ナキ処ナリ英國ハ曩ニ伯

林會議ニ際シ自國ノ参加ヲ必要ト認メタルノミナラス「サン・ステファノ」条約改訂ヲ以テ絶対的必要ナル前提条件トナセルニアラズヤ然ルニ今回此成規の慣例ヲ破リ海峡問題ノミヲ独立セシメテ近東問題ノ解決セラレントスルヲ見、露國委員ハ更ニ玆ニ抗議スルト同時ニ同國及其ノ与國ヲ除外シテ行ハレタル決定ニ対シ何等責任ナキコトヲ宣言ス、但、露國委員ハ其ノ會議不参加ヨリ招来スベキ不便ヲ増大セザランガ為海峡委員會ノ討議ニ参与スベシ
英、仏、独ヘ郵報セリ

三 一月五日

在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

連合國側ノ海峡保障問題案ニ関シ稟請ノ件

付記一

大正十一年十二月五日在ローザンヌ近東平和會議代表内田外務大臣宛電報第三八号

第一委員會第一回会合ニ於ケル海峡問題討議ノ模様報告ノ件

二

大正十一年十二月七日在ローザンヌ近東平和會議代表内田外務大臣宛電報第四一号
第一委員會第十回会合ニ於ケル海峡問題討議ノ

模様報告ノ件

三

大正十一年十二月九日在ローザンヌ近東平和會議代表内田外務大臣宛電報第四二号

第一委員會第十一回会合ニ於ケル海峡問題討議ノ模様報告ノ件

四

大正十一年十二月九日在ローザンヌ近東平和會議代表内田外務大臣宛電報第四三号

海峡ニ関スル連合國側案海峡ノ自由ノ項仮訳文
五

大正十一年十二月九日在ローザンヌ近東平和會議代表内田外務大臣宛電報第四四号

海峡ニ関スル連合國側案海峡ノ武装解除地帯ノ項仮訳文

六

大正十一年十二月九日在ローザンヌ近東平和會議代表内田外務大臣宛電報第四五号

第一委員會第十二回会合ニ於ケル海峡問題討議ノ模様報告ノ件

七

大正十一年十二月二十日在ローザンヌ近東平和會議代表内田外務大臣宛電報第六三三号

米國委員ヨリ海峡ノ自由ニ関スル同國ノ見解ヲ議事録ニ留ムルヨウ要求ノ件

八

大正十一年十二月二十日在ローザンヌ近東平和會議代表内田外務大臣宛電報第六四号

海峡ノ自由ニ関スル米國政府ノ見解
九
大正十一年十二月二十一日在ローザンヌ近東平和

和會議代表発内田外務大臣宛電報第六八号
海峡問題ニ関スル連合国側案ノ討議ノ経緯報告
ノ件

一〇 大正十一年十二月二十三日在ローザンヌ近東平和會議代表発内田外務大臣宛電報第六九号
海峡保障案及ビ海峡委員会案要領

第八五号

(一月六日接受)

往電第八三号(c)及同第六八号海峡保障問題ニ関シ其ノ後彼我ノ間非公式意見交換ノ結果同第六九号(甲)同盟側第一案ニテハ到底土国側ノ承諾ヲ得ル見込無ク去リトテ同第六八号土国案ハ到底同盟側ノ承認シ得サル所ナルヲ以テ起草委員會試ミニ往電第八六号ノ如キ第二案ヲ起草シ土国側ニ於テハ之ニ承諾ヲ与フヘキコト略確實ナリシモ同盟側殊ニ英国ノ拒絕スル所トナリ更ニ考慮ノ結果同案第二項末尾 *dont elles disposent* 以下 *que le Conseil de la Société des Nations décidera à cet effet* ト改メタル第三案ヲ作製シタルカ仏伊二国ニ於テハ本案ニ異存無ク英国「デレゲーシヨ」ニ於テモ「カーゾン」病氣ノ為其ノ承諾ヲ求ムルノ機會無キ外其ノ他ノ「メンバー」ニ於テハ右ニ異議無キ現狀ナリ

大国ニ於テ異存無シトセハ我レニ於テモ帝國ノ當會議ニ於ケル地位主張ニ鑑ミ右ノ如キ程度ノ責任ハ之ヲ引受クヘキ儀ト思考スルモ此ノ方針ニテ御差支無キヤ何分ノ儀折返シ御回電アリタシ
在欧米各大使及希、羅、土ヘ暗号ノ儘郵送セリ

(付記一)

大正十一年十二月五日在ローザンヌ近東平和會議代表発内田外務大臣宛電報第三八号
第一委員會第一回會合ニ於ケル海峡問題討議ノ模様報告ノ件

第三八号

(十二月七日接受)

四日第一委員會第一回會合ニ於テ海峡問題ヲ議ス、露国「チチェリン」及「ラコブスキー」、「ウクライナ」「ジョルヂヤ」両国全權ヲ兼ね、勃牙利兩國モ討議ニ参加ス議長「カーゾン」ヨリ先ヅ土国及露、羅、勃、希等ノ意見ヲ聞カンコトヲ求メタルガ土国全權ハ同國ガ同盟側ノ講和招請ニ対スル回答中海峡問題ニ露国、「ウクライナ」「ジョルヂヤ」ノ参加無クシテハ討議ニ応ズルヲ得ザル旨ヲ開陳シタル以來今日迄態度ヲ改メタルコト無カリシガ今日之等諸國ノ代表者ト相会スルヲ得タリトテ満足ノ意ヲ表シタル後海峡問題ニ関シテハ(一)海峡ヲ土国主權ノ下ニ置クコト(二)

抑々本件ニ関シ彼我ノ間意見ノ一致ヲ見ルコト困難ナルハ土国側ニ於テ締約國ヲシテ直接且実効有ル保障義務ヲ負ハシメムト欲スルニ対シ同盟側ニ於テハ該保障義務ヲ連盟員タル地位ヨリ帰結シ得ヘキ程度ニ止メムト欲スルカ為ニシテ同盟側第二案ハ其ノ末項ニ於テ締約國カ先ヅ連盟員タル權利義務ヲ援用スルノ余裕ヲ認メ居ラサルニハ非サルモ同第二項ハ右權利義務トハ独立ノ責任ヲ負ハシムルノ觀無キ能ハス尤モ同項中 *conjointement* ノ文字有ル結果締約國殊ニ四大國中一國カ共同行為ニ出ツルコトヲ拒絕スル時ハ本項ハ其ノ用ヲ為ササルコトヲ意味スルモノナレトモ右一國カ斯ノ如クニシテ天下ニ背信行為ヲ曝露スルノ虞ハ之ヲ免レサルヲ以テ更ニ第三案ヲ生ミ右第二項ノ責任實現ニ伴フ手段ヲ以テ理事會ノ決定ニ代ラシムルコトトシタル次第ナリ

右第三案ニ対シ土国側ニ於テ如何ナル態度ニ出ツヘキヤ未タ明カナラサルモ前記ノ事由ニ依リ今後本件ニ関スル彼我ノ一致ヲ見得ヘシトセハ尠クトモ右第三案若ハ之ト前記第二案トノ中間ニ属スル程度ニ於テ連盟理事會等ノ干渉ヲ認メタル形式ニ依ルノ外無シト思料ス而シテ斯ル場合他ノ三

國民規約ノ命ズル如ク君府及「マルモラ」海ノ安全ヲ保障スルコトノ条件ヲ以テ各國通商貿易ノ為之ヲ開放スルニ異議無シトノ簡單ナル言明ニ止メタリ之ニ対シ議長ハ右土國ノ陳述中夫レノミニテハ何等非難スヘキ点無キヲ指摘スルト共ニ同盟側ノ立場ハ其講和招請狀ニ一言スルガ如ク海峡ノ武備撤廃並ニ連盟其他ニ依ル海峡ノ保障ニシテ保障ニ関シテハ「マリツア」地帯武備撤廃問題モ一併討議スベキ事議場ノ記憶ニ新タナリト述べ尙土國ノ立場ヲ詳言センコトヲ期シテ露國ニ發言ヲ与ヘシガ「チチェリン」ハ近東ノ一般の平和ヲ懸念スル露國、「ウ」、「ジ」三國ノ國是ニ基キ會議ノ全般の參觀的參加ヲ希望シタルモ容レラザリシハ遺憾ナリト前提シタル後海峡ニ関スル三国一致ノ政策トシテ(一)両海峡及「マルモラ」海ノ通商ニ関スル開放(二)君府ノ永久的安全保障即チ戰時平時何レヲ問ハズ軍艦、飛行機其他一切ノ攻撃手段ノ通過禁止(三)海峡地帯ニ対スル土國ノ主權ヲ尊重シ沿岸防備ノ為近世的武備ヲ施スノ權ヲ土國ニ与ヘンコトヲ主張シ軍艦等ニ対シ海峡ヲ閉鎖スベシト云フハ大海軍國ニ優越ノ地ヲ与ヘザランガ為ナリ「ムドロス」休戰以來同盟側軍艦ノ黒海ニ於ケル行動反過激派ノ援助等ハ右ノ

必要ヲ思ハシム国民規約ヲ見ルニ土国モ同様ノ利害ヲ有ス
要スルニ海峡ノ現状ハ一日モ速カニ公平ナル制度ニ代フル
ヲ要ス海峡ノ一角ニ武力ヲ止ムル国ハ其優勢ヲ来ス露国官
民ハ海峡ヨリ騒乱ノ原因ヲ解除センコトヲ熱望ストテ縷々
陳述セリ

次ニ

羅国全権ハ同国經濟上ノ發展ノ為海峡ノ有効ナル自由通過
ヲ希望シ從テ海峡ノ關鍵ヲ一国ノ手ニ任スルヲ肯セス之ヲ
國際の制度下ニ中立化スヘシトテ(一)海峡ノ絶對的自由通過
(二)海峡地帯ヨリ黒海ニ至ル武備撤廃(三)海峡監視委員會ノ設
置ヲ主張シ

勃国全権モ羅国ト同様ノ理由ニテ(一)商船ニ対スル海峡ノ自
由通過(二)海峡ノ國際行政ニ対スル参加ヲ希望シタルカ軍艦
ノ通過問題ニハ言及セス

以上ノ諸説ニ対シ「カーゾン」ハ海峡ニ関スル土国ノ利害
關係重大ナルニ當リ却テ露国全権ヨリ土国ノ主張ヲ聞クコ
ト多キヲ奇トシ既ニ三国ノ代表タル「チチュリン」ハ更ニ
土国ヲモ代表スルヤト擲論シ海峡ノ一角ニ永久的武力ヲ存
置スルノ非ハ吾人モ同感ナリト雖モ目下武力ノ存在スルハ

ニ答フルハ却テ質問者ヲ尊重スル所以ニ非ストテ取上ケス
其ノ儘延期ヲ宣ス

在欧米各大使、希臘、羅馬尼、土耳其へ転電セリ

(付記二)

大正十一年十二月七日在ローザンヌ近東平和會議代表發内田
外務大臣宛電報第四一号

第一委員會第十回会合ニ於ケル海峡問題討議ノ模様報告ノ件

第四一号

(十二月八日接受)

往電第三八号ニ関シ六日午前ノ第一委員會第十回会合ニ於
テ議長「カーゾン」ハ前回土国全権カ大体其ノ意見ト一致
スト述ヘタル露国案ハ平時土国カ其ノ与国軍艦ニ海峡通過
ヲ許容シ居タル特權ヲ除ケハ結局海峡及黒海ニ戦前ノ状態
ヲ維持セムトスルモノニシテ此ノ状態カ如何ニ忍フヘカラ
サルカハ伊土戦争乃至大戰當時土国ノ執リタル措置ノ影響
ヲ思ヘハ足ル露国全権ハ海峡ノ開放ヲ以テ大海軍國ニ優勢
ヲ与フト云フト雖モ之ヲ鎖スハ他ノ黒海沿岸國ヲ将来同海
ノ大海軍國タルヘキ露國ノ支配ノ下ニ置ク所以ニ非スヤ要
スルニ露國ノ企圖スル所ハ黒海ヲ其ノ湖水トシ土耳其ヲ其
ノ忠実ナル關守トセムトスルニ外ナラスト論シタル上、海
峡ニ関スル同盟側ノ考案ヲ披露シ後刻詳細ノ点ハ文書ヲ以

一ノ事實ナリト勵声シタル後今海峡ニ関シ異ナレル三個ノ
提案ヲ得タルモ肝要ナル土國案の確ナラサルハ遺憾ナリト
テ(一)以上ノ諸案ニ対スル土國ノ意見(二)土國案ノ詳細ヲ聞カ
ムコトヲ反覆慫慂シ終ニ第三ノ質問トシテ同盟側ハ土國
カ露國案ヲ以テ自國案トスルモノト思考シ得ヘキヤト詰リ
タルモ土國全権ハ唯露國提案カ大体其ノ考案ト一致スル旨
ヲ答フルノ外海峡ニ対スル土國ノ主權ヲ毀損セサル範圍内
ニ於テ各國ノ希望ヲ考量スルモノナリトテ此ノ際進テ詳説
スルヲ好マス却テ同盟側ノ考案ノ詳細ヲ聞カムコトヲ求メ
タリ

茲ニ於テ「カーゾン」ハ右土國ノ態度ヲ以テ誠意ヲ欠クモ
ノトシ會議遷延ノ責任土國ニアルヲ指摘スルト共ニ同盟諸
強ノ意見ヲ定メ且目下ノ事態ニ対シ必要ノ措置ヲ講スルノ
余裕ヲ得ムカ為會議ノ延期ヲ提議シタルカ此ノ時「チチュ
リン」ハ急ニ發言ヲ求メ

吾人ハ茲ニ均等ノ地位ニ在リ巴爾幹諸國カ其ノ海峡ニ対ス
ル意見ヲ發表シタルニ三招諸國ノミ默スルハ其ノ意吾人ノ
仲裁者タラムト期スルモノカ其ノ意見ヲ聞キ度シト迫リタ
ルカ「カーゾン」ハ前記諸考案ニ対シ熟考ヲ加ヘス輕躁之

テ回付スヘシトノ前提ノ下ニ先同案ノ基礎觀念カ同盟側ノ
私利ニ依ラス永久不變ノ要素タル(一)黒海沿岸國ノ利益(二)海
峡ノ國際水路タルノ性質(三)海峡ノ沿岸ニ土國首府ノ存在ス
ルコトニアル旨ヲ述ヘ次ニ

一、海峡ニ関スル一般規則トシテ

甲、商船

(イ) 平時及土國カ中立タル場合各國商船ノ絶對的通過
自由

(ロ) 土國カ交戦國タル場合軍隊戰時禁制品等ノ輸送ヲ
行ナハサル限中立國船舶ノ絶對的通過自由

乙、軍艦

(イ) 平時及土國カ中立タル場合一國軍艦ノ土國港ニ於
ケル数及碇泊時間ニハ制限ヲ加フルモ各國軍艦ハ
自由ニ通過スルコトヲ得

(ロ) 土國ガ交戦國タル場合ニハ中立國軍艦ノミ自由ニ
通過ス

即チ以上ノ規則ハ世上ニ流説スルカ如ク西欧諸國ニ於テ戰
時君府ヲ土國ノ敵國ノ支配下ニ置カムトスルノ意ナキヲ証
スルモノナリ

二、右規則ノ実施ヲ確保センカ為

(イ) 海峡ノ西岸ニ有効ナル武備撤廃ヲ施スコト

(ロ) 右武備撤廃地帯ノ監視及海峡水路行政等ノ為メ國際委員會ヲ設ケ黑海沿岸国及地中海ノ通商ニ特ニ利害關係ヲ有スル諸国即チ仏、英、日、伊、露、米、土、希、羅、塞、勃政府ヨリモ一名ノ委員ヲ任命シ土國委員ヲ常任議長トス、委員會構成ノ詳細及之レヲ連盟若クハ其ノ他ノ監督ノ下ニ置クヘキヤ否ヤハ更ニ協議スベク右武備撤廃ノ方法及該地帯ノ面積並ニ君府ノ防備ニ要スル兵数ニ関シテハ後ニ文書ヲ廻付シ各國専門委員ノ審議ニ付スヘシ

三、尚ホ「マリツア」地帯ニ於ケルガ如ク右武備撤退地帯及保障問題存スルモ此ノ点ニ関シテハ速カニ土國法律委員ト商議セムコトヲ欲ス

ト述ブルヤ仏、伊両全權相尋イテ右ニ賛成シ米國代表ハ黑海ノ内外ヲ問ハス通商自由ノ必要ヲ唱ヘ地理的理由ニ依リ黑海沿岸トノ貿易ヲ妨ゲ海峡ノ關鍵ヲ一國ニ与フルカ如キハ世界全体ノ政策ニ反ストテ海峡ノ武備撤廃乃至軍艦自由通過ノ必要ヲ説ケリ、塞國全權亦同國通商上ノ必要ヲ楯ト

同全權ハ海峡ノ戰略上ノ地位ヲ高調シテ之ヲ無防禦ノ状態ニ置クトキハ地中海ノ一國ト黑海ノ一國トノ間ニ戰爭起ル場合其ノ一國ハ忽チ此ノ要所ヲ占領シテ自國ノ地歩ヲ優越ナラシメムトスルハ事理ノ当然ニシテ其ノ結果土國ヲモ戰爭ノ渦中ニ投ズルニ至ルスル紛糾ヲ避ケムガ為ニハ君府及両海峡ニ防備ヲ施スノ外無シ尚土國領土ノ安全上海峽ニ入り来レル軍艦ニ一定ノ制限ヲ設ク可キモ商船ノ絶對的自由通過ニ異議ナク「ダニウブ」委員會ノ如キ國際委員會ハ商船ノ通過ヲ規律スルヲ得ベシト述ベ左ノ諸点ヲ以テ海峡規則ノ根本原則トセム事ヲ提議セリ

一、陸海両方面ヨリ来ル不慮ノ襲撃ニ対シ両海峡君府及「マルモラ」海ノ安全ヲ確保ス可キ保障
二、両海峡ノ間ヨリ黑海ニ延長セル地帯ニ対シ危險ヲ醸サザル様黑海ニ入り来ル海軍力ヲ制限シ之ヲ編成スルニ國際的通商ノ保護ヲ目的トスル輕巡洋艦ヲ以テス可キ事
三、戰時平時ヲ問ハズ商船ノ自由通過ヲ許シ土國ガ交戦國タル場合ニハ同國ハ商船ニ対スル必要ノ技術的監督ヲ以テ満足ス可キ事尚土國全權ハ同盟側案ノ各項ニ付テハ後ニ意見ヲ述ブ可キモ同案中特ニ土國ニ不利益ナルモノ有リトテ

シ議長ノ案ヲ推奨セシカ五國全權ハ本案ノ文書ニ依ル廻付ヲ受ケタル上ニテ其ノ意見ヲ述フヘシト留保シ

露國全權モ其ノ代表セル三國ノ名ニ於テ土國全權同様ノ留保ヲ為スト共ニ一般論トシテ前記議長ノ所言ニ対シ新露國ノ政策カ各國民トノ和親ニアルヲ力説シ海峡ニ関シテハ露國ハ君府其ノ他ニ対スル野心ヲ放棄セルヲ以テ海峡問題ノ解決ハ土國ノ自由決定ニ依ルカ國際制度ニ依ルノ外ナキモ國際制度ハ國際間爭議ノ源ニシテ永続セス土國ノ自由決定ヲ希望スト述ヘタリ

在欧米各大使及希、羅、土ヘ転電セリ

(付記三)

大正十一年十二月九日在ローザンヌ近東平和會議代表發内田外務大臣宛電報第四二號

第一委員會第十一回会合ニ於ケル海峡問題討議ノ模様報告ノ件

第四二號

(十二月十日接受)

往電第四一號ニ関シ

六日午後海峡ニ関スル同盟側案(別電)ニ付彼我専門家間ニ詳細ナル意見交換ヲ為シタル上八日午前第一委員會第十一回会合ニ於テ同案ニ対スル土國全權ノ意見ヲ聞キタルニ

左ノ七点ヲ指摘セリ

一、海峡ナル字義中ヨリ「マルモラ」海ヲ除外スルヲ要ス蓋シ同海兩岸ノ防備ハ何等海峡ノ自由通過ニ影響無キニ反シ「アナトリヤ」ト「トラース」トノ防禦上必要有リ
二、「アナトリヤ」ト「トラース」トノ間ニハ鉄道ノ連絡アリ君府ニハ英兵アルヲ以テ「ボスフォラス」ノ周圍ニ武備撤廃地帯ヲ設クルハ無意味ナリ同海峡兩岸ニ陸海両様ノ防備ヲ設ケズト云フヲ以テ足ル可シ

三、武備撤退地帯ニ軍隊ノ移動ヲ禁ズルモ右地帯ハ土國ノ両部分ヲ連絡スルモノナルヲ以テ右移動ヲ許スヲ要ス
四、「マルモラ」海ノ兩岸ヲ艦隊ヲ以テ防禦スルヲ得ンガ為土國ハ君府及海峡ニ軍器工廠其他海軍製作所ヲ必要トス
五、武備撤廃地帯ノ面積広キニ過グ

六、海峡外ノ四島中「インブルス」「テネド」「サマトラス」ニ於ケル土國ノ主權ノ確認及「レムネス」ニ自治ヲ宣布スル事

七、不慮ノ襲撃ニ対スル「ガリポリ」ヲ防禦セムガ為同半島ニ最小限ノ防禦工事ヲ施スヲ要ス

次デ露國全權ハ種々ノ方面ヨリ既報自國案ヲ弁護シ右土國

案ハ新タナルヲ以テ研究ノ上更ニ意見ヲ開陳ス可シト述ベ
羅、希、勃、塞四国全権ハ相次イデ右土国修正案提出後ニ於
テモ尚同盟側案ニ賛成ナル旨ヲ言明シ議長ハ一応諸強国同
僚ト協議ノ上右土国案ニ答フ可シトテ議事ヲ午後ニ延期ス
在欧米各大使、希、羅、土ヘ転電セリ

(付記四)

大正十一年十二月九日在ローザンヌ近東平和會議代表発内田
外務大臣宛電報第四三号

海峡ニ関スル連合国側案海峡ノ自由ノ項仮和訳文

第四三号(別電)

(十二月十日接受)

海峡ノ自由

(以下海峡ナル語ハ「ダルダネルス」「マルマラ」
及「ボスフォラス」ヲ包含ス)

「ダルダネルス」「マルマラ」海「ボスフォラス」及ソノ
上空ノ航行ニ関スル規則

第一条

病院船ヲ含ム商船、「ヨット」、漁船及商業用航空機

(a) 平時

昼夜ヲ通シ国旗ノ如何ヲ問ハス積荷ノ種別ニ拘ハラス何
等ノ手續課税賦課ヲ要スル事ナク航行通過ノ完全ナル自

ス) 軍用航空機(海軍陸軍或ハ空軍所屬ノ国有航空機
ヲ包含ス) 民間航空機

(a) 平時

昼夜ヲ通シ国旗ノ如何ヲ問ハス何等ノ手續課税或ハ賦課
ヲ要スルコトナク通過ノ完全ナル自由
但全勢力ニツキ下記ノ留保ヲ付ス

- 1 一 国力海峡ヲ通過シテ輸送シ(黒海ニ於テ維持シ)
得ヘキ全勢力ハ其ノ海峡通過當時ニ於ケル最強ナル黒
海沿岸国ノ有スル全勢力ヨリ大ナル事ヲ得ス
- 2 黒海沿岸諸国間ニ海軍力制限ニ関スル協定成立ノ場
合ニ於テハ列国ハ各個二三隻ヨリナル海軍力(内一隻
ニ限リ一万噸ヲ越ユルコトヲ得)海峡ヲ通過シテ輸送
シ(黒海ニ於テ維持)スルノ權利ヲ留保ス

(b) 戦時 土古カ中立国ナル場合

昼夜ヲ通シ国旗ノ如何ヲ問ハス何等ノ手續課税或ハ賦課
ヲ要スルコトナク第二条(a)ト同一ノ制限ノ下ニ通過ノ完
全ナル自由

但右制限ハ如何ナル交戦国ニ対シテモ其ノ黒海ニ於ケル
交戦権ノ行使ニ影響ヲ及ホスカ如キ方法ニヨリ適用セラ

由

(b) 戦時 土古カ中立国ナル場合

昼夜ヲ通シ前記ト同一ノ条件ノ下ニ航行通過ノ完全ナル
自由

土古ハ如何ナル中立義務モ前掲ノ自由ヲ害セサルモノ
ト認ムル事ヲ約ス第二条(b)ニツイテモ同シ

(c) 戦時 土古カ交戦国タル場合

中立国船舶又ハ商業用航空機カ敵国人ニ援助ヲ供与セサ
ル場合ニ於ケル右船舶航空機ノ航行ノ自由、土古ハ右
船舶及航空機ニ対スル臨検搜索権ヲ有スヘシ
右目的ノ為航空機ハ土古カ指定スル地域ニ着陸スヘキ
モノトス

土古カ敵船ノ海峡使用ヲ禁遏スル為ニ採ル手段ハ中立
国船舶ノ自由通過ヲ妨害スルカ如キ性質ノモノタルヘカ
ラス

土古ハ船舶ニ対シ前記ノ目的ノ為ニ必要ナル指揮ヲ与
ヘ或ハ水先案内ヲ付スル事ヲ約ス

第二条

軍艦及軍用船舶(補助艦、運送船、航空母艦ヲ包含

レサルモノトス

交戦国ノ軍艦或ハ軍用航空機ハ海峡地帯内ニ於テ拿捕臨
検搜索ソノ他ノ敵対行為ヲ為ス事ヲ禁止セラル、又不可
抗力ニヨル場合ノ外海峡通過所要時間ヲ超過シテ二十四
時間以上滞泊スル事ヲ禁止セラル補給及修繕ニツイテハ
海戦ノ場合ニ於ケル中立国ノ權利義務ニ関スル一九〇七
年海牙第十三条約ノ規定ニ従フ

(c) 戦時 土古カ交戦国タル場合

何等ノ手續課税或ハ賦課ヲ要スルコトナク但第二条(a)ト
同一ノ制限ノ下ニ中立国軍艦ノ通過ノ完全ナル自由
中立国ノ海軍用航空機ハ第二条(a)ト同一ノ制限ノ下ニ海
峡通過ヲ為スコトヲ得但自ラノ危険ニ於テスヘク且又ソ
ノ中立性ヲ判定スル為メニスル臨検ニ服スヘキモノトス
右目的ノ為航空機ハ土古ノ指定準備スヘキ地域ニ着陸
スヘキモノトス

土古カ敵船ノ海峡使用ヲ禁遏スル為ニ採ル手段ハ中立
国船舶ノ自由通過ヲ妨害スルカ如キ性質ノモノタルヘカ
ラス、土古ハ船舶ニ対シ前記ノ目的ノ為ニ必要ナル指
揮ヲ与ヘ或ハ水先案内ヲ付スルコトニ同意ス

註 土耳其ト平和状態ニアル国ノ潜水艦艇ノ海峡通過ハ

水面航行ニ依リ之ヲ行フ

第三条 港湾海峡及黒海ニ於ケル碇泊

- (a) 第一条及第二条ハ海峡及ソノ上空ヲ通過スル船舶及航空機ニ之ヲ適用ス而シテ右ハ土耳其カ一定時ニ土耳其ノ海湾ニ入港スル或ル国ノ軍艦及海軍用船舶ノ隻数及ソノ碇泊時間ニ関シテ必要ト認ムル規則ヲ制定スル權利ニ影響ナキモノトス

- (b) 黒海沿岸国ハソノ港湾ニ付キ同様ノ權利ヲ有スルモノトス

- (c) 千九百十四年以前ニ於テ海峡地帯内ニ警備艦ヲ保持スルノ權利ヲ有シタル締約国ハ從來ト同様ノ条件ノ下ニ継続シテソノ權利ヲ行使スル事ヲ得

- (d) 「ダニニューブ」河上ニ船舶ヲ保持スル權利ヲ有スル締約国ハ継続シテソノ權利ヲ行使シ且必要ノ場合ニ他ノ船舶ヲ以テ右船舶ニ換フルノ權利ヲ有ス

第三条(c)及(d)ニ掲ケタル船舶ハ第三項ニ掲ケタル船舶ニ加算セラルヘキモノトス

(付記五)

ニ至ルマテノ地域

西、「アクブナル」「クトフク」「チエクメジャ」線ニ至ルマテ

但シ「コンスタンチノーブル」ノ特別ノ制度ニ関スル留保ヲ付ス(第四条参照)

- (2) 「マルマラ」海内ノ全テノ島嶼

- (3) 「エーゲ」海内ノ次ノ島嶼「サモスラキ」「レムノス」「イムブロス」「テネドス」

第三条

武装解除ハ左記ノ方法ヲ包含ス

現存ノ防禦工事(美術的工作物ヲ除ク)及陸軍及海軍ノ施設ノ破壊、新ナル築造ハ之ヲ禁止ス

領水及上記ノ種々ノ地帯及島嶼ニ於テハ如何ナル潜水機関ノ存立ヲモ許サス

国内ノ治安ヲ維持スルニ必要ナル憲兵隊ヲ除キ如何ナル軍隊モ武装解除地帯ニ駐屯シ若クハ之ヲ通過スル事ヲ得ス
右憲兵ノ数ハ「コンスタンチノーブル」ニ適用アル特別ノ規定ニ関スル留保ヲ除キ)全土耳其古領域ニ使用セラルル憲兵ノ平均数ニ準シテ定メラルヘキモノトス

大正十一年十二月九日在ローザンヌ近東平和會議代表發内田外務大臣宛電報第四四号

海峡ニ関スル連合国側案海峡ノ武装解除地帯ノ項仮和訳文

第四四号(別電) (十二月十日接受)

「海峡」ナル語ハ「ダルダネルス」、「マルマラ」海及「ボスフォラス」ヲ包含ス

第一条

海峡ノ自由通過ヲ障害シ得ルカ如キ永久的施設ハ海軍用タルト陸軍用タルト問ハス之ヲ施スコトヲ得ス

第二条

左ニ指定スル地帯及島嶼ノ武備ハ之ヲ解除スヘキモノトス
(1) 「ダルダネルス」及「ボスフォラス」ノ水路ノ兩岸ハ下ニ定メタル兩岸ノ地区マテ

「ダルダネルス」——北西、「ガリポリ」半島。右地域ハ「カラサルリ」——「ロドスト」線ノ南東(「ロドスト」ハ含マス)トス南東、海岸線及「エスキ、スタムブル」「テネドス」ノ対岸)ト「ビガ」「カラビガ」ヲ連ナル線ニ含マルル地域

「ボスフォラス」東、「シレ」「ゲブゼ」「ダリジャ」線

第四条

首府ノ特別ナル必要ニ鑑ミ「コンスタンチノーブル」ト其隣接区域ニ守備隊ヲ置ク事ヲ得而シテ其兵力ハ招請諸国ト土耳其政府トノ間ニ協定セラルヘキモノトス(最大限一万人)

第五条

若シ戦時ニ土耳其カ交戦国ノ權利ヲ利用シテ何等カノ方法ニヨリ武装解除ノ状態ヲ變更セシ場合ニ於テハ平和克復ト同時ニ戦前状態ヲ回復スルノ義務ヲ負フモノトス

(付記六)

大正十一年十二月九日在ローザンヌ近東平和會議代表發内田外務大臣宛電報第四五号
第一委員會第十二回会合ニ於ケル海峡問題討議ノ模様報告ノ件

第四五号

(十二月十日接受)

八日午後第一委員會第十二回会合ニ於テ議長ハ土国全権ガ同盟側ノ海峡案ニ対シ大体異存ナキノ態度ニ出デタルヲ喜ブト共ニ土国案ノ諸原則中
第一点ニ関シ陸海軍事的見地ヨリ云ヘバ同盟側案ハ充分ノ保障ヲ有スト思考スルモ保障ノ政治的方面ニ関シテハ尚土国法律家ト連絡シテ研究セント欲ス

第二ニ関シ同盟側ノ原則ハ正当ナリ、但土国側ノ解釈ニ鑑ミ此ノ点ニ関シ詳細ナル「フォルミュール」ヲ協定スルニ吝ナラズ

第三点ニ関シテハ双方ノ間何等意見ノ相違ナシトテ土国全權ガ指摘セル七点ニ入り

一、ニ関シ「マルマラ」海ハ地理上両海峡ノ連続ニシテ土国ニ認メタル自由通過ニ関スル大原則ノ適用ヲ受クベキモノナレドモ右自由ヲ妨ゲザル範圍ニ於テ付近鉄道

港湾ノ防備ニ関シ土国委員ト協議スルニ吝ナラズ

二、「ボスフォール」ノ武備撤廃問題ニ付テモ緩和策ヲ講ズベシ

三、海峡ノ一方ヨリ土国軍隊ヲ他方ニ通過セシムルニ異議ナシ

四、ハ研究ヲ要スルモ解決難キニ非ラズ近ク陸海軍条項討議ノ際之ヲ議スルヲ得ベシ

五、ハ其ノ提議明確ナラズ尚土国専門家ト協議ノ要アリ

六、ハ政治問題ナリ問題ノ諸島ノ武備撤退ニ付テハ既ニ意見ノ合致アルモ此等ニ関スル主權ノ問題ハ未決ノ儘ナリ(往電第一九号第一委員会第六回参照)希臘人多数

カ土国全權及同政府ハ他国全權ト共ニ本問題ヲ解決シテ世界ノ感謝ニ値スルニ至ルベシ

次デ露国全權ハ右土国案ニ対シ主義上同感ノ意ヲ表スルト共ニ来ル海峡規則ノ各項ニ就テハ一々詳細ノ吟味ヲ加ヘタル後其ノ賛否ヲ決スベシト留保シ議長ハ前記自己ノ弁明ニ対シ更ニ土国全權ノ意見ヲ求メタルガ同全權ハ

(一)議長ガ言及シタル陸海軍条項ノ如何ハ土国ノ死活問題ニシテ海峡問題ノ解決ニ甚大ナル影響ヲ有ストテ先ヅ之等条項ニ関スル同盟ノ立場ヲ聴カンコトヲ求メ

(二)墓地ニ関シ之ヲ所有セントスル議長ノ趣旨審ナラズトテ更ニ説明ヲ求メ之ニ対シ議長及仏国全權ヨリ英国政府ガ「セント・ヘレナ」ナル奈翁ノ墓地ヲ仏国政府ニ譲与シタル事実及「セイブル」条約第二一八条ニ付指摘シタルガ結局近ク陸海軍条項ノ審議ヲ開始スルト共ニ差当リ彼我専門家ヲシテ海峡問題ノ審議ヲ繼續セシムルコトナレリ、露国全權ハ海峡問題ニ関スル全般的参加ヲ諒解アルヲ楯トシ露国委員モ右専門委員ノ審議ニ列セシメラレシコトヲ求メタルガ議長ハ右ガ分科会ニアラズシテ單純ナル意見交換ニ過ギズトノ辞柄ノ下ニ之ヲ拒絶セリ

ヲ含ム此等諸島ニ関スル土国要求ノ詳細ナル理由ヲ聴カンコトヲ欲ス

七、ニ関シテハ同盟側軍事専門委員ハ充分其ノ意ヲ捕捉セズ、更ニ彼我専門家ノ研究ヲ要スベシ

ト述べ尙新事項トシテ大戦ノ犠牲トナリタル同盟側陸海軍人ノ墓地ハ同盟側ニ取り神聖ナル地域ナルヲ以テ土国側ニ於テ此ガ譲与ニ異議ナキヲ信ズル旨ヲ述べタリ

此時林ハ彼我主張ノ間ニ大ナル逕庭ナク充分妥協ノ余地ヲ示スヲ認メタルヲ以テ事態促進ノ趣旨ヲ以テ左ノ陳述ヲ行ヘリ

今日迄余ハカメテ沈黙ヲ持シ来リタルヲ以テ或ハ帝国ガ現時ノ問題ニ対シ特ニ利害關係ヲ有セザルガ為ナリトナスモノアランモ大ニ然ラズ、日本ハ通商航海上地中海ニ重大ナル利害關係ヲ有スル国ノ一ニシテ今ヤ其ノ通商關係ヲ黒海ニ進メントス、從テ余ハ一昨日ノ會議ニ於ケル議長ノ提案ニ全然賛成ナルト共ニ帝国ノ立場ハ當時米國代表者ノ言明ト一致ス、今朝土国委員ノ對案ヲ聞クニ其ノ妥協の誠意真ニ喜ブベク今明快ナル議長ノ答弁ニ接スルニ人ヲシテ此重要問題解決ノ近キニアルヲ思ハシム、議長ノ口吻ヲ借ラン

在欧米各大使及希、羅、土へ転電セリ

(付記七)

大正十一年十二月二十日在ローザンヌ近東平和會議代表發内

田外務大臣宛電報第六三号

米國委員ヨリ海峡ノ自由ニ関スル同盟ノ見解ヲ議事録ニ留ムルヨウ要求ノ件

第六三号

(十二月二十一日接受)

往電第五九号ニ関シ米國代表委員ハ會議議長宛十八日付公文ヲ以テ別電第六四号米國政府ノ見解ヲ會議ノ記録ニ留ムムコトヲ要求セリ

(付記八)

大正十一年十二月二十日在ローザンヌ近東平和會議代表發内

田外務大臣宛電報第六四号

海峡ノ自由ニ関スル米國政府ノ見解

第六四号

(十二月二十一日接受)

The Representatives of the United States, on behalf of their Government, take position that full freedom of the Straits to all the nations of the world without discrimination would be served best by reliance on the treaty rights and the agreements rather than a Joint International Commission of the Straits.

This view has been made known already to the Delegations which have desired to know our attitude.

(付記九)

大正十一年十二月二十一日在ローザンヌ近東平和會議代表發
内田外務大臣宛電報第六八号

海峡問題ニ関スル連合国側案ノ討議ノ経緯報告ノ件

第六八号 (十二月二十二日接受)

往電第四五号ニ関シ

其ノ後海峡ノ自由及武備撤廃ニ付テハ彼我専門委員ノ間ニ
又海峡ノ保障並同管理委員会ニ関シテハ専ラ起草委員会ニ
於テ意見交換ノ結果(起草委員会ノ経緯ニ付テハ別ニ報告
ス)夫々別電ノ如キ案成リ十八日ノ第一委員会ニ於テ議長
ハ同盟側ノ名ニ於テ此等ヲ照会シ同日ヨリ二十日ニ亘リ三
回ノ討議ヲ重ネタリ其ノ間議長ハ同盟側案ガ何等土国ノ主
権ヲ害スルコトナキノミナラズ土国ノ主権ニ鑑ミ出来得ル
限リノ譲歩ヲ為シタルモノナルコトヲ説キ仏伊同僚ト共ニ
連盟ヲ後援トスル保障条項ガ土国連盟加入ノ暁同規約第十
条ノ一般の保障ト共ニ土国領土ニ対スル二重ノ保障ヲ構成
スル所以ヲ高調シ右ニ対スル土国側ノ意見ヲ求メタルニ同
国全権ハ同盟側案ノ成ルヤ決定権ナキ土国専門家トノ連絡

アリタルノミニテ而モ同国専門家ノ意見ハ多ク採用セラレ
ザリシトテ別ニ自己ノ案(郵送)ヲ提出シ改メテ本會議若ハ
分科会ノ討議ヲ希望シ露国全権モ亦一案(郵送)ヲ提出シ
テ同盟側案ヲ非難シ土国ノ独立ヲ毀損シ從テ露国ノ南部ヲ
危カラシムルモノトシ連盟ノ保障ノ頼ムニ足ラザルヲ説キ
自国案ニ対スル詳細ナル研究ヲ求メタリ議長ハ右兩國案ニ
対シ三週間以來公式非公式ノ会合ニ於テ海峡問題ヲ討議シ
来レルニ今更突如トシテ新提議ヲ為スノ不都合ヲ難シ露国
案ガ海峡ノ閉鎖ニ傾ク同国從來ノ主張(往電第三八号)ヲ
具体化シタルモノニシテ到底妥協ノ余地ナキコト又土国ノ
新提議ガ同盟側案ヲ根本的ニ覆スノ虞アルコト保障条項ガ
土国ノ為ニ設ケラレタルモノニシテ同盟側政府トシテハ是
以上ノ責任ニ当ルコト能ハズ從テ土国ニ於テ之ニ不満足ナ
ルニ於テハ之ヲ撤回スルノ外ナキコト要スルニ同盟側案ガ
利害關係国全体ニ取り最モ衡平ニシテ而モ土国ニ取りテハ
安ラカニ經濟的發展ヲ為スノ保障ヲ与フルニ足ルモノアル
コトヲ述べ講和會議ノ推移ヲ利用セル世界ノ輿論ニモ鑑ミ
交譲妥協ノ精神ヲ以テ同盟側案ニ対スル最後ノ回答ヲ為サ
ンコトヲ求メタルガ土国全権ハ二十日ノ會議ニ於テ著シク

其ノ態度ヲ緩和シ世界平和ノ為異常ノ犠牲ニ甘ゼントスト
ノ前提ノ下ニ左記諸点ニ付後日交渉ノ余地ヲ残シタル外殆
ド全部同盟側案ニ同意スベキヲ言明セリ

一、「ダーダネル」付近ノ島嶼ニ関シ希国ニ土民兵ヲ募集
教育集中スルノ権ヲ許シ又武裝無キ同海峡沖ニ希国艦隊ヲ
送ルノ自由ヲ許スニ反対スル事

二、「ダーダネル」ト不可分ノ關係ニ在ル「インブルス」
「テネドス」「サマトラス」ノ主権ヲ土国ニ回復スル事

三、「ガリポリ」半島ニ五千乃至同盟側ニ於テ適當ト認め
ル数ノ防備兵ヲ駐屯セシムル事

四、「カピチュレーション」ヲ連想セシムル「スタシヨネ
ール」ノ維持ニ反対スル事(最初同盟側ノ案ニ依レバ從來
之ヲ維持スルノ権ヲ有シタル国ニノミ此権ヲ与フルノ規定
ナリシガ治外法権均霑ノ問題モアリ苟モ他國ト均等ノ地歩
ヲ失ハザラムガ為英仏伊同僚ト協議ノ上同盟側最終案ニハ
将来土国ニ大使館ヲ設クル国モ同様ノ権ヲ有ストノ一項ヲ
挿入シ我權利ヲ留保シ置ケリ)

五、海峡委員會ノ必要ヲ認めザルモ之ヲ設クルトセバ同委
員会ニ武備撤廃地帯ヲ監視セシメ又航路行政ヲ司ラシムル

ハ其意義ニ非ザレバ土国ノ内政干渉ト成ルノ虞有リ其權限
ヲ縮小シテ軍艦ノ通航規則遵守ヲ監視セシムルニ止メ又同
委員會ニ希国代表者ヲ加ヘザル事

六、海峡ノ保障ニ関シテハ英、仏、伊、日、露五國ガ单独
並連帶シテ之ガ任ニ当ル可キヲ定ムル土国案ノ有効ナルニ
如カザル事

右ニ対シ議長ハ特ニ第三、四、五ノ点ヲ指摘シテ充分妥協
ノ余地アル事ヲ説キ土国全権ノ交譲の態度ヲ多トシタルガ
林モ又仏、伊同僚ト共ニ議長ノ言ニ唱和シ置ケリ
斯ノ如クシテ海峡問題ハ今後委員會ノ手ヲ離レ非公式会合
其他主トシテ起草委員會ノ事業ニ移リタル次第ニテ海峡規
定ノ確定迄ニハ尚多少ノ曲折アル可キモ孰レモ日本ガ本件
ニ関シ差別的待遇ヲ受ケザル事ハ最早ヤ疑ヒ無キモノノ如
シ(露土兩案共日本ヲ海峡委員會ニ加ヘ居レリ)尚二十日
ノ委員會ニ於テ露国全権ガ默シテ言ハザリシハ彼等今後ノ
態度ト共ニ會議内外ノ注意ヲ喚起シ居レリ
在欧米各大使及希、羅、土ヘ転電セリ

(付記一〇)

大正十一年十二月二十三日在ローザンヌ近東平和會議代表發

内田外務大臣宛電報第六九号

海峡保障案及ビ海峡委員会案要領

第六九号(別電) (十二月二十四日接受)

往電第六八号ニ関シ

「甲」海峡保障案「乙」海峡委員会案要領左ノ通

甲、海峡並其付近ノ武備撤廃ガ土国ニ取リ軍事上不当ナル危険ト成ラザル事ヲ保障セムガ為締約国ハ次ギノ協定ヲ為ス

(イ)海峡自由ニ関スル規定ノ審判又ハ戦争ノ為海峡航行ノ自由若クハ武備撤廃地帯ノ安全ガ脅カサル場合ハ締約国ハ遲滞無ク单独又ハ共同シテ連盟理事会ニ訴ヘ執ル可キ措置ノ決定ヲ求ム可シ

(ロ)海峡委員会モ亦上述ノ如キ状態有リト認ムル時ハ其事情ヲ理事会ニ訴フル事ヲ得

締約国ハ右ニ関シ理事会ノ決定ス可キ措置ニ協力スル事ヲ約ス

(ハ)理事会ニ於テ全会一致ヲ得ザル時ハ各締約国ハ理事会ガ三分ノ二ノ多数ヲ以テ勧告ス可キ措置ヲ单独ニ執ル事ヲ得可シ審判国ノ投票ハ右理事会ノ表決ニ含まザルモノトス

旨報告ノ件

第八六号 (一月六日接受)

海峡保障案項同盟側第二案ハ四項ヨリ成レル処第一項ハ往電第六九号甲第一項ト同趣旨

第二項ハ左ノ通

Si une violation des dispositions sur la liberté de la passage, une attaque proposée en quelque acte de guerre ou menace de guerre venaient à mettre en péril la liberté de la navigation des détroits ou la sécurité des zones délimitées, les Hautes Parties Contractantes et dans tous les cas la France, la Grande-Bretagne, l'Italie et le Japon, les empêcheront conjointement par tous les moyens dont elles disposent.

第三項ハ前項予見ノ行動終了後海峡規定遵守回復ノ要ヲ規定シ

第四項ハ以上ノ規定ガ締約国ノ連盟員タルノ権利義務ニ影響ナキコトヲ規定ス

在欧米各大使、希、羅、土公使へ郵送セリ

五 一月十日 内田外務大臣ヨリ
在ローザンヌ近東平和會議代表宛(電報)

乙、

(イ)君府ニ土、仏、英、伊、日、並ニ勃、希、羅、塞(米露ハ本協約加入ノ日ヨリ)ノ代表者ヨリ成リ土国代表ヲ議長トスル海峡委員会ヲ設ク

(ロ)委員ノ給与ハ其所屬国政府ノ負担トシ其他委員会諸費用ハ各国ノ均分負担トス

(ハ)委員会ハ水先案内引船燈台浮標等海峡ノ通航ニ必要ナル諸設備ヲシテ艦船ノ安全通過ニ必要ナル条件ニ適合セシム可ク又艦船通過ノ自由ニ関スル規則ヲ勵行セシムル義務ヲ有ス

(ニ)委員会ハ連盟ノ「オウスピース」ノ下ニ其ノ事業ニ当リ連盟ニ年報ヲ提出ス可シ

(ホ)委員会ハ各国ニ対シ全然公平ナル精神ヲ以テ其ノ事業ノ達成ニ必要ナル規則ヲ作成スルモノトス

在米大使へ転電シ在欧各大使、希、羅、土へ暗号ノ儘郵送セリ

四 一月五日 在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

海峡保障案項連合國側第二案ノ四項ニツキ要

海峡保障問題ニ関スル連合國側第三案支持方

訓令ノ件

第二三号

貴電第八五号ニ関シ帝國政府ハ海峡ノ施政ニハ参加スルモ海峡保障ノ責任ハ連盟員タル地位ヨリ帰結シ得ヘキ程度ニ止メタキ意向ナル処貴電ニ所謂第三案ハ幸右保障行為ノ決定ヲ帝國力常任理事ヲ出セル連盟理事会ニ委ネ居リ我ニ不利ナル決定ヲ妨ケ得ル点ニ於テ好都合ト認メラルルニ付貴官ハ極力同案ヲ支持セラレタシ尚第二案又ハ類似ノ案ニシテ主義上予メ各国間ニ十分協議ノ機会ヲ与ヘスシテ応急措置ニ参加スルノ義務ヲ負担セシムルカ如キモノニ對シテハ遠隔ナル地理的關係上帝國力之ニ参加スルコト事實困難ナルヲ理由トシテ反對セラレ万一大勢上之ヲ阻止シ難キ場合ニハ問題ノ重大ナルニ顧ミ一応留保ノ上請訓セラレタシ在欧米各大使及希、羅、土へ暗号ノ儘郵送アリタシ

六 一月十一日 在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

對土條約連合國側最終案提出ニ関スルカーゾン卿ノ意向報告ノ件

第九一号 (一月十二日接受)

十一月林「カーゾン」ヲ往訪時局收拾ニ関スル今後ノ方針ヲ問ヒタルニ同卿ノ内話スルトコロ左ノ通

来週中従来討議ノ經過ヲ参酌シ講和条約ノ大綱ヲ定メタル同盟側最終案ニ説明ヲ付シテ土国側ニ交付シタキ考ナリ土国側ヨリモ予テ用意シツツアリト伝ヘラルル其条約案ヲ提出スルコトアルベシ然レドモ同盟側案ハ充分土国側ノ主張ヲ考量シタルモノナルヲ以テ先方ノ案ニハ耳ヲ仮サズ当方案ニ対シ先方ノ決答ヲ求ムルコトトスベシ但土国側ニ於テ我案ニ対シ直ニ回答セズ或時日ノ考量期間ヲ求メ若クハ之ヲ「アンゴラ」ニ持参シテ親シク政府当局ト協議スルノ必要アル旨ヲ申出ヅルコトアルベキ此場合之ニ応ズルノ他ナカルベシ尚自分ハ来週ニ於テ一時当地ヲ去リタキ考ナリ云々

在欧米各大使及希、土、羅へ転電セリ

七 一月十三日 内田外務大臣ヨリ
在ローザンヌ近東平和會議代表宛(電報)

海峡委員会ニ参加スル場合ノ便益ニツキ意見

回電方要請ノ件

一、往電第九二号海峡保障ニ関スル同盟側第三案ハ其ノ後「カーゾン」ノ承諾ヲ得土国側ニ於テモ之ニ異議ナキカ如キ模様ナルヲ以テ目下同盟側ニ於テ本案以上ノ責任ヲ採ルノ要ナキハ殆ント疑ナキモノノ如シ従テ帝国ノ責任モ連盟員タル地位ヨリ帰結シ得ヘキ程度ニ止ルヘク就テハ御来示ノ如ク *et le Japon* ノ一句ヲ削除スルノ必要ナシト認メララル

二、海峡委員会代表者ハ各国トモ在土大使館参事官又ハ書記官ヲ以テ之ニ充ツルノ予定ナルヲ以テ委員会ノ一般經費モ多額ニ上ルコトナカルヘク且将来土国ニ大使館ヲ有スヘキ大国トシテ本委員会ニ代表者ヲ有セサルハ直接間接種種ノ点ニ於テ不都合ヲ感スヘシト思考ス

三、委員会ノ権限ハ目下非常ニ縮小セラレ軍艦通航監視ノ外ハ土国ノ海峡水路行政部ト連絡シテ通商航海上有益ナル材料ヲ(不明)年報ト共ニ連盟ニ提出シ間接ニ右土国ノ水路行政ヲ監視スルニ過キサレトモ将来露国問題ニ関連シ又ハ近東形勢ノ変化如何ニ依リテハ存外重要ナル役割ヲ演スルニ至ルヤモ保シ難ク其ノ機ニ至リ参加ヲ主張スルモ時機既ニ遅カルヘク且此際本委員会ニ加入シテ帝国ノ地位ヲ留保シ置クハ他日万一我参加ヲ必要トスル他ノ國際委員会成

第二五号

貴電第九二号末段ニ関シ海峡委員会ノ権限中武装解除地帯監視權ノミナラス水路行政ノ權ヲモ拋棄スルニ於テハ帝国カ往電第二三号ノ如キ海峡保障ノ責任並管理費用ヲ負担シテ迄モ同委員会ニ参加スルノ必要アリヤ疑ナキ能ハス寧ロ強テ参加ストセハ貴電第八六号第二項中ヨリ *et le Japon* ナル一句ヲ削除セシメ保障ノ責任ハ連盟員タル地位ヨリ帰結シ得ヘキ一般的ノモノニ止ムルカ或ハ場合ニ由リ全然本委員会ニ参加セサルヲ得策トスルヤニ思考セラルル処海峡委員会ノ権限其他ヨリ帝国ノ参加カ将来我商船等ニ対シ如何ナル便益ヲ供シ得ヘキカ御意見至急回電アリタシ

在欧米各大使及希、羅、土へ暗号ノ儘郵送アリタシ

八 一月十五日 在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

海峡委員会参加ノ有利ナル旨回申ノ件

付記 一月十六日遠藤海軍大佐ヨリ佐久間外務事務官宛

海峡管理問題ニ関スル意見開陳ノ件

第九九号 (一月十六日接受)

貴電第二五号ニ関シ

立ノ場合之ニ対スル我ノ参加ヲ容易ナラシムルノ利アルヘシ

四、以上ノ考慮ノ下ニ本全權等ニ於テハ帝国永遠ノ策トシテ本委員会参加ヲ以テ有利ナリト思考スル而已ナラス本件ハ貴電ヨリノ御訓令中ニモ見ヘ從來本全權等ニ於テ諸大国同僚ノ了解ヲ得來レル行懸リモアリ殊ニ既報ノ如ク帝国ノ本委員会ニ於ケル地位ハ啻ニ同盟側案ノミナラス露土兩案孰レニモ保障セラレ居ル次第ニ付其ノ儘参加スルコト致シタク何分ノ儀折返シ御回電アリタシ

(付記)

一月十六日海軍省遠藤大佐ヨリ外務省佐久間事務官宛

海峡管理問題ニ関スル意見開陳ノ件

先程電話ニテ申上ケタル近東會議ニ於ケル海峡管理問題ニ関スル意見ノ要領ヲ左ニ一ツ書ニ致候御判読ヲ乞フ

一、本問題ニ関シテハ近日受領スヘキ會議全權ノ電報ヲモ闡明ノ上ナラデハ確定的ノ意見ハ御答致兼ヌル次第ナルモ大体海軍トシテハ従前ノ方針ヲ支持致度

一、外相ヨリ全權ニ宛テラレタル第二五号至急電中ノ第一段ノ意見ハ海峡保障責任負担ノ四大国中ヨリ脱退シ些カ

平武士ノ席ニ落チントスルモノナルガ管理費ノ分担ハ免ルコトナク単ニ實際ノ与力ヲ伴ハサル名義上ノ義務ヲ免ルルノミナルヘシ

一、其ノ第二段ノ意見ハ全然海峽管理ヨリ手ヲ引カントスルモノニシテ「セーブル」条約締結以前ニ於テ帝国ノ採リタル主義及今次ノ近東會議ニテ採リ来レル主義態度ヲ豹変スルコトナリハセヌカ斯克テハ列國ノ首肯シ得ル重大ナル理由ナキ限リ國際信義ノ維持ニ困難ヲ生スヘシ

一、帝国カ対土問題ニ割込ミ得シハ大戰ニ依ル所謂五大國ノ一トシテノ情勢ニ由ルモノニシテ欧州ノ重大問題ニ椅子ヲ擁スルコトハ國際間ニ重キヲナス手段トシテ至要ノモノナリ之ヲ些々タル利害ノ打算ノミニテ棄ツルハ國家百年ノ長計ニアラサルヘシ

一、海峽管理ノ範圍内ニ「兵力ノ通過ニ關スルコト」ヲ包含スル限リ露國海軍ノ将来其他ヲ考慮スレハ海軍トシテハ帝國カ海峽管理機關ノ重要ナル地位ヲ占ムルコト有利ナリ

一、将来土國ニ帝國公館設置ノ場合ニモ海峽管理機關ニ有スル勢力ノ如何ハ帝國ノ利害ニ与フル影響尠カラサルヘシ

テノ帝國ノ地位ヨリ見ルモ將又軍事上ノ見地ヨリ謂フモ得策ト認メラルルニ付本問題ニ關シテハ往電第二三号既定ノ方針ヲ維持セラレタシ

右ハ貴電第九九号ト共ニ在欧米各大使及希、羅、土ヘ転電アリタシ

(付記)

一月十八日海軍省遠藤大佐ヨリ佐久間外務事務官ヘノ電話
海峽委員會参加ニ海軍側賛成ノ件

(一月十八日)

海軍省遠藤大佐ヨリ電話ニテ

「ロザン」来電九九号ノ件ハ海軍省ハ全權ノ意見ト全然同一ナリ可然願フト申シ越セリ

佐久間兄

一〇 一月二十七日

在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

航海ニ關スル三国協同案文ニツキ仏國側ノ懇

望ニ妥協方請訓ノ件

別電

一月二十七日在ローザンヌ會議代表發内田外務大臣宛電報第一一七号

航海ニ關スル三国協同案中ノ新項

第一一六号 至急

(一月二十八日接受)

一 ローザンヌ平和會議關係 一〇

シ

要之、海峽管理權限ノ縮小位ノコトニテ目前ニ占メ得ル大國トシテノ地位ヲ抛ツノ要ナク又抛ツノ時機ニモアラスト思惟セラル

右ハ先程申上タル諸点ナルカ御判讀被下度若シ不明ノ点アラハ参趣ノ上申述べ候尚情況ヲ詳承シタル上已ムヲ得サル場合ニ於テ迄モ第一段ノ意見ニ反対スル次第ニハ無之申添候

九

一月十八日 内田外務大臣ヨリ
在ローザンヌ近東平和會議代表宛(電報)

日本ノ海峽委員會ヘノ参加ハ得策ナルニツキ

既定ノ方針維持方訓令ノ件

付記 一月十八日海軍省遠藤大佐ヨリ佐久間外務事務官ヘノ電話

海峽委員會参加ニ海軍側賛成ノ件

第二八号 至急

貴電第九九号ニ關シ御申越ノ趣旨並海軍側ノ意見ヲモ参酌シテ篤ト考量ヲ遂ケタルカ帝國カ同盟側第三案ノ責任程度即チ連盟員タル地位ヨリ帰結シ得ヘキ程度ニ於テ海峽委員會ニ参加スルハ今次平和条約全般ニ於ケル主要連合國トシ

財政經濟条項ハ仏國ニ於テ大ニ重キヲ置キ過日「ボンパール」帰巴ノ際英伊專門家モ同行巴里ニテ協議ノ結果二十六日廻付セラレタル航海ニ關スル三国協同案ヲ見ルニ別電第一一七号ノ如キ新項ヲ設ケ戦前ノ特殊地位ヲ留保シ居レルヲ發見セリ

依テ二十六日佐藤ヲシテ篤ト仏專門委員ヲ説カシメタル後落合「ボンパール」ヲ往訪本件ニ關シ日本ニ於テ差別的地位ヲ甘受シ得サルコト並利害關係國殊ニ仏國ニ於テ強ヒテ原案維持ヲ主張スルニ於テハ我方トシテ會議ニ於テ之ニ反對ノ提議ヲ為スノ外ナキモ斯テハ同盟側ノ不一致ヲ曝露シ目的達成上ニモ支障ヲ来スヘケレハ日本モ本件ニ均霑スル様条項ヲ修正スル要アルヘキ旨申入レタル処「ボンパール」ハ本件ハ明日ノ議題ニ上ルヘク到底修正ノ暇ナキノミナラス元来右条項ハ小亜細亞ノ沿岸貿易ニ從事セル仏伊會社等カ今俄ニ其ノ權利ヲ奪ハルル時ハ破綻スルノ虞アルヲ以テ此ノ急ヲ救ウカ為是等ニ對シ謂ハバ五ヶ年ノ清算期間ヲ与フルノ目的ニ出テ仏伊等ノ為何等特殊權利ヲ留保セントスルモノニ非ス然ルニ今日日本ヲモ之ニ均霑セシメントスルニ於テハ条項全部土國ノ排斥スル処トナリ日本ニ何等損

得無キニ拘ラス仏白等ハ之カ為其ノ会社救済ノ目的ヲ達セサルニ至ルヘシ就テハ明日ノ會議ニ於テハ單ニ留保ニ止メ日本政府ノ承諾取付ノ上仏伊ノ立場ヲ支持シ原案維持ニ賛成センコトヲ懇望スト述ヘタリ思フニ今次會議ノ成行頗ル險惡ナル今日殊ニ本件ニ対スル土国側ノ態度未タ明ナラサルニ當リ無礙ニ仏国側ノ希望ヲ却クルモ如何カト存セラルルニ付明日ノ會議ニ於テハ一応我立場ヲ留保シ置クニ止ムヘキモ仏国側ニ於テ或ハ在本邦仏大使ヲシテ直接閣下ノ賛成ヲ求ムルヤモ料リ難キニ付不取敢成行電報ス

尚本件ニ関シ仏伊ニ於テハ随分重大ナル利害關係ヲ有スルニ反シ日本ニ於テハ右短期間ノ事ニ止ルトセハ我交通業上大ナル支障ヲ蒙ムルヘシトモ思考セラレサルニ付テハ此ノ際右五ヶ年以後ニ本件權利延長ノ場合ニハ日本モ之ニ均霑ストノ条項ヲ挿入スルニ於テ或ハ仏国側ノ懇望ト妥協スルモ差支ナカルヘキヤニ思量ス尤モ他ノ重大事項例ヘハ治外法權問題ノ如キニ付テモ先方ニ於テ既得權ヲ楯ニ同一筆法ヲ以テ臨ムカ如キ場合ニハ断然之ヲ排斥スヘク又右妥協ノ時期方法ニ関シテハ篤ト考究ノ上之ヲ行フノ所信ナリ

申入レタル次第ナルガ仏国側ニ於テハ大ニ窮シタル結果同二十七日ノ會議ニ於テ我方ノ同意ヲ得テ別電第一一九号ノ如キ案文ヲ提議シタルヲ以テ我ニ於テハ最早留保ノ必要ナキニ至レリ、尚本件ニ就テハ土国側ニテハ反对シ居レルモ起草委員會ニ於テハ右新案文ヲ条約最終案ニ組入レタリ

(別電)

一月二十七日在ローザンヌ近東平和會議代表宛内田外務大臣宛電報第一一九号

仏国側ヨリ會議ニ提出ノ航海ニ関スル条約案

第一一九号 (一月二十八日接受)

Turquie permettra à titre transitoire pendant période de cinq ans transport de marchandises et voyageurs d'un port turc à un autre port turc aux entre-prises qui ressortissent aux autres Pays contractants, et qui ne seraient point affectées exclusivement à ce trafic.

Zenzen

一二 二月四日 在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ内田外務大臣宛(電報)

各国全權ノローザンヌ引揚ニツキ報告ノ件

第一五五号

(二月五日接受)

往電第一五〇号ニ関シ

一 ローザンヌ平和會議關係 一二 一三

右ニ対シ何分ノ儀大至急御回電ヲ請フ

(別電)

一月二十七日在ローザンヌ近東平和會議代表宛内田外務大臣宛電報第一一七号

航海ニ関スル三国協同案中ノ新項

第一一七号 (一月二十八日接受)

A titre transitoire, Turquie permettra aux entreprises allées dont siège se trouve en territoires alliés à date de la mise en vigueur du présent Traité, et qui pratiquaient cabotage en Turquie dès avant 1^{er} août 1914, de continuer ce même trafic dans les mêmes conditions pendant période de 5 ans.

一 一月二十七日

在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ内田外務大臣宛(電報)

仏国側ニ於テ日本側ノ同意ヲ得タル条約案提議ノ件

別電

一月二十七日在ローザンヌ近東平和會議代表宛内田外務大臣宛電報第一一九号

仏国側ヨリ會議ニ提出ノ航海ニ関スル条約案

第一一八号 (一月二十八日接受)

往電第一一六号ニ関シ

予メ仏国側ト交渉スルヲ適當ト認メタルヲ以テ既報ノ通り

其ノ後対土交渉ハ主トシテ司法制度並經濟問題ニ於テ行惱ミ遂ニ英國全權ハ本四日夕予定ノ通当地ヲ出發セリ仏国全權一行ニ於テモ凡ソ全部引上ニ決定シ居ルモノノ如ク最終的決定ニ至リテハ明朝本全權等ニ面談通報ノ約束ナリ就テハ林ハ予定ノ通五日午後帰任ノ途ニ就クヘク落合以下ハ六日以後出發ノ予定ナリ不取敢在欧米各大使希、羅、土ヘ転電済

一三 三月十日

在土国内田(定礎)大使ヨリ内田外務大臣宛(電報)

トルコ政府ノ近東平和条約対案説明書ノ要旨報告ノ件

別電

三月十一日在土国内田大使宛内田外務大臣宛電報第二七号

右土国対案各条ノ提出理由要領

第二六号

(三月十一日接受)

土国政府カ九日当地英仏伊三国高級委員ニ交付セル平和条約対案ノ説明書ハ冒頭ニ於テ連合国カ一月三十一日条約案ヲ土国全權ニ手交シテ二月四日會議中止ニ至タル迄ノ事情ヲ叙シタル後土国カ其中止後攻撃行為ニ出テサリシハ土国

ノ和平的精神ヲ証スト述ヘ次テ修正セル各条ニ付其理由ヲ説明シ(別電第二七号)最後ニ土国政府ハ連合國モ亦同様ニ平和ヲ希望スルナラハ欧州ノ一地点又ハ成ルヘクハ君府ニ會議ヲ開キタキ旨ヲ述ヘ速ニ回答アラムコトヲ希望セリ英、仏、伊、「チェコ」ヘ転電セリ

(別電)

三月十一日在土国内田大使発内田外務大臣宛電報第二七号
トルコ政府ノ近東平和条約對案各条ノ提出理由要領

第二七号

(三月十二日接受)

別電 土国對案ノ理由要領左ノ如シ

(一)第一編政治条項ニ関シテハ何等根本の変更ナク領土問題ハ連合側提案ニ基キ規定シ只些少ノ修正ヲ加ヘタルニ過ギズ東「トラース」ノ境界線ヲ「マリッザ」河左岸ノ代リニ同河中央線トスル事ヲ要求スルモ連合側ノ承認シタル境界決定ノ原則ニ悖ラザル可シ

(二)第二編財政条項ニ関シテハ最後ニ連合側ニ於テ土国公債ノ分担方ヲ承認セルガ故ニ之ニ基キ第四十六条ヲ修正シタリ土国政府ト公債管理委員會トノ關係ハ国内事項ニ過ギザルガ故ニ之ニ關スル第四十七条ノ規定ハ之ヲ削除シタリ又

一即チ利子及元金支払ニ使用ス可キ貨幣ニ關スル註解ヲ削除シタリ之土国紙幣ノ暴落シタルト土国政府ト其ノ債權者トノ關係ハ私的關係ニシテ國際條約ヲ以テ規定スベキモノニ非ザレバナリ同盟側ハ會議ノ最後ニ於テ土貨百二十万磅ノ賠償金要求ヲ撤去セルガ故ニ賠償ニ關スル財政条項ノ第二章ハ希臘ノ土国ニ對スル損害賠償ヲ規定スル第五十七条ヲ第五十五条ニ改メタル外全部削除セリ

(三)第三編經濟条項ニ関シテハ土国代表者ト同盟國代表者トノ間ニ未タ協議纏ラサリシ多クノ問題ヲ含ムカ故ニ本件ハ平和條約ヨリ離シ追テ利害關係國間ニ交渉ヲ繼續スルコトトセリ

(四)第四編交通及衛生条項ニ関シテハ第二百二十九条及第三百三十条中多少修正セルノミ國境ノ衛生行政ニ三名ノ歐洲人顧問ヲ任命スル土国案ハ其ノ目的ヲ達スルニ有利ナルヘシ
(五)第五編ニ関シテハ第一及第二章ヲ承諾シ第三章ニ多少ノ修正ヲ為セリ

(六)海峡及「トラース」國境ニ關スル條約ニ関シテハ同盟國カ削除セル後者ノ第四条ヲ除ク外皆存置セリ

(七)土国ニ於ケル外國人ノ地位ニ關スル條約ニ付テハ之ヲ

「ドデカネス」及第十二条ニ依リ希臘ニ与ヘラレタル其ノ屬島ハ同一ノ地位ニ在リ前者ニシテ一千九百十二年十月十七日以前ノ土国公債ニ關与スル以上後者モ又同様之ヲ分担スベク十二年間之等二島ヲ占領シ其ノ收入ヲ利用シタル國ハ戦後二島ノ支払フ可キ年賦金ヲ其ノ占領ノ日ヨリ支払ハザル可カラザルガ故ニ「ドデカネス」島ニ對シテハ千九百十二年十月十七日即チ勞山條約ト略同時期其他ノ島ニ對シテハ雅典條約ヲ起点トシ第四十八条及五十二条ヲ修正シタリ

鐵道建設費ノ借入金ハ其ノ時期ニ拘ハラズ總ベテ土國及分離地方ニ於テ分担スベキ債務ニ編入シ又 *garantie kilométrique* ニ關スル債務ニ就テハ海牙ノ仲裁々判ニ付スルニ同意シ得ザルガ故ニ第五十条及付録ニヲ削除セリ土國以外ノ國ノ償還ヲ無利子二十年トシタルニ拘ハラズ土國ニ對シ之ヲ許サザルハ不当ナリ土國ハ之等地方ノ支払フベキ利子及元金ノ大部分ヲ支払タルガ故ニ土國ノ支払タル額ハ之等地方ヨリ土國ニ支払ハザル可カラザルモノト信ズ故ニ第五十三条ヲ修正シ第五十四条ヲ削除シ又第五十六条第一項ノ削除ハ既ニ連合側ノ同意ヲ得タル処ナリ財政條項付録第

Convention d'établissement ト会商シ同盟國ニ於ケル土國人ノ地位ヲモ之ニ規定スルヲ要ス同盟國カ *Capitulation* ノ撤廃ヲ承認シタル上ハ土國ト連合諸國トノ關係ハ一般國際法ノ規定ニ依ルヘキモノニシテ國際法規及慣例ニ依レハ或ル一國人民ノ他國領土ヘノ入國及居住ニ關スル條件其ノ國內ニ於ケル課稅上及司法上ノ位置等ハ相互主義ニ依リ且一定ノ期間ヲ限リテ結ハレタル條約又ハ最惠國條款ニ依リテ規定セラルヘキモノナルニ拘ハラス連合國ノ交付セル條約案ハ前記原則ニ一致セス

(八)通商條約及大赦ニ關スル宣言案ニハ何等重要ナル變更ヲ加ヘス又歐洲人ノ法律顧問ノ五ヶ年間傭聘ニ關スル土國ノ宣言文ハ連合國ト協定セル形式ヲ取リタリ
英、仏、伊及「チェコ」ヘ転電セリ

一四 三月二十三日(着)

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

對土講和準備會議開催ニ關スル件

第一八三号

近東同盟國會議々長「カーゾン」ハ希國ガ本講和準備會議ニ重大ノ關係アルニ付「ベネゼロス」ヲ招請シタルコトヲ

披露シ第一日ハ三月二十一日午後外務省内ニ開會、仏ヨリハ「ボンパール」以下伊ヨリハ「ガロニー」「モンターニヤ」以下參會セルニ付往電第一九四号ノ通り本使長岡公使佐藤參事官出(脱)本會議ノ目的ガ土國提案ニ對スル回答振及場所ト時期ヲ商議スルニアルコトヲ述ベタル後勞山會議決裂間際ノ事情ニ言及シ

(一)「カピチュレーション」ニ関スル「モンタニヤ」宣言案
(在伊大使發閣下宛電報第六七号参照)ハ當時承知セザリシモノナルコト

(二)仏國側提議ニ係ル經濟條項切離案モ亦輕々シク同意シ難シ

ト述ベ勞山ニ於ケル同盟側ノ態度ガ動モスレバ土國側ノ乗ズル処トナリタルコトヲ仄カシ協調ノ必要ヲ力説シタリ
次ニ賠償問題ニ関シ英國側ハ土國ヨリ没収シタル註文軍艦手付金五百万磅払戻ヲ承諾シタルモ之ガ為ニハ立法ノ手續ヲ要シ且内輪ニ反對モアリ困難ナル事情ニ逢着セルコトヲ打明ケ次ニ會議場所ハ勞山ヲ恰好ノ地ト認ムルコトヲ述ベタル後本會議促進ノ為(一)財政(二)經濟委員會ノ外(三)其ノ他ノ諸問題ヲ網羅スル總括委員會ヲ設ケンコトヲ提議セリ

總會議ニ於テ連合國ノ對土回答案ヲ審議ノ件

付記 三月二十八日付連合諸國ノ對土回答訳文

第一九五号

(三月二十九日接受)

往電第一八三号ニ関シ

二十七日午後四時半ヨリ總會議開催各委員會ノ報告及對土回答案ヲ審議決定セリ

右回答案ハ日、英、仏、伊政府ニ於テ三月九日受領ノ「イスメット」公文ヲ慎重審議シタルヲ述ヘ(一)一月三十一日ノ現條約案ノ條項ニシテ右「イスメット」ノ公文及付屬對案中ニ何等變更ヲ提議セラレサルモノニ付テハ再ヒ討議ヲ為ササルコト(二)土耳其国内ニ於テ司法制度ニ関スル土ノ對案ト二月三日ノ連合側原案ノ緩和ニハ極力努力スルノ覚悟アルモ二月四日ノ會合後ニ於テ連合國側ニ於テ其案ニ何等變更ヲ加フヘキコトヲ約シタリト見做スヘカラサルコト及(三)經濟條項ニ付テモ討議ヲ為スコトノ諒解ノ下ニ右「イスメット」ノ公文及付屬對案中ニ挙ケタル總テノ点ニ付討議ヲ為スノ用意アルニ付土耳其ニ於テ可成速ニ勞山ニ於テ交渉ヲ再開スルヲ代表者ヲ送ランコトヲ提議ストノ趣旨ナリ
尚右回答案ハ當該國政府ノ最終的承認ヲ得テ確定スルコト

右ニ對シ仏委員ハ仏國側ガ經濟條項ノ切離ヲ提議シタリト云フハ適當ニアラズ當時條約ノ即時調印ヲ希望シタル余リ協定ニ達セザル條項ヲ引続キ商議スルコトトシ之等條項ヲ別約トシテ條約ニ付屬セシム可キコトヲ提議シタルモノナリト弁明スルト同時ニ右提案ガ已ニ土國側ノ拒絕ヲ受ケタル今日毫モ仏ノ措置ヲ拘束スルモノニアラズト付言セリ
本使ハ會議ノ場所ハ他ノ反對ヲ避クル為勞山ヲ適當ト思考スルコト速ニ協定ニ達スルヲ希望スルノ外他ニ述ブ可キコトナキ旨ヲ述ベ仏、伊亦勞山說ニ賛シ同盟側協調ノ必要ヲ裏書セリ

財政委員會及經濟委員會ハ二十二日開會済トナリ前本會議ニ引続キ總括委員會ヲ開キタルガ議事ノ内容ニ関シテハ討議終了迄ハ Communiquéヲ發表セザルコトニ取極メタリ就テハ右三委員會審査報告完了ノ上ハ商議ノ基礎トナルベキ案文作製ニ至ル迄特ニ重要事項ナキ限リ一々電報セザルニ付御含置アリタシ
仏、伊、希、土ヘ電報セリ

一五 三月二十九日(着)

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

トナリ居ルモ右ハ主義トシテ四十八時間内ニ之ヲ為スコトニ協定成リ又從來ノ御訓令ノ趣旨ト格別悖戻ノ個所モナキニ付帝國ノ関スル限リ既ニ御承諾ヲ得タルモノトシテ取扱フヘキニ付右御承諾置キヲ請フ回答文全文ハ必要アラハ電報スヘシ

仏、伊、土耳其ヘ電報シ希臘ヘ暗送セリ

(付記)

三月二十八日付連合諸國ノ對土回答訳文

英帝國、仏蘭西國、伊太利國及日本國政府ハ一月三十一日「ローザンヌ」ニ於テ土耳其國全權ニ交付セル平和條約案並之ニ付屬セル諸協約及宣言ニ對シ多少ノ修正ヲ施サムコトヲ目的トシテ前記諸國ニ送達セラレタル三月八日付貴翰付屬覽書ヲ綿密ニ査閲セリ右諸國政府ハ閣下ノ提出セラレタル各種ノ提議若ハ之カ論拠トシテ援用セラレタル議論ニ付テ今日詳細ナル論議ヲ為スヲ欲セスト雖モ閣下カ今日新ニ「ローザンヌ」ニ於ケル英仏伊全權宛二月四日付貴翰ニ於テ閣下自ラ既決事項トシテ承認セラレタル幾多ノ問題ヲ再ヒ論議セムトセラルルノミナラス全然新規ナル問題ヲ惹起スヘキ幾多ノ條項ヲ其ノ對案中ニ挿入セラレタルハ右諸

国ノ頗ル意外トスル処ナルヲ表明セサルヲ得ス乍然招請諸国ハ土耳其国ト締約諸国トノ間ニ正当且永続的ナル平和ノ成立ヲ促進セムコトヲ熱心ニ希望スルカ故ニ閣下ノ覚書及其ノ付属對案中ニ提起セラレタル諸種ノ論点ニ付討議スルノ用意アルコトヲ直ニ言明セムトス但シ二月四日付貴翰中ニ掲ケラレサリシ提議ニシテ領土ニ関スル既定条項ニ實質的變更ヲ来スヘキモノニ付テハ此限ニ在ラス又右ト同時ニ招請諸国ハ一月三十一日付条約案中ノ諸条項ニシテ三月八日付貴翰付属覚書ニ於テ修正無シニ支持セラレタルモノニ付テハ条約ノ他ノ部分ヲ修正スルノ結果トシテ既定条項ノ變更ヲ必要トスル場合ヲ除キ討議ヲ再開スヘキ筋合ニ非スト思惟ス

尚又居住及裁判管轄ニ関スル協約中ノ諸規定ヲ相互主義ニ抛ラシムヘキコトハ閣下特ニ重要視セラルル処ト察セラルルヲ以テ招請諸国ハ之カ実行可能ナリト認ムルヲ得ヘキ方法及範圍ニ於テ土耳其国ニ對シ右相互主義ノ利益ヲ容認セムカ為ニ新ニ右協約ノ起草ニ從事スヘキコトヲ主義トシテ承諾スルコトヲ閣下ニ向ヒ茲ニ確言スルヲ欣幸トス次ニ招請諸国ハ前掲貴翰中ニ含マレタル各種對案中ニ現ハ

右諸条項ノ或ルモノハ土耳其国内ニ於テ同盟国政府ノ国民及同盟国民ノ資本ヲ投下セル会社ニ對シ其ノ既得權並千九百十四年以来ノ諸事件ニ依リ危殆ニ陥レラレタル其ノ利益ノ保護及右諸事件ノ結果タル經濟上ノ新事態ニ適応セシムル為メノ契約ノ更新ヲ確保スルノ諸規則ヲ一致ノ協定ニ依リ決定スルコトヲ以テ其ノ目的トス、重要ナル右問題ノ解決ヲ促進スル為同盟諸国政府ハ其ノ国民中利害關係アル者ヲシテ適當ナル妥協ニ到達スル為土耳其政府ト直接交渉ヲ開始セシムルコトトセリ從テ若シ右妥協ニシテ成立スルニ於テハ同一問題ニ関シ条約案中ニ現ニ規定セラレ居ルカ如キ諸条項ハ其ノ存在ノ意義ヲ失ヒ平和条約締結ハ著シク容易トナルヘキヤニ認メラル

同盟国政府カ去ル一月三十一日ノ提案中ニ規定セラレタル諸条項ニ近似セル詳細ノ諸条項ヲ之ニ依リテ其ノ国民ノ緊切ナル利益ヲ保護セムカ為ニ本条約案中ニ挿入スルヲ必要トスルハ適當ノ時期ニ前掲妥協カ成立セサルカ如キ場合ノミニ限ルヘシ

尚又經濟条項中若干ノ他ノ条項ニ付テハ単ニ概括的規定ヲ設クルニ止メ何等詳細ノ規定ヲ必要トスル場合ニハ土耳其

レ居ル土耳其国内ニ於ケル司法制度ノ改革ニ関スル宣言書ノ土耳其側對案ト同問題ニ関スル二月三日付連合國側原案トヲ調和セシムル為一切ノ努力ヲ為スノ用意アルモ右諸国ハ二月四日夜「ホテル、ボーリヴァージュ」ニ於ケル英仏伊土四國全權ノ會合以後ニ於テ連合國側宣言案ニ對シ提起セラレタルコトアルベキ變更ニ依リ何等拘束セラレタルモノト看做サルヘキ次第ニ非ス

猶招請諸国政府カ自己ノ立場ヲ明セント欲スル他ノ一点アリ閣下ハ貴翰ニ於テ經濟条項ハ本条約ヨリ之ヲ分離シ且本条約調印後ニ於ケル關係諸國間ノ交渉ニ之ヲ讓ラムコトヲ提議セラレタリ閣下ノ已ニ承知セラルルカ如ク招請諸國カ土耳其國代表者ト長時日ノ商議ノ後ニ提出シタル諸条項原案ハ右諸國並其臣民ノ最緊要ナル利害關係ヲ左右スヘキ諸事項ヲ包含ス果シテ然ラハ今ヤ招請諸國ニ於テ閣下ノ提出セラレタル對案ニ付討議ヲ為スノ用意アルコトヲ宣言スル以上該討議ハ齊シク經濟条項ニモ及フヘキモノト諒解セラレヘキヤ勿論ナリ招請諸國ハ新ナル商議ニ際シ多少ノ相互的讓歩ニ依リ本条約中ニ挿入スヘキ此種条項ニ付妥協ニ到達スルノ可能ナルヘキヲ確信ス

政府ト各關係國政府トノ間ノ將來ノ交渉ニ依リ之ヲ処理スルコトト為スヲ得ヘシ

領土ノ變更、經濟条項及司法宣言ニ関スル前頭意見ヲ留保シ招請諸國政府ハ他ノ締約諸國代表者ト「ローザンヌ」ニ於テ出来得ル限り速ニ交渉ヲ再開スル為代表者ヲ同地ニ派遣セラレムコトヲ閣下ニ對シ勸奨スルノ光榮ヲ有ス招請諸國ハ彼我均シク善意ヲ以テ相応酬スルニ於テハ困難ナク平和条約ヲ締結スルノ可能ナルヲ確信シ且土耳其政府ノ有スル同様ノ冀望及祈誓ニ付テ閣下ヨリ招請諸國ニ与ヘラレタル保障ヲ欣然領承ス招請諸國ハ土耳其國政府ト其ノ情意及期待ヲ共ニシ且斯ル共通ノ態度ヲ目シテ「ローザンヌ」ニ再開セラルヘキ會議ノ成功ノ緣起良キ前兆ト認ムルモノナリ

一六 三月二十九日(着) 在英國林大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

連合國側條約案中沿岸貿易ニ関スル例外規定

ニツキ請訓ノ件

付記 連合國側通商條約案第十條

第二〇〇号 (三月二十九日接受)

一月二十九日土国側ニ交付セル同盟側条約案中(同日付勞山發機密公第三三三號)第十條第三及第四項沿岸貿易ニ関スル例外規定ハ三月八日付土国對案中ニハ之ヲ削除シアル処今回ノ倫敦專門家會議經濟分科会ニ於テ右第四項ヲ復活スル代リ第三項ノ削除ニ同意スルコトニ決シタリ元來右第四項ハ勞山發往電第一一六號及第一一八號ノ経緯アリタル条項ノ処今回ノ經濟分科会ニテ前記ノ如ク本項ノ維持ヲ可決セルニ際シ仏伊ハ勞山ニテ我方ニ對シ為シタル申出ヲ繰返シ久シキ以前ヨリ沿岸貿易權ヲ有シ營業シ來リタル船会社ニ取リテハ本項ハ死活問題ニシテセメテ五年ノ期間内ニ是等会社ヲシテ營業方針ヲ轉換スルヲ得セシメントスルモノニ付日本側ニテモ右窮狀ヲ諒トシ強テ機會均等主義ヲ主張シテ仏伊ノ救済策達成ヲ困難ナラシメサル様再考出来間敷ヤト申入レタリ(土国側ハ勞山ニテ少数ノ既得權者ニハ例外ヲ認メ沿岸貿易ヲ繼續セシメ得ヘキ旨ノ口吻ヲ漏セリ)我方委員ハ勞山ニテ現在ノ規定同盟國間ニ協議纏リタルコトニ付今更之ヲ變更スル要ナク土国ニ對シテハ原案ノ復活ヲ試ムルコトトスレハ可ナルヘキ旨一応答ヘ置キタル趣ナルモ元來土国ニ於ケル沿岸貿易ハ我カ航海業者ニ取リ左

Article 10.

La Turquie s'engage, à condition qu'un traitement réciproque lui soit accordé en la matière, à accorder aux navires des autres Puissances contractantes un traitement égal à celui qu'elle accorde aux navires nationaux ou un traitement plus favorable qu'elle accorde ou pourrait accorder aux navires de toute autre Puissance.

Le droit est expressément reconnu aux Hautes Parties Contractantes de réserver au pavillon national la pêche, le cabotage maritime, c'est-à-dire le transport par mer de marchandises embarquées dans un port du territoire national vers un autre port du même territoire et les services des ports, c'est-à-dire le remorquage, le pilotage et tous services intérieurs de quelque nature que ce soit.

Si la Turquie réserve au pavillon national le cabotage maritime et la pêche; elle pourra néanmoins accorder à cet égard un traitement spécial au pavillon de l'un quelconque des territoires détachés en vertu du Traité de paix en date de ce jour, sans que le bénéfice de ce traitement puisse être réclamé par d'autres pavil-

迄重要ナル意味ヲ有スヘシトモ思ハレス又仏伊ノ既得權者ニ限り五年間(仏伊ハ三年迄短縮スルニ同意セリ)沿岸貿易ヲ繼續セシムルモ事實我方ニ於テ痛痒ヲ感セサルヘキニ付テハ勞山會議再開ノ場合我方ニ於テハ強テ原案ノ維持ヲ主張スルヲ止メ仏伊ヲシテ既得權者ノ利益ヲ保護スルニ任セ差支ナク思考セラルル処本件ハ本邦海運政策殊ニ沿岸貿易ニ関スル政府ノ御方針ニモ關係アルコトニ付右様取計ヒ差支ナキヤ至急御回訓ヲ請フ尚本件ニ関シテハ三月二十六日伊國代表「ガロニー」本使ヲ來訪日本ノ緩和的態度ヲ懇請セルニ付本使ニ於テモ恰モ主義上ノ主張ヲ固持シテ仏伊當業者ヲ困難ノ狀況ニ陥ラシムルヲ氣毒ト思ヒ一応政府ヘ請訓ノ上何トカ機宜ノ処置ヲ講シタク思ヒ居リタル所ナリト述ヘタル処同代表ハ大ニ満足ノ意ヲ表シ引取りタリ又分科会ニテノ談話ノ模様ニ依レハ伊國委員ハ本國政府ニ電報シ在伊帝國大使ヘ本件懇談方送りタル由ニ付或ハ落合大使ニ對シ其ノ間伊國政府ヨリ何等交渉シ來ルヤモ計リ難シ

仏伊ヘ電セリ

(付記) 連合國側通商條約案第十條

La Turquie permettra à titre transitoire pendant une période de cinq ans le transport de marchandises et voyageurs d'un port turc à un autre port turc aux entreprises qui ressortissent aux autres pays contractants et qui ne seraient point affectées exclusivement à ce trafic.

一七 三月二十九日 在伊國落合大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

連合國側條約案中沿岸貿易ニ関スル例外規定
ニツキ申進ノ件

第七六号

(三月三十日接受)

在英大使往電第二〇〇号ニ関シ

沿岸貿易ハ該案第十條第二項ニ依リ既ニ各自國臣民ニ限定スル權利ヲ留保シ唯其除外トシテ第三項第四項ヲ設ケントシ我方トシテハ此除外例ノ出方如何ニ依リ差別的待遇ヲ受クルコトナルヲ以テ此点ニ付措置ヲ要シタル次第ナル処本使カ勞山ニテ第四項ノ修正ヲ申込ミタル時仏國側ニテハ此申込ハ事實上日本ニ何等利益ナク單ニ仏伊ノ既得權繼續ヲ妨ケントスルニ止マル主張ナリトテ頗ル不快ナル挨拶ヲナシタルカ其翌日土国側ニ該案提出ノ際ニ對スル我方ノ

留保声明ヲ不必要トナシメン為當時勞山ヨリ電報セル如キ三国側ノ応急措置ヲ見ルニ至リタル経緯アリ今之ヲ考究スルニ同条第三項ノ削除ハ我ニ執リテモ都合宜シク又第四項ハ単ニ三年乃至五年ノコトナラハ強テ反対シテ仏、伊ノ反感ヲ買フ程ノコトモナカルヘキカト思考セラルルニ付此範圍ノミニ止マル次第ナラハ同意ヲ与フルモ差支無カルヘキカト思考ス

英仏へ転電セリ

一八 三月三十日

内田外務大臣ヨリ
在英国林大使宛(電報)

対土回答案ニ異議ナキ旨通報ノ件

第八一号

貴電第一九五号ニ関シ対土回答案帝國政府ニ於テ異議ナシ又貴電第二〇五号本大臣ノ名ヲ記入ノ件必要アラハ御申越ノ通取計ハレ差支ナシ

尚回答全文電報アリタジ

土へ転電済仏伊へ転電アリタジ

編註 同日同文ヲ内田外務大臣宛在土国内田大使宛電報第九号

トシテ打電セリ

二〇 四月三日

在土国内田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

土国政府ノ日本政府ニ対スル回答公文ニ関シ

在英国大使宛通報ノ件

第三四号

(四月四日接受)

本使発在英大使宛

第一六号

貴電第四三三号ニ関シ土国政府カ帝國政府ノ公文ニ対シ回答スヘキハ疑ナキモ日本カ會議招請国ノ一タルニ非サレハ土国政府ニ於テ其ノ回答振合ニ関シ日本ト英仏伊トノ間ニ差別ヲ設クヘキ懸念アリシ故御意見ヲ伺ヒタル次第ナルカ四月三日日本使ハ為念同政府代表ニ面会シ閣下宛土国政府ノ回答ハ英仏伊外務大臣ニ宛テタル(脱)ヲ右三国高級委員ニ交付スルト同時ニ本使ヘモ交付スル様申述ヘ置キタリ同代表ノ話ニ依レハ土国政府ノ回答ハ多分今週中ニ交付セラルヘシト

外務大臣及仏、伊へ転電セリ

二一 四月四日

内田外務大臣ヨリ
在伊国落合大使宛(電報)

一九 四月三日(着)

在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日英仏伊ヨリノ対土回答ハ日本ニトリ利益ナル旨在土国大使宛通報ノ件

第二一八号

本使発土耳古宛電報

第四三三号

貴電第一五号ニ関シ

今回ノ対土回答ハ御来示ノ通り日、英、仏、伊四国ヨリ為セルモノニテ日本モ参加シ居ル次第ナリ之レ全ク倫敦専門家會議ニ日本ノ参加セル結果ナリ右ハ「イスメット」ノ公文ガ英仏伊三国ニ対シテナセルモノナルニ照シ多少奇異ノ感アレドモ日本ニ取リ利益コソ有レ何等害ナキコトニ付右回答文討議ノ際故意ニ此点ヲ指摘スルヲ避ケタル次第ナリ從テ次回ノ土耳古ヨリノ回答ハ帝國政府ニ対シテモ之有ルベキ筋合ナリ

大臣、仏、伊へ転電セリ

連合國側条約案中沿岸貿易ニ関スル例外規定

ニツキ回訓ノ件

第一九号

林来電第二〇〇号ニ関シ

我方トシテハ可成原案ノ維持ヲ希望スルモ左リトテ仏伊側ノ窮状ヲ無視シテ迄從來ノ主張ヲ固持スルコトモ面白カラサルニ付場合ニ依リテハ貴見ノ通仏伊側既得權ノ保持ニ同意セラレ差支ナシ但其ノ際ハ(イ)勞山来電第一一七号ノ如ク所謂既得權尊重ノ程度ニ限守シ戰前現実ニ土国ニ於テ沿岸貿易ニ從事シツツアリシ船舶業者ニ対シテノミ之ヲ認メ若シ今後土国側ニ於テ新ニ他ノ船舶業者ニ対シ沿岸貿易ヲ許容スル場合ニハ我國船舶モ亦之ニ均霑シ右特權ヲ享有スルコト及(ロ)勞山来電第一一六号末段ノ如ク五箇年以後ニ本件權利延長ノ場合ニハ日本モ之ニ均霑スルコトノ二点ヲ明カニシ置ク様御措置アリタシ

二二 四月八日

在土国内田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

連合國側ノ対土回答ニ対スルトルコ国側回答
アングラ政府代表ヨリ受領ノ件

別電 四月九日在土国内田大使宛内田外務大臣宛電報第

三九号
トルコ国政府ノ回答要領

第三八号

(四月九日接受)

三月二十八日付連合側対土回答ニ対スル土国側回答ハ今八日朝「アンゴラ」ヨリ電報アリタル趣ニテ同政府代表 Adnan Bey ハ本日午後英仏伊三国高級委員ト同時ニ本使ヲ来訪シ四月七日付「イスメットパシヤ」ノ署名ヲ以テ日英仏伊四国政府ニ宛タル回答電文ヲ交付シ帝國政府ニ通報方ヲ依頼セリ右回答ノ要旨ハ別電第三九号ノ通り「ロウザン」會議再開ヲ承諾シ會議開会日ヲ本月二十三日ト提議シタルモノニシテ土国全權「イスメットパシヤ」一行ハ十五日「アンゴラ」出發当地經由勞山ニ向フ由ナリ尚回答全文ハ明日当地出發杉山官補ニ托シ英仏伊へ送付シ在伊大使ノ分ハ未蘭ニテ渡ス筈ナルモ若シ必要アラバ全文電報スベシ

英、仏、伊へ転電セリ

(別電)

四月九日在土国内田大使宛内田外務大臣宛電報第三九号
トルコ国政府ノ回答要領

第三九号

(四月十日接受)

土国政府回答要領左ノ如シ

土国政府ハ招請國ニ於テ三月八日付公文及之ニ付属スル土国對案ニ掲ケタル諸点ヲ討議スル意向アルコトヲ欣然諒承ス同政府ハ其對案カ領土ニ関スル条項中ニ何等重大ナル變更ヲ含マサルモノト思考ス土国政府ハ列國カ相互主義ニ依リ新ニ Convention établissement ノ起草ヲ承諾セルコトヲ喜ヒ且列國カ同様ノ公正ナル精神ニ依リ同条項ニ関スル土国ノ正当ナル提議ヲ親切ニ考量セラレンコトヲ希望ス土国政府ハ土国ニ於ケル司法制度ニ関スル土国宣言案ヲ同盟國家ニ一致セシムル様努ムヘシト約セル招請國カ既ニ協定セラレタリト認ムヘキ重大問題ヲ再議セントスル傾キアルニ驚クモノナリ土国對案中ノ本条項ハ實際双方ノ提案ヲ接近セシムル為同盟側ノ代表ト土国代表トカ共同努力セル結果ヲ掲ケタルニ過キス殊ニ Formule de Montagna ト称スル協定ハ二月四日以後ノ数日間ニ於テ同盟國側ヨリ口頭及文書ヲ以テ確認セラレタルモノナリ經濟条項ニ関シテハ勞山會議中止後同盟側ハ本条項ヲ平和条約ヨリ引放スコトヲ承諾セルカ今其承諾ヲ取消シ平和条約ト共ニ本条項ヲモ討

議セハ平和成立ニ一層ノ困難ヲ生シ其遲延ヲ来ス虞アリ左レ共土国ハ未決ノ經濟問題ヲ有利ニ解決スヘシトノ同盟側ノ希望ヲ尊重シ本件討議ニ同意ス又土国ハ同盟國ノ提議セル如ク土国ノ供与セル「コンセツション」關係者ト直接協議スルコトトシ既ニ其一部トハ満足ノ解決ヲ見タリ土国政府ハ其全權ヲ速ニ出發セシメラレタシトノ列國ノ希望ニ応シ四月二十三日勞山ニ於テ對手國全權ト談判ヲ開始セシムル様其全權ヲ派遣スヘシ

英、仏、伊へ転電セリ

二二 四月十三日(着)

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英國政府ヨリローザンヌ會議再開ニ関シ申越

ノ件

第二四六号

四月十二日公文ヲ以テ当國外務省ヨリ(一)、英國政府ハ四月八日付土国ノ回答ハ来ル二十三日勞山ニ會議ヲ再開スルニ充分満足ナルモノナルコトヲ仏、伊政府ニ申入ルベキ旨出先大使ニ命ジタルコト(二)、又土国代表者ニ對シテハ同日、英、仏、伊各高級委員ヨリ右期日ニ夫々代表者ヲ派遣スベ

キ旨ヲ通告センコトヲ提議シタル旨ヲ述ベ右ニ從テ本使ニ於テモ必要ノ措置ヲ執ランコトヲ申越タリ

依テ本使ハ不敢君府宛往電第四六号ノ通り電報セリ

仏、伊、土へ転電セリ

二四 四月十三日

在仏國佐藤大使館參事官ヨリ
内田外務大臣宛

近東平和會議復命書等送付ノ件

付屬書一 近東講和會議復命書

二 近東講和會議總括報告(拔萃)

大正十二年四月十三日

在仏

大使館參事官 佐藤 尚武

外務大臣伯爵 内田 康哉 殿

近東講和會議復命書等送付ノ件

於勞山近東講和會議帝國全權林、落合兩大使復命書及同會議總括報告小官ヨリ閣下へ進達方命セラレ候ニ付今般婦朝ノ谷書記官便ニ托シ右及御送付候猶同會議起草委員會報告別添ノ通り長岡公使ヨリ提出有之候間併セテ御査閱相成度此段申進候 敬具

追テ右復命書及總括報告並ニ起草委員會報告寫ハ在英在

伊兩大使在智恵古公使在君府内田大使へ送付致置候
(付屬書一)

近東講和會議復命書

客年十一月本員等近東講和會議参列ノ命ヲ拝シ相前後シテ
會議地タル瑞西国勞山ニ赴キ十一月二十日同国大統領ノ式
辭ヲ以テ発会以來本年二月四日談判不調ニ至ル迄同盟側諸
国同僚ト協調シ土国全權委員ト折衝ヲ重ヌルコト実ニ七十
有七日其ノ結果講和本条約以下十余種ノ付屬協定ヨリ成ル
同盟側講和条約案ヲ設ケ之ヲ土国全權委員ニ交付シテ其ノ
承諾ヲ求ムルニ至リタルカ不幸司法裁判並ニ三經濟財政問
題ノ為妥協成ラス右諸条約案ハ一併調印ヲ見スシテ彼我相
別ルノ已ヲ得サルニ至レリト雖前記諸問題ハ対土講和条
項ノ一小部分ヲ為スニ過キスシテ政治問題ノ外幾多重要案
件ハ殆ント全部既ニ解決ニ帰シ居レルヲ以テ今回ノ講和条
約案カ向後近東ノ平和ヲ確立スルノ基礎タルヘキコト疑ヲ
容レサル所ナリ顧ミレハ大正九年八月十日「セーブル」講
和条約調印以來近東ノ情勢ハ正シク一変セリ降伏条約タル
「セーブル」講和条約ト今次ノ講和条約トノ間ニハ其ノ当
然ノ経庭アルヘントハ何人モ之ヲ予期セリト雖上記談判不

調ノ直接原因ヲ為シタル少数ノ事項ヲ除ケハ今次ノ講和条
約案カ殆ント新土耳其國權回復ノ標語タル所謂國民規約ヲ
布衍シタルノ觀アルハ如何ニ同盟側讓歩ノ大ナリシカヲ窺
フニ足ルヘシ殊ニ連年ノ兵戰ニ疲弊セル土国内ノ実況、土
地広ケレトモ人鮮ク民度劣レル同国ノ真相、而シテ精神的
ニモ物質的ニモ先進國ノ協力ヲ必要トスル土国ノ現状ヲ思
フ者ハ同盟側講和条件ノ寛大ナルニ一驚スヘク土国全權委
員調印拒絶ノ理由ヲ解スルニ苦シムヘシ然リト雖望蜀ノ念
ハ人ノ情ナリ況ンヤ同盟諸強ノ間利害關係一致セス且互ニ
土国ニ対シ其ノ恩情ヲ売ラムト争フカ如クナルモノアリシ
ニ於テオヤ

此ノ間ニ処シテ帝國ノ本講和會議ニ於ケル地位ニ至リテハ
極メテ機微ナルモノ存セリ巴里講和會議以來帝國ハ世界的
五大國而シテ太平洋ニ於テハ三大國ノ一タリト雖其ノ近東
ニ於ケル利害關係ハ到底英仏伊ノ比ニアラス土艦「エルト
グルール」ノ災厄以來日土修交問題ハ過去半世紀ノ懸案ナ
リ而シテ条約締結ノ交渉ハ常ニ治外法權問題ノ為ニ行惱ミ
タリ欧州參戰ノ結果帝國モ土国ニ対シ共同講和ノ機會ヲ得
タリト雖實ハ過去ノ因縁ヲ有セスシテ之ヲ有スルモノト均

大正十二年三月三十一日

近東講和會議参列帝國全權委員

男爵 林 權助

落合謙太郎

(付屬書二)

近東講和會議總括報告(拔萃)

(前略)

四、會議所感並帝國全權ノ態度

顧レハ大正十二年一月二十九日土国側ニ対シ同盟側講和条
約案ヲ交付シタル以來同二月四日其ノ最終案ヲ提示スルニ
至ル迄同盟側ノ讓歩ハ殆ント其ノ極点ニ達セルノ感アリ
「ムドロス」ノ降伏条約ヲ前提トスル「セーヴル」条約ト
「ムダニヤ」ノ休戰条約ヲ前提トスル今次ノ講和条約案ト
ノ間ニハ相當ノ相違アルヘントハ固ヨリ何人モ予期シタル
所ナルヘシ然レトモ右条約案カ前記談判不調ノ直接原因ヲ
為シタル少数ノ事項ヲ除ケハ殆ント新土耳其ノ標語タル國
民規約ヲ布衍シタルノ觀アルハ以テ同盟側讓歩ノ如何ニ大
ナリシカヲ窺フニ足ルヘシ

右復命ス

蓋シ今回ノ談判ニ於ケル同盟側ノ弱点ハ土国カ希軍ヲ驅逐

シタル勢ヒニ乗シ其ノ國權回復ニ対スル氣焰最揚レル時機ニ於テ談判ヲ開始シツツ右氣焰ヲ抑制スルニ足ルノ威力ヲ有セサリシニ存シ英仏伊三国ハ密ニ司會者ノ選定ニ関シ互ニ讓ラサリシノミナラス談判ノ場所開會ノ期日ニ関シテスラ意見ノ一致ヲ見ル能ハス当初ヨリ満足ナル成績ヲ挙クルノ困難ナルヲ覺エシメタリ斯ル間ニ於テ英國ハ外相「カーゾン」卿親ヲ會議ノ衝ニ當リ事實上同盟側ノ牛耳ヲ執リ仏伊トノ協調ニ相當ノ考慮ヲ払ハサリシニアラサルモ大体ニ於テ自己ノ方針ニ依リ行動スルノ態度ヲ枉ケス而モ談判中再三土國全權ニ対シ威嚇の口調ヲ弄シ人ヲシテ會議不成立ノ禍機ハ同卿ノ高圧の態度ニ在ラサルヤノ疑ヲ抱カシメタル程ナリシカ會議終局ニ及ビ彼我ノ主張大ニ懸絶シテ容易ニ妥協ノ域ニ達シ得ヘカラサルヲ看取スルヤ仏國側ニ於テ財政經濟上ノ利益ニ固執セシ間ニ英國ノ最利害關係ヲ有セシ領土乃至政治問題ニ関シ極メテ重大ナル讓歩ヲ敢テシ殊ニ過去二年以來英國對土政策ノ傀儡タリシ希國ヲ棄テ却テ土國ヲ重ンスルノ態度ニ出テ土耳其古ヲシテ仏國ノ今更頼ムニ足ラサルヲ思フニ至ラシメタル外交政策上ノ円転滑脱ニ至リテハ真ニ張膽明目ノ値ナシトセス對土講和締結後英

ニ及ハサルモノアリ會議中往々ニシテ第二流ノ地位ニ落ントシタルコトアルモ努メテ右兩國トノ協調ヲ旨トシ今回ノ共同講和ヲ機會ニ英仏ト均等ノ地歩ヲ以テ土國トノ關係ヲ結ヒ以テ自國ノ利益ヲ擁護増進スルニ腐心セルノ觀アリ故ニ其ノ會議ニ於ケルヤ三国中最穩和且妥協のニシテ苟モ土國ニ對シ高圧の態度ニ出ツルニ反對シ極力會議ノ決裂ヲ防クニ努力シタルノ感ナクムハアラス

米國ハ当初土國ニ於ケル英仏伊ノ利益壟斷ヲ慮リテ機會均等門戸開放ヲ唱ヘ或ハ一定ノ少数國ニ於テ海峽ヲ管理スルノ案ニ不賛成ノ趣旨ヲ宣言スル等自國ノ地位政策ニ顧ミ同盟側ノ方針ニ反對スルカ如キ態度ヲ示シタルコトアルモ大体ニ於テ熱心ナル傍聴者タルノ立場ヲ守リ且會議ノ進行ト共ニ土國ノ態度漸ク頑強執拗ナルヲ示シ其ノ主張奮ニ英仏伊ノ重大利害ニ関スルノミナラス自國ノ利益ヲモ侵害セムトスルモノアルヲ認ムルヤ其ノ土國ニ對スル威力ヲ挙げケテ同盟側ニ与シ以テ和局促進ニ助力スル所アリタリ露國ニ至リテハ当初會議全般ノ参加ヲ要求シテ容レラレス参加ヲ許サレタル海峽問題ニ関シ英國ト輸贏ヲ争ヒ遙ニ印度ヲ背景トスル近東ノ舞台ニ於テ英露間昔々ノ衝突ヲ演

國ノ近東政策ニ此ノ豹変アルヘントハ予テ識者ノ予言シタル所ナルモ今ヤ其ノ予言ノ尚及ハサリシヲ思ハシム

仏國モ亦會議中同盟側ノ結束ニ考慮ヲ払ハサリシニアラサルモ依然トシテ拔軋のニ土國ト接近スルノ政策ヲ追フヲ改メサリシモノノ如ク會議ノ危機ニ際シ殊ニ其ノ然ルヲ覺エシメタリ当初其ノ主席全權ニ駐伊大使「バレール」氏ヲ選任シタルハ正ニ英國トノ結束ニ重キヲ置キタルモノト認メラレ實際同氏ノ態度ハ同盟側内部ノ一致ニ頗ル貢獻スル所アリ往々仏國新聞紙ノ攻撃ヲ受ケタル程ナリシカ一月下旬同盟側條約案ノ對土交付ノ頃ニ至リ病氣靜養ノ為勞山ヲ去テ帰任シ後事ヲ親土ヲ以テ聞ユル「ボンパール」氏ニ托スルニ至レルアリ又右條約案ノ交付ニ関連シ「ポアンカレ」氏ヨリ「アンゴラ」政府宛緩和の通牒ヲ試ムルアリ要スルニ巴里政府ノ方針ハ「バレール」氏ノ如ク同盟側ノ結束ニ重キヲ置カサリシカ如ク感セシメタリ

伊國ハ「ムスリニー」首相就任以來屢々内外ニ声明セルカ如ク歐洲問題ニ関スル伊國ノ地位ヲ英仏ト對等ナラシムルコトニ重キヲ置キ從テ今回ノ談判ニ於テモ当初ヨリ此ノ方針ヲ以テ進ミタルカ如キモ其ノ實力乃至對土利害關係英仏

出シタルカ其ノ「アンゴラ」ニ於ケル勢力ハ暫ク措キ其ノ勞山會議ニ於ケル限り露國全權ハ屢々土國全權ト往来シ又海峽問題ノ討議ニ際シ土國ノ立場ヲ擁護スルコト土國全權自身モ及ハサルカ如キ奇觀ヲ呈シタリト雖モ結局土國操縦ニ付テハ英國全權ニ一籌ヲ輸シタルノ感ナキ能ハス尚日本ニ對シテハ特ニ接近セントシタルコトナカリシモサリトテ特ニ我ヲ排斥セムト企テタルコトナク海峽管理ニ関スル其ノ對案ニ於テモ日本ヲ同管理委員會ノ一員ニ加ヘ居タリ而シテ希軍ヲ驅逐シタル武力ヲ自信シ英仏伊三国不調ノ形勢ニ乘シ一挙シテ數世紀來ノ羈絆ヲ離脱セムト焦慮セルモノ土國ナリト云フヘキカ從テ同國全權ノ會議ニ於ケル態度ハ執拗頑固容易ニ妥協ノ色ヲ示サス過去ノ行懸ニ對シ何等ノ考量ヲ払フコトナク同盟諸強ト全然均等ノ立場ヲ以テ諸協約ヲ締結セムコトヲ主張シ分科委員會ニ至ル迄事毎ニ土國ノ主權獨立ヲ唱ヘ其ノ氣焰當ルヘカラサルモノ存シ遂ニ同盟側最終ノ讓歩案モ土國側ノ満足ヲ買フコト能ハサリシ次第ナリ惟フニ連年ノ戰爭ニ疲弊セル土國內ノ実況、土地広ケレトモ人少ク文化劣レル同國內ノ真相而シテ物質的ニモ精神的ニモ先進國ノ援助ヲ必要トスル土國內ノ現状ヲ知

ル者ハ同盟側講和条件ノ寛大ナルニ吃驚スヘク土国全權調印拒絕ノ理由ヲ解スルニ苦シムヘシト雖土国側トシテハ講和ノ遷延ニ依リ何等直接ノ威迫ヲ感スルモノニアラス而モ望蜀ノ念ハ人ノ情ナリ況ンヤ背後ニ土国国民議會ノ掣肘、露国ノ牽制運動アリ且同盟諸強ニ於テ土国ニ恩情ヲ売ラムト互ニ争フモノアリタルニ於テオヤ

此ノ間ニ処シテ帝国ノ本講和會議ニ於ケル地位ハ極メテ機微ナルモノ存シタリ巴里講和會議以來帝国ハ世界の五大国否太平洋ニ於テハ三大国ノ一タリシト雖其ノ近東ニ於ケル利害關係ハ英仏伊ニ比スヘクモアラス訪日使節ヲ乗セタル土艦「エルトグルール」沈没以來日土修交問題ハ約半世紀ニ亘ル懸案ナルモ問題ハ常ニ「カピチュレーション」ニ行悩ミタリ欧州参戰ノ結果帝国モ土国ニ対シ共同講和ノ機会有得タリト雖實ハ過去ノ關係ヲ有セスシテ之ヲ有スルモノト均等ノ地步ヲ以テ講和條約ヲ締結シ国交ヲ開始セントスルモノナリ固ヨリ帝国ノ對土問題ニ對スル地位ハ同盟側内部ノ限リ「セーヴル」條約ニ依リ確立シ居レル行懸アリ從テ英仏伊ニ於テモ我立場ヲ諒トシ我方ノ要求ニ對シテハ力メテ之ヲ容レタリト雖今ヤ近東情勢ノ激変ニ際シ同

略述セムトス

一、治外法權問題

本問題ハ当初ヨリ今回ノ講和會議ノ難關ヲ為シ遂ニ會議決裂ノ主因ヲ為シタルモノニシテ會議参列國中羅塞ト同様帝國ハ大戰前之ヲ有セス從テ最多ク差別的待遇ヲ受クルノ機會ヲ包藏シタル問題ナリ「セーヴル」條約起草當時我全權ノ努力ニ依リ帝国モ亦本件ニ均霑シ居レリト雖今回ノ會議ニ於ケル土国ノ態度ハ「セーヴル」ノ文字ニ言及スルコトスラモ其ノ感触ヲ損フ狀況ナリシナリ尤モ此ノ態度アルカ為ニ前述ノ如ク特ニ我ニ對シテノミ差別的態度ニ出ツルコトナキ傾向ナリシト雖英仏伊ニ於テ全同盟國ヲ一律制度ノ下ニ置カントスル考案ノ容レラレサルニ焦慮スルニ連レ自方ノ特殊地位ヲ保全セムトスルノ態度ニ出ツルハ已ヲ得サルノ勢ニシテ現ニ伊國ノ如キハ当初ヨリ此ノ傾向ヲ示シ後十二月二十日治外法權問題愈々當該分科會ニ於テ行悩ムヤ本問題ヲ主管セシ第二委員會議長伊國「ガロン」侯ハ土国全權ニ對シ彼我ノ主張氷炭相容レサル以上之カ決定ヲ一定ノ仲裁機關ニ依頼シ其ノ判決ニシテ土国ノ主張ヲ是認セサル場合ニハ今後ノ弁法トシテ土国カ其ノ司法制度ノ改革

盟側ヲ拳ケテ土国ニ對シ重大ナル讓歩ヲ為ササルヘカラサルニ當リ之等三国ハ自己ノ立場ヲ擁護スルニ急ニシテ動モスレハ帝國ノ利害ヲ閑却セムトシ又旧來ノ特典ヲ或程度迄今後モ保有セムト焦慮スルノ余リ帝國ニ對シ差別的待遇ヲ生スルノ規定ヲ設ケムトシ我ニ於テ抗議の交渉ヲ試ミルヤ時ニ利害關係ノ厚薄ヲ楯トシテ我ニ對シ不快ノ態度ヲ示シタルコトナキニアラス只土国側ノ意氣込前陳ノ如ク過去ノ行懸ニ關係ナク新ニ均等ノ立場ヲ以テ國際關係ニ入ラムトスルニ在リタルヲ以テ其ノ同盟側ニ對スル態度ハ希國ニ對スルヲ除ケハ一視同仁殊ニ帝國ニ對シテハ英仏伊同様大國ヲ以テ之ヲ遇シタル以外一種ノ温情ヲ感シ居タルノ証跡アリ從テ談判ノ終結ニ近キテハ英仏伊ニ於テモ右ノ事情ヲ認識シ我ニ對シ土国側ノ頑強ナル態度ヲ緩和スルニ助力セムコトヲ熱心ニ希望スルニ至レリ之等ノ事情ノ下ニ本員等ニ於テハ一方同盟諸強ト協調ヲ保ツト共ニ他方土国ノ立場ニ同情スルノ態度ニ出テ我ニ對スル双方ノ好意ヲ繋ギ以テ我主張ノ貫徹ニ資シ帝國已得ノ地位ヲ擁護スルト同時ニ我ニ對スル差別的待遇ヲ排斥スルニ努力シタリ今左ニ特ニ帝國ニ關係深キ講和條項ニ関シ本員等ノ執リタル措置ノ二、三ヲ

ヲ遂クル迄例ハ五ヶ年間現状ヲ維持セムコトヲ提議シタル程ニシテ右ニ對シ本員等ハ先是海峽問題ト関連シ些細ノ事トハ思ヒ乍ラ繫巡洋艦所有ノ權ヲ我國將來ノ在土大使館ニ對シテ留保シタル経緯ヲ述ヘ苟モ土国ニ於テ帝國カ他國ト差別的待遇ヲ受クルコトアラムカ之レ到底帝國政府ノ忍容スルコト能ハサル所ナリ然ルニ若シ此ノ重大問題ニ付テ右差別待遇ヲ受クルコトアラハ帝國政府ハ來ル講和條約ニ調印スヘキヤ否ヤヲ考量セサルヘカラサルニ至ルヲ虞ルル旨ヲ以テ「ガロン」侯ノ注意ヲ喚起シ我立場ニ對スル其ノ支持ヲ取付ケタルコトアリ然レトモ一方本件ニ對スル英仏伊ノ苦境ハ十分之ヲ諒察シ本員等ニ於テハ我起草委員カ英仏伊ノ重大利益、土国ノ体面、帝國均等ノ地位ヲ遍ク擁護スルノ目的ヲ以テ考案シ英仏伊同僚ノ容ルル所トナリタル土国司法制度ニ関スル同盟側原案ノ維持ニ腐心シ會議ノ席上亦土国全權ノ態度執拗ニシテ同盟側同僚ノ苦悶ニ陥ルヲ認ムルヤ帝國ノ治外法權ニ於ケル經驗ヲ述ヘテ土国全權ニ同情スルト共ニ土国ニ對シテ与フヘキ同盟國ノ協力ヲ實現セシムルニ必要ナル前提條件タル保障ヲ要求スル列國ノ立場モ亦之ヲ諒トセサルヘカラサル旨ヲ説キ以テ局面ノ緩和

ニ努メタルコト数次ニ及ヒ會議以外ニ於テモ此ノ趣旨ヲ以テ土国全權ノ反省ヲ促シタルコト一再ナルヲ知ラス同盟側原案ノ要旨カ後土国ノ一方の宣言ノ形ニ改メラレタルモ実ハ右同盟側共同案ノ實際の貫徹ヲ期セムカ為ニシタル我起草委員ノ苦心ニ基クモノナリ

二、海峡問題

今回ノ會議ニ於テハ本件ハ「セーブル」条約當時ノ如ク我ニ取リテ難關ヲ為ササリシモ尚海峡委員會加入ノ件ニ付我ニ於テ差別的待遇ヲ受クルノ憂十分ナリシヲ以テ本員等ハ先ツ本件ノ牛耳ヲ執リシ「カーゾン」卿ノ支持ヲ求メ置キ次テ會議ノ席上帝国力地中海ニ重要ナル通商關係ヲ有スルノミナラス進ンテ之ヲ黒海ニ伸張セムトスルモノナルコトヲ指摘シ以テ委員會参加ニ關スル我立場ノ至当ナルヲ説明スルト共ニ一方委員會問題ト關連セル海峡保障事項ニ關シ我起草委員ヲシテ右保証義務ノ程度ヲ連盟国タルノ地位ニ伴フ程度ニ止メ而モ英仏伊ト相並ンテ我大國タルノ立場ヲ損ハサルガ如キ様式ノ考案ニ努メシメ以テ此ノ保証義務ニ参加スルト同時ニ我帝國カ右委員會ヨリ落伍スルノ機會ヲ防クニ努メタリ而シテ本員等ニ於テ右委員會参加ニ努力シ

行フ場合戰前ノ對土貿易額ニ比例シテ同盟側ノ輸入ヲ許スノ規定ナリシカスクテハ戰前殆ト對土貿易ヲ有セサリシ我國ハ右ニ關シ對土輸入ノ機會ヲ有セサルニ至ルヘキヲ以テ我分科會委員ヲシテ英仏伊分科會委員ト懇談ノ上右解禁ノ場合締約國間ニ何等差別待遇ヲ設ケサルノ規定ニ訂正セシムルヲ得タルハ幸ナリト云フヘシ

四、其ノ他會議成立ノ由來參加國ノ資格ヲ後日ニ明ニスヘキ最終議定書ハ其ノ原案ニ於テ從來ノ成行ヲ事實ノ儘記述シ從テ行文上招請國タル英仏伊三国ハ他ノ同盟國ニ比シ特殊優越ノ地位ニ在ルモノノ如キ觀ヲ呈シタルヲ以テ我起草委員ヲシテ三国ノ會議招集ハ日本トノ協議ノ上行ハレタルノ形式ニ變更セシメタルカ如キ又委員會ノ席次ヲ招請三国ノ外ハ a、b、c 順トスルノ傾向アリタルニ對シ隨員ヲシテ會議幹部ノ反省ヲ促サシメ以テ我席次ヲ英仏伊ノ次米國ノ上位ニ定メシメタルカ如キ些細ノ点ニ至ル迄苟モ帝國ニ對スル差別的待遇ヲ排斥シ我カ大國トシテノ地位ヲ擁護向上スルニ腐心シタリ

二五 五月二日 在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

タル主因ハ委員會任務ノ現状ハ兎モ角近東ニ於ケル事態ノ將來ハ尚不安ナルヘキヲ以テ露國ノ對土政策從テ我對露國涉ノ將來ニモ顧ミ向後帝國ノ近東問題ニ對スル發言ノ機會ヲ留保シ置キタルニ外ナラス

三、經濟問題

經濟問題中特ニ本員等ノ注意ヲ要シタルハ沿岸貿易問題並輸入解禁問題ナリ前者ニ關スル英仏伊共同案ヲ見ルニ戰前此ノ權利ヲ有セサリシ國ニハ之ヲ与ヘサルノ規定ヲ設ケ我國ニ對シ差別的待遇ヲ与ヘ居タル処本件ニ重キヲ置クハ仏國ナルコトヲ知リタルヲ以テ先ツ我分科會委員ヲシテ仏國係員ニ熟談セシメタルモ仏國側ニ於テ容易ニ我ニ賛成スルノ態度見エサリシヲ以テ我ニ於テハ已ヲ得ス委員會ニ於テ公然本件ニ關シ留保スルノ外ナキ旨ヲ告ケテ仏國側ノ猛省ヲ促ス処アリ蓋シ本規定ニハ土國反對シ居タルヲ以テ同盟側不一致ノ實況會議ニ暴露セラルルニ於テハ該規定ノ不成立逆睹スルニ難カラサリシヲ以テ此ノ手段ニ出テタルモノナルカ仏國側ニ於テモ遂ニ我主張ニ屈シ會議ノ席上帝國ニモ右利益ヲ均霑セシムルノ規定ニ變更スルニ至リタリ而シテ後者ニ關スル三国共同案ハ土國ニ於テ一定ノ輸入解禁ヲ

露國ノ會議招請ニ關シ報告ノ件

第六号

(五月三日接受)

在伊露國代表「ボロブスキ」ハ四月二十六日來当地滞在中ナルカ之ヨリ先キ四月五日同人ハ勞山會議書記局宛第二回會議開催時期通知方依頼越シタルニ付書記局ハ同月十二日付公文ヲ以テ露國ハ其曩ニ執リタル態度ヲ改メ海峡條約ニ調印スヘキコトヲ條件トシテノミ這回ノ會議ニ參加セシメラル可キモノナルコトヲ回答シ置キタリ然ルニ一面瑞西國政府ハ仏國側ノ通牒ニ依リ予テ露國ハ今次會議ニ參加セサルモノト諒解シ在伯林同國公使館ニ於テ最近莫斯科ヨリノ露國「クリエ」ニ對シ瑞西入國ノ旅券査証ヲ拒絕シタルカ為メ露國委員ハ二十七日右(脱)ノ解決方ヲ書記局ニ迫ルト同時ニ他面海峡協約ニ對スル露國ノ態度ハ政府ト自由ニ通信シ得タル上ナラテハ何等応答シ難キモ露國ハ客年十一月同盟側招請ノ條件ニ鑑ミ條約調印以前ニ於テ會議ヨリ除外セラル可キニ非サル旨ヲ申入レタルカ三十日右経緯ノ大要ヲ叙シ招請三国ノ措置ニ抗議シ瑞西國政府ノ態度ヲ非難スル「コンムニケ」ヲ發表セリ

英仏独伊土耳其古ヘ転電セリ

二六 六月五日 在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

沿岸貿易ノ例外規定ニ関スル処置方ニツキ申

進ノ件

第八三号

(六月六日接受)

往電第七二号通商協約第一〇条ニ関シ同盟側案第三及第四項ハ共ニ經濟分科会ニ於テ土国委員ノ拒絶スル処トナリタルヲ以テ仏、伊ヨリ既得権者ノ清算ヲ容易ニスル程度ニ於テ土国側ト交渉スルコトニ分科会ノ諒解ヲ得依テ第三委員會ニハ拙電ノ通り土国留保ノ儘提出スルコトトナリタル次第ノ処右諒解ノ下ニ仏伊側ニテ土国ト交渉ヲ進メタル結果極メテ少数ノ既得権者タル仏、伊船舶会社ニ対シ一定条件ノ下ニ二ヶ年ヲ限度トシ同期間内ニ右船会社ト特別ノ協定ニ達セザル場合ニハ其ノ既得権ハ自然消滅スベシトノ意味ニテ土国全権ヨリ仏、伊側ニ公文ヲ送付スルコトニ落着スベキ模様ノ旨仏国側ヨリ内聞セルニ付本使「イスメット」ト会見ノ際在伊本使宛電第五七号ノ趣旨ニテ会谈ヲ試ミタル処同全権ハ既得権者ノ清算期間ハ別トシ其ノ以後ニ於ケル沿岸貿易ハ全然土国ノ自由ニ留保シ各国トハ彼我ノ利

益ヲ考量シテ各別ニ協定シ度キ考ヘナリトテ今日ヨリ将来何等土国ノ自由ヲ束縛スルヲ欲セザル模様ナリシヲ以テ更ニ佐藤ヲシテ本件ヲ主管セル土国第三全権ニ我方立場ヲ詳細説明セシメ先方ノ意見ヲ叩カシメタル処本条第三項及第四項ハ全然協約中ヨリ削除シ仏、伊既得権者トハ協約外ニ於テ其ノ清算ニ必要ナル期間既得権ノ継続ヲ認容スベキモ其ノ以後ノ沿岸貿易權ニ関シテハ今日何人トモ何等ノ約束ヲ為スノ意思ナシト述べ但今後諸外国ト通商条約締結ノ際或ハ相互ノ便宜利益ヲ打算シ本件ニ付交渉ニ応ゼズトモ限ラズト付言セル由ニテ今日土国側ヲシテ貴電御来示ノ二点ヲ明確ニ認メシムルノ件ハ到底見込ミナシ

右ノ次第ニ付近日中開催セラルベキ三委員會ニ於テ前記兩項トモ削除セラレ既得権者ノ問題ハ締約面ニ現ハレザルベキニ於テハ我方ハ其儘ト為シ置キ強ヒテ我權利ヲ主張スル如キ態度ニ出デザルヲ得策トスベク懋イ我ガ将来ノ權利ヲ確保スルガ如キ声明等ヲ為スニ於テハ土国側モ勢之ヲ否認セザルヲ得マジク斯クテハ態々他日同國ト通商条約締結ノ際本件ニ関スル交渉ニ累ヲ及ボス虞アルニ付反対ノ御訓令無キ限り右様取計フベク御含置キヲ請フ

英、仏、土耳其へ転電セリ

二七 六月六日 内田外務大臣ヨリ
在ローザンヌ近東平和會議代表宛(電報)

土国対案第十条第二項中沿岸貿易ニ関スル定

義ニツキ訓令ノ件

第三二号

貴電第七二号ニ関シ

(一)通商協約同盟案第五条第一項及第三項修正ノモノ全文電報アリタシ

(二)同上土国対案第七条付属書三所載原産地証明書ノ形式ハ強ヒテ異議ナケレトモ出来得ヘクハ貨物到着國ノ希望ニ依リ之ニ英文ノ翻訳ヲ付セシムルコトヲ妨ケサル趣旨ヲ追加セシメ得レハ幸甚ナリ蓋シ本邦税関等ニ於テハ仏文ヲ解スルモノ僅少ナルニ由ル尚本条冒頭ニハ *chaque des Hautes Parties Contractantes* トアリテ新第十一條第一項末段ニ於ケルカ如ク *Par la Turquie d'une part* 等ノ如キ字句ナキモ之レ在ルト均シク本条規定ハ土耳其ト同盟國側間ノミニ適用在リテ同盟側相互間ニハ適用ナキモノト解ス或ハ本条等モ前記新第十一條ニ於ケルカ如ク

キ形式ニ書改ムルコト可ナルヘシ

(三)同上土国対案第八条末段ニ関シ元來本規定ハ本条約所載各種ノ事項カ土耳其側ニ片務ノニ規定セラレ居リシカ為之ト交換ノ意味ニテ土耳其側ニ対シ最惠國待遇ヲ与ヘタルモノト思考スル処既ニ本条約案各種ノ規定カ義務的又ハ任意の相互主義ニ改マリタル以上其ノ必要ナカルヘシ然ルニ本規定ヲ其ノ儘存スルトキハ末段 *un traitement aussi favorable* ト在ルニ依リ日本ハ土耳其ニ対シ一切ノ事項ニ関シ最惠國待遇ヲ付与スルノ義務アルニ拘ラス土耳其ハ日本ニ対シ条約所定ノ利益ヲ付与スルノ義務ヲ有スルニ止マリ必スシモ最惠國待遇付与ノ義務ヲ負ハサルコトトナルモノト認メラルルニ付出来得ヘクハ本条ハ削除スルカ又ハ本条ニ代ヘ締約國ノ双方ハ本条約所定一切ノ事項ニ付キ相互ニ最惠國待遇ヲ付与スル趣旨ノ規定ヲ設クルコトトシタシ

(四)土国対案第十条第二項中ニハ沿岸貿易ニ関スル定義ヲ掲ケ居ル処右ニ依ルトキハ所謂米國主義ト称セラレタルモノヲ認ムルコトトナリ國際連盟其ノ他ニ於ケル帝國ノ主張ト扞格シ甚タ面白カラサルニ付同条項中 *c'est-à-dire*

en du même territoire 迄ヲ削除スルカ又ハ右定義ニ代ヘ「各国法ニ依リ其ノ範圍ヲ定ムヘキ」沿岸貿易ヲ本条ノ例外トナス趣旨ヲ規定スルニ止メ一切定義様ノモノヲ掲ケサルコトトセラレタシ

(四)上記(二)及(三)ハ貴方ニ於テ我趣旨ヲ貫徹スル様出来得ル丈ケ御尽力ヲ煩ハシ度キモ貴地會議ノ模様ニ依リテハ当方ヘ電照セラルル迄モナク其ノ儘承認セラレ差支ナシ右為念

二八 六月七日 在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

土国対案第十条規定ニ沿岸貿易ノ定義挿入ニ

対スル我方対案ニツキ請訓ノ件

第九〇号 (六月八日接受)

貴電第三二二号(四)ニ関シ第十条ノ規定中沿岸貿易ノ定義ヲ掲クルヲ避クルコト我方ニ取り好都合ト考ヘ第一次會議中起草委員會ニ於テ我方ヨリ提議シ之ヲ削除シタルカ専門家側ニテ斯ノ如ク単ニ沿岸貿易ト規定スルトキハ土国政府ニ於テ如何ナル広キ範圍ノ定義ヲ取ルヤモ計リ難ク實際上何等確實ナル保障ナキコトナル虞アリトテ強硬ナル反対ヲ為

シ遂ニ現在ノ案文トナリタル次第ニテ定義ヲ削除スルコト會議同盟側各国ニ於テ不同意アリ從テ其範圍各国ノ法制ニ依ルコトトスルモ同様ナルヘク同項ハ已ニ正式ニ委員會ヲ通過シ居リ此際我方ヨリ貴電御来示ノ修正ヲ提議スルモ到底成效ノ望ナキニ付若シ是非必要アリトナラハ本項案文ハ其儘ト為シ置キ唯適當ノ機會ヲ捉ヘ本項ヲ承諾スルコトハ沿岸貿易ノ意義ニ関シ帝國從來ノ主張ヲ變更スルモノト解釈スヘカラサル旨ノ声明ヲ為シ之ヲ記録ニ止メ以テ帝國ノ主張ヲ將來ニ妨ケサルヲ期スルノ外途ナシト思考ス何分ノ儀至急御回訓ヲ請フ

二九 六月九日 内田外務大臣ヨリ
在ローザンヌ近東平和會議代表宛(電報)

土国対案第十条規定ニ沿岸貿易ノ定義挿入ニ

対スル我方対案ニツキ回訓ノ件

第三九号

貴電第九〇号ニ関シ本邦トシテハ各国ヲシテ沿岸貿易地域ヲナルヘク狭小ノ範圍ニ局限セシメタキ方針ナル処新第九條ニ依レハ英國力將來本土ト例ヘハ香港新嘉坡等トノ間ヲモ右区域ニ包含セシムルニ至ルモ我ニ於テ抗議スルニ困難

第九九号 (六月十二日接受)

ナル立場ヲ生スルナキヲ虞レラルルニ付四月二十三日ヨリ「ジュネーヴ」ニ開キタル連盟交通委員會ヘ英仏伊等専門家委員ノ起草ニ依リ提出セラレタル港ニ関スル条約案第六條(在仏代理大使宛電第三二八号)ト同一ノ趣旨ヲ用フルコトニ今一応尽力セラレタク若シ採用到底困難ナル場合ニハ貴電末段ノ趣旨ニ遵ヒ帝國政府ニ於テ本項ヲ承諾スルニ因リ各国カ現行法ニ於テ定ムル以上ニ沿岸貿易ノ範圍ヲ拡張スルコトヲ承諾シタルモノト解スヘカラサル趣旨ヲ声明シ其ノ旨ヲ記録ニ止メララルルコト致シタシ尚英、仏、伊、羅、「セルビア」等ニ於ケル沿岸貿易ニ関スル現行法ハ前記専門家委員起草条約案ト合致スル次第ナルニ付是等諸国ト土国トノ条約ニ之ヲ挿入スルコト異議ナカルヘキモ交通委員會ニ於テハ種々ノ議論出テ結局總會ノ議迄留保セラルルニ至リタルモニ屬ス

三〇 六月十一日 在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

沿岸貿易ニ関スル条文ノ修正提議ハ見合セ我

立場ノ声明ニ止ムルコトトスル旨申進ノ件

付記 沿岸貿易ニ関スル新第九條案

モ時期既ニ遅ク又同条項ノ趣旨ヲ提議セバ種々ノ議論出デ到底纏マルマジトノ点ニ一致シタルガ兎モ角兩國政府ニ請訓スペシトノ事ナルガ其ノ回訓ハ多分否定的ニシテ我方ノ

主張ニ副フマジト予想セラルル由ナリ就テハ条文ノ修正提議ヲ見合セ往電第九〇号末段ノ趣旨ニテ声明ヲ為スニ止メ度ク又此ノ場合ニ於テモ貴電ノ如ク沿岸貿易ノ範圍ノ決定ニ関スル各国ノ權利ニ対シ制限ヲ試ミントスルガ如キ趣旨ニテ声明スルトキハ勢各国モ之ニ応酬シテ日本ノ主張ヲ打消スベク結局拙電ノ如ク各国ノ立場ヲ傷ケズシテ只我方ノ主張ヲ明確ニ存スルノ方法ニ出ズルニ如カザルベシ第三委員会ハ兩三日中ニモ開催ノ運びニ至ルベク其ノ節貴訓ヲ待ツテ措置スル余裕ナカルベキニ付右様取計フ積リナリ御含置キラ請フ

英、仏、土耳其へ転電セリ

(付記)

沿岸貿易ニ関スル新第九条案

SECTION 2

Article 9.

La Turquie s'engage, à condition qu'un traitement réciproque lui soit accordé en la matière, à accorder aux navires des autres Puissances Contractantes un traitement égal à celui qu'elle accorde aux navires nationaux ou un traitement plus favorable qu'elle accorde ou

pourrait accorder aux navires de toute autre Puissance.

Chacune des Hautes Parties Contractantes conserve le droit de réserver à son pavillon la pêche, le cabotage maritime, c'est-à-dire le transport par mer de marchandises et voyageurs embarqués dans un port de son territoire vers un autre port du même territoire, et les services des ports, c'est-à-dire le remorquage, le pilotage et tous services intérieurs de quelque nature que ce soit.

Si la Turquie réserve au pavillon national le cabotage maritime et la pêche, elle pourra néanmoins accéder à cet égard un traitement spécial au pavillon de l'un quelconque des territoires détachés en vertu du Traité de Paix en date de ce jour, sans que le bénéfice de ce traitement puisse être réclamé par d'autres pavillons.

La Turquie permettra, à titre transitoire, pendant une période de cinq ans, le transport de marchandises et voyageurs d'un port turc à un autre port turc aux entreprises qui ressortissent aux autres pays contractants et qui ne seraient point affectées exclusivement à ce trafic.

三一 六月十一日 内田外務大臣ヨリ
在ローザンヌ近東平和會議代表宛(電報)

沿岸貿易ニ関スル条文ノ修正ニツキ訓令ノ件

第四一号

往電第三九号ニ関シ交通委員会起草ノ沿岸貿易ニ関スル定義ヲ挿入スルコト困難ナル場合ニハ本条第二項ヲ第一項及ヒ他ノ任意の相互主義ヲ規定セル各条ニ準シ土耳其側ニノミ適用スル形式ニ改ムルコト

即チ第二項冒頭 Chacune des Hautes Parties Contractantes conserve le droit de 在ルヲ削除シ之ニ代ヘToutefois la disposition qui précède ne porte pas atteinte au droit qu'à la Turquie de corriger ses conditions par la présente 妥結セラルルモ差支ナシ

三二 六月十二日 在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

沿岸貿易ニ関スル条文ノ修正ハ必要ナキモノ

ト考フル旨意見申進ノ件

第一〇〇号

貴電第四一号ハ往電第九九号ト行違ヒテ接到ノ所御来示ノ

通り第九条第二項ヲ修正シテ土国側ノミニテ權利ヲ認ムルコトトスルハ同盟側ニテ承諾セザルベキコト殆ンド明ニテ相互的ニ同盟側ニテモ土国ニ認メタルト同一ノ權利ヲ留保スベキコトヲ主張スベク其結果ハ貴電ノ修正ヲ加ヘタル第二項末尾ニ「Le même droit sera réservé à chacune des autres Puissances Contractantes dans ses rapports avec la Turquie」ナル意味ノ文句ヲ付加スルヲ要スルコトトナルベク又何レニシテモ土国当然ノ權利トシテ之ヲ認メタルコトハ他ノ諸国ニ対シテモ勿論同様ナラザルヲ得ズ結果ハ原案ト何等扱フ所ナキ所現在ノ条文ノ儘ニテモ之ヲ以テ沿岸貿易ニ関シ各国ニ共通スベキ從來ノ大原則ヲ掲ゲタルモノトハ解スベカラザルコト前電ノ通りニテ本条文ノミヨリ考フレバ或ハ明確ヲ欠ク嫌ヒナキニ非ザルモ通商協約全体ノ精神並其前文ニ一方同盟ノ国他方土国ト明定セルヨリ之ヲ考フルトキハ前記ノ如キ誤解ヲ生ズル余地ナク本条ハ同盟各国ト土国トノ關係ヲ規定シタルモノナルコト殆ンド疑ヒヲ容レザルベク結局前記ノ変更ヲ加フルモ現在ノ条文ト其意味ニ於テ大差ナキコトナルベシ又貴電第三二二号(二)後段第七条ノ形式ニ関スル御来示ノ件モ本件ト性質ヲ同ジク

スル所同条ノ規定ヲ以テ例ヘバ日英間ニ実施セラルベキ原
産地証明ノ形式ヲ定メタルモノトハ何人モ了解セズ起草委
員会ニテモ勿論其意見ナリシニ依リ御来示ノ如キ修正ハ之
ヲ差控ヘタル次第第二付第九条ニ関シテモ同一ノ解釈ヲ与ヘ
ラルベキコト当然ノ儀ニテ益々貴電修正ノ必要アリヤ甚ダ
疑ハシク往電第九号ノ宣言サヘ之ヲナスノ果シテ時宜ニ
適スルヤ疑問ナリト思考セラルルニ付テハ右宣言ヲナスベ
キヤ否ヤ折返シ電報アリタシ

英、仏、土へ転電セリ

三三 六月十四日 内田外務大臣ヨリ
在ローザンヌ近東平和會議代表宛(電報)

沿岸貿易ニ関スル第九条第二項規定ノ定義ニ

ツキ我立場声明方訓令ノ件

第四四号

貴電第一〇〇号ニ関シ

(一) 当方ニ於テモ第九条第二項ハ本通商協約ノ前文ニ照シ一
方各連合他方土耳其トノ間ノ關係ヲ律セルモノト解釈
シ居レルハ往電第三二二号(二)後段ヲ以テ申進シタル所ニ依
ルモ御承知ノ通りト思考セラルル処元来当方ニ於テ本件

ヲ重視スルハ同項ヲ連合他方ニ適用スルコトナルモノ
ト誤解シ居ルカ為ニ非ス往電第三九号前段ヲ以テ申進シ
タル通り各連合他方等シテ殊ニ帝國ニ於テスラ既ニ條約ノ
明文ニ依リ土耳其ニ對シ沿岸貿易ヲ廣キ範圍ニ留保スル
ノ權利ヲ獲得セル後ニ於テ本協約締結國相互間及ヒ其他
ノ一般諸國ニ對シ沿岸貿易ヲ狹義ニ解釈スヘキコトノ主
張ヲ試ムルハ自家撞着ノ嫌在リ少クトモ衡平ノ觀念ニ扞
格スルモノト云ハサルヲ得サル破目ニ陥ルカ為メナリ即
チ我ニ於テ一旦此ノ如ク英仏伊重要海運諸國ト共ニ土耳
古トノ條約ニ於テ廣キ範圍ニ沿岸貿易ヲ解スヘキコトノ
權利ヲ留保スルコトハ國際連盟ニ於ケル交通及經濟委員
会ニ於ケル帝國委員ノ主張ニ累ヲ及ホス外更ニ往電第三
九号前段申進シタル通り向後帝國海運業ノ利益ニ反スル
列國ノ措置ニ對シ抗議スルニ際シ其ノ立場ニ惡影響ヲ及
ホスヘキヲ恐ルルモノナリ就テハ前記諸事情篤ト御考量
セラレ又本件ハ帝國海運業ノ將來ニ對シ重要ナル關係ア
ルコトヲ御含ミノ上少クトモ貴電第九〇号末段留保ヲ適
当ノ機會ニ記録ニ止メ置カレタシ

(二) 尚往電第四一〇号ニ関シ貴電第一〇〇号御具申ノ次第アル

モ元来第九条第一項ハ輸出入禁止ノ解除及内国税ニ関ス
ル同盟案第四条第五号等ト等シク土耳其古ラ規定ノ主体ト
シ土耳其古側ノミニ義務ヲ規定セルモノナルニ付第二項ニ
於テ改メテ同盟國側ノ權利ヲ留保スルノ必要ナシト思考
セラル從テ往電第四一〇号ノ通り第二項ヲ第一項追加乃至
解釈の規定トナシ土耳其古ノミニ權利ヲ留保スルコトニ修
正セハ最善且ツ最も容易ナル解決ナルヘシト思考ス又右
ニ付キ貴電ノ如キ同盟側ニ於テ異議出ツル虞アラハ第二
項ヲ第一項ニ併合シ土耳其古側留保ヲ第一項ノ末尾ニ併記
スルコトモ一案ナルヘシ就テハ前記修正案一応列國委員
ニ説明ヲ試ミ相成ルヘクハ其ノ同意ヲ取付クル様御尽力
アリタシ

三四 六月十七日 在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

沿岸貿易ニ関スル第九条第二項ノ規定ニ對ス
ル我方提示ノ修正案ニツキ英仏專門委員反對
ノ旨報告ノ件

第一〇八号

(六月十八日接受)

貴電第四四号ニ関シ同電(二)ノ趣旨ニ從ヒ第二項冒頭ヲ

Sans préjudice du droit de la Turquie de réserver son
pavillon 云々ニ改メ之ヲ第一項末尾ニ結び付ケタルモノヲ

英、仏、伊三國專門委員ニ提示シ我立場ヲ詳細説明セル処
何レモ日本側ガ原案ノ承諾ヲ困難トスル事情ヲ十分諒解セ
ルモ往電第一〇〇号ニテ申進シタル通り我修正ニ對シ英、
仏委員共ニ土國ニ認メタル同様ノ權利ハ同盟側ニモ当然
之ヲ留保スルヲ要シ然ラザレバ同盟國ハ土國ト對等ノ地位
ニ立タズ且土國ハ同盟國ノ船舶ニ對シ自國內ノ沿岸貿易ヲ
許可セザルニ拘ハラズ同盟國ニ對シテハ自國船ニ對シ之ヲ
主張シ得ルヤノ觀ヲ呈シ希國ノ如キハ將ニ之ガ為恐慌ヲ来
スモノノ一ナルベシト云ヒ又第一項ニ相互條件ノ規定ナク
單ニ土國ノ義務ノミヲ規定セルモノトセバ日本側ノ修正ハ
或ハ容レ得ベキモ然ラザル以上ハ沿岸貿易ノ權利モ又相互
的ニ同様ナラザルヲ得ズ然ルニ第一項ノ相互條件ヲ放棄シ
得ザル事情ハ日本側ニテモ充分御了知ノ事ナルベク右ニ付
日本ノ立場モ去ル事ナガラ該修正ニハ如何ニモ同意シ難シ
ト述ベ伊ハ強ヒテ不同意ニ非ザリシモ去リトテ我ヲ支持ス
ルニ至ラズ結局我修正ハ英仏ノ反對ノ為遺憾ナガラ實現シ
得ザルニ至レル処三國共第二項ヲ土國ト同盟各國間ノ關係

ニ止メ同盟国間ニハ適用無キ意味ヲ明確ナラシムルニハ反
對無カリシニ付少クトモ此ノ趣旨ニテ第二項ヲ修正シ置ク
方有利ト思考シ同項冒頭ニ Dans les rapports entre la
Turquie et les autres Puissances Contractantes ヲ加フル
事トセリ(該修正ハ未ダ土国側ト交渉ノ遑ナキモ多分異議
無カルベシ)

就テハ充分貴意ニ副フ能ハザルモ本件ハ右冒頭ノ修正ヲ以
テ一段落ト致シ度ク必要アラバ之ガ補充トシテ往電第九〇
号ノ起案ヲ為ス事トスベシ尙往電第一〇〇号末段第七条ノ
形式モ貴電第三二号(二)後段ノ趣旨ニテ修正シ置ケリ尤モ(二)
前段原産地証明書英文添付ノ件ハ土国トシテハ反對ニ英文
ノ採用ヲ困難トスベキ而已ナラズ本件ヲ提議スルニ於テハ
均衡上伊国モ自国文ノ採用ヲ申出デ我方ニ取り却テ用語ニ
関シ主義上ノ問題ヲ生ズル虞アリタルニ付本件ハ日土通商
条約交渉ノ際ニ譲リ今回ハ見合ス事トセリ右御含ヲ請フ
英、土ヘ転電セリ

三五 七月十八日 内田外務大臣ヨリ
在ローザンヌ近東平和會議代表宛(電報)

近東平和条約ニ於ケル露国調印ノ有無問合せ

ノ件

第五四号

近ク調印ノ連ニ至ルヘキ条約協約等ノ編別及署名国名確定
次第電報アリタク又露国ハ海峽協約ニ署名セサルモノト認
メラルル処果シテ然ルヤ回電アリタシ

三六 七月

外務省公表案

近東平和条約ソノ他諸文書ノ調印ニ関スル外

務省公表案

公表案

対土平和条約其他ノ調印

七月二十四日瑞西ノ「ローザンヌ」テ調印サレタ対土平和
条約其他協約議定書宣言等ハ十四ノ多数ニ上リ中ニハ随分
浩瀚ナモノモアルカ茲ニハ其概要タケヲ紹介スル

(一) 平和条約

百四十三箇条カラ成リ政治、財政、經濟、交通衛生及雜
則ノ五編ニ分レテ居ル

先ツ締約国双方ノ間ニ平和状態カ回復セラレテ公關係成
立シ外交官及領事官ハ國際法ノ一般原則ニ基ク取扱ヲ受

クヘキコトカ規定サレタ次ニ領土問題ニ関シテハ土国ハ
「マリツツア」河ニ達スル地方ヲ回復シ「シリア」ノ仏
國勢力範圍地域トノ境界ハ一九二一年十月二十日仏土協
定第八條ニ依テ定メ又「メソポタミア」トノ境界ハ條約
實施後一年内ニ英土間ニ直接協定スルコトトシ若シ交渉
カ纏マラナケレハ國際連盟理事會ノ決定ニ委ネルコトト
ナツタ土耳其ノ東方國境ハ條約中ニ規定サレテ居ナイ又
「インプロス」、「テネドス」等ノ諸島及亞細亞沿岸三哩
以内ノ諸島ハ土國領トシテ残り「ドデカネス」諸島ハ伊
國ニ割讓サレタカ「レムース」、「サモトラス」等ノ諸島
ハ全部希臘領トシテ確認サレタ其ノ他前記土國國境ノ外
ニ在ル地域ニ對スル土耳其ノ權利ノ拋棄海峽自由ノ原則
治外法權撤廃國籍少數民族問題等カ規定サレテ居ル

次ニ土國ノ領土ヲ獲得シ又ハ土國カラ分離シタ國ニ土國
ノ旧公債ヲ分配スル規定カアル賠償問題ニ就テハ土國カ
獨逸兩國ノ中央銀行ニ寄託シタ五百万土磅ノ金貨ト土耳
其カ英國ニ註文シタ軍艦手付金五百万英磅ノ金貨トヲ連
合側ニ与ヘ土國ト連合側トノ間ノ一切ノ損害ヲ相殺スル
コトニ一旦話合力出來テ居タカ其後英國ハ内政上ノ理由

(二) 海峽協約

平時テモ又戰時テモ軍艦商船航空機ノ別ナク原則トシテ

「ダーダネルス」「ボスフォラス」両海峡及「マルモラ」海ヲ通航シ得ル自由ヲ定メ一國カ黒海ヲ目的地トシテ海峡ヲ通過セシメ得ル最大兵力ハ黒海沿岸國ノ最強ノ艦隊ヲ限度トスルケレトモ各國ハ一万噸以下ノ軍艦三隻ヲ限リ黒海ニ派遣スルコトカ出来ル其ノ他海峡武装解除、海峡委員會、海峡保障問題等カ規定サレテ居ル海峡委員會ハ軍艦及軍用航空機ノ海峡通過監督ノ權限ヲ有シ我國モ之ニ参加スルコトナツテ居ル又海峡ノ自由カ侵害サルル場合ニハ締約國殊ニ日、英、仏、伊ノ四國ハ國際連盟理事會ノ決定スル方法ニ依リ共同シテ之ヲ阻止セネハナラヌコトヲ定メテ居ルカ之レハ連盟規約第十條ノ保障ノ延長トモ認ムヘキモノテアル日、英、仏、伊ノ四國ハ連盟理事會ニ常任理事ヲ出シテ居ル關係カラ右ノ如ク規定サレタ次第テアル我國カ海峡委員會ニ参加シテ海峡自由ヲ保障スル責任ヲ負担シタノハ我國ノ威力カ土耳其方面ニ迄及フコトトナツタ結果テハアルカ又一面我國民力將來土耳其沿岸カラ黒海方面ニ至ル迄經濟的發展ヲ為ス場合ヤ露西亞ニ對スル關係ナトモ顧慮サレタ結果テアル尚此ノ協約ニハ露西亞カ八月十四日迄二人ヲ君府ニ派シテ

之モ治外法權撤廃ノ善後策ノ一テアツテ原則トシテ五箇年ヲ有効期限トシテ居ル其ノ内容ハ土國ノ關稅ニ對スル一定ノ制限締約國船舶ノ待遇不正商業禁止等ニ關スル規定テアル

(七) 大赦宣言

締約國ハ一定ノ範圍内テ相互ニ大赦ヲ為スヘシトノ規定テアルカ我國ニハ關係カナ

(八) 希臘ニ於ケル回教徒不動産ニ關スル宣言

コレモ亦我國ニハ無關係テアル

(九) 衛生問題ニ關スル宣言

君府高級衛生委員會廢止ノ善後策テアツテ土國ハ歐羅巴人タル医師ヲ顧問ニ僱聘スヘシト云フ宣言テアル

(十) 利權ニ關スル議定書

戰前ニ土耳其ニアツタ外國人ノ旧利權ノ維持更新ニ關スル規定テアツテ我國ニハ關係カナイカラ我全權ハ此議定書ニ署名シナカッタケレトモ同時ニ土耳其国内ニ於ケル門戶解放機會均等主義ノ主張ヲ聲明シテ我立場ヲ明ニシタ

(十一) 白葡兩國ノ平和條約一部参加ニ關スル議定書及兩國ノ

追加調印スル答トナツテ居ルコトハ注目ヲ要スル
(三) 「スレーズ」國境ニ關スル協約
「スレーズ」國境ノ兩側各三十基米内ノ武装解除ニ關スル規定テアル

(四) 居住及司法管轄ニ關スル協約

治外法權撤廃ノ善後策ノ一テアツテ其有効期間ハ七年テアル入國滞在所有ノ自由土国内ノ外人ニ對スル對人的租稅カ土國人ト同等ナルヘキコト及出訴ノ自由等ヲ定メ概ネ相互主義トナツテ居ル只親族相統ノ問題ニ就テハ土國在住ノ他締約國ノ回教徒ニ非ラサル國民ニ關スル限り本國裁判所又ハ本國官憲ノ管轄ニ屬スルコトトナツタカラ此ノ点ニハ一種ノ治外法權カ殘ルモノト見ルコトカ出来ル

(五) 土國司法制度宣言

領事裁判權撤廃ノ善後策テアツテ五ヶ年間有効テアル土國ハ海牙常設國際司法裁判所ノ調製スル表ニ基キ中立國ノ法曹家中カラ歐羅巴人タル法務顧問ヲ自國官吏トシテ選任シ之ニ裁判監視權等ヲ与フルコトカ定メラレテ居ル

(六) 通商協約

参加宣言

英仏伊三國占領軍撤退ニ關スル議定書、「カラガッチ」地方及「テネドス」「インブロス」島ニ關スル議定書、希臘少數民族條約及「スレーズ」條約ニ關スル議定書之等ハ何レモ實質上我國ニ關係カナ

(七) 最終議定書

會議成立ノ由來及各參加國ノ會議ニ於ケル地位等ヲ明ニスル目的ヲ以テ作成サレタモノテアル
之ヲ要スルニ對シ平和條約上我國ノ主ナル利益ハ第一列國ト均等ノ地步テ土國ト條約關係ヲ開イタコト、第二我國威ヲ近東方面ニ示シ且海峡問題ニ關係シ得ルコトトナツタコトノ二点テアル既往數年ニ亘ル近東問題カ茲ニ解決ヲ告ゲタコトハ世界平和ノ為悦ハシイコトテアルト同時ニ我國民ハ近東方面ニモ經濟的活動ノ地カ開カレテ居ルコトヲ見逃シテハナラヌ

三七 七月二十一日 在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

沿岸貿易既得權ニ對スル我國ノ均霑ニ關スル
交渉ハ一応打切リトスル旨申進ノ件

別電

七月二十一日在ローザンヌ近東平和會議代表宛内
田外務大臣宛電報第一五八号
沿岸貿易既得權許与ノ英仏伊ノ三会社ニ関スルト
ルコ國書面案

第一五七号

(七月二十二日接受)

往電第一三八号ニ関シ

第三委員會ニ於テ通商協約第九条第三項第四項削除ノ結果
英仏伊撤兵宣言第三項トシテ往電第一四三号ノ規定ヲ設ケ
タル趣不取敢電報シ置キタル所往電第一二七号(二)中通商協
約第九条ニ関シ説明セル英仏伊宛土國ノ書翰ハ同電記載ノ
通英仏伊三国ノ沿岸貿易既得權中各三会社ニ限り二年間營
業繼續許可ノ趣旨ニテ協定成リタルモ英國側ニハ右既得權
者十二会社アリ内三会社ヲ選定スルコト困難ナル事情アリ
シ為メ本年末迄ハ既得者全部ニ對シ營業ヲ繼續スルヲ得セ
シメ来年一月一日以降ハ前記三会社ニ限り營業セシムルコ
トニ話合成リ其結果前記撤兵宣言第三項ノ規定ヲ見タル次
第ナリ然ルニ英仏伊ノ三会社ニ関スル土國ノ書面ハ之迄入
手ヲ試ミタルモ果ササリシ処二十日起草委員會ニテ土國側
ヨリ披露セル該書面案ニ依レハ別電第一五八号ノ如キ文句

アリテ怡モ土國政府ハ特定会社ト特別ノ契約ヲ締ヒ年限ニ
制限ナク沿岸貿易ヲ許容スルコトアルヘキヤニ見ヘ又来年
一月以降六ヶ月内ニ右契約成立セサル場合ニハ其後二年間
ハ尠クトモ沿岸貿易ヲ繼續シ得ルコトナリ居レル所元来
本件書翰ニ折合フ迄ノ経緯ハ既ニ御承知ノ通り可ナリ困難
ナリシ事情ニ顧ミ土國側カ無限ニ英仏伊ノ既得權会社ニ對
シ營業繼續ヲ許可スヘントモ思ハレス又土國全權ニ對シ本
使ヨリ一定年限後日本ノ船舶モ三国ノ特權者ト同等ニ取扱
ハルヘキ義ニ関シ交渉ヲ試ミタル成行ハ往電第八三号ノ通
ニテ今再ヒ我方ヨリ均霑ヲ申込ムモ土國側ニテ同意セサル
ヘキハ殆ト明ニ付本件ハ他日同國ト通商條約カ締結ノ日要
スレハ談判スルコトトシ当地ニテハ交渉打切リト致シタク
右御含置ヲ請フ

英、土へ転電セリ

(別電)

七月二十一日在ローザンヌ近東平和會議代表宛内田外務大臣
宛電報第一五八号
沿岸貿易既得權許与ノ英仏伊ノ三会社ニ関スルトルコ國書面
案

第一五八号

(七月二十二日接受)

Le Gouvernement turc consent à ce que les entre-
prises ci-après indiquées pratiquant jusqu'à présent un
service régulier dans les eaux turques, effectuent en
Turquie le transport des marchandises et voyageurs
d'un port à un autre et il est disposé à négocier avec
elles les conditions auxquelles elles pourraient éventu-
ellement continuer ce trafic pour toute période prévue
au contrat qu'elles concluraient avec lui.

Si, dans un délai de six mois à dater du 1^{er} jan-
vier 1924, ces négociations n'avaient pas abouti à un
accord, lesdites entreprises n'auraient droit de pour-
suivre leur activité que pendant une durée ultérieure
de deux ans, aux conditions actuelles.

英土へ転電セリ

Zenzen

三八

七月二十三日

内田外務大臣ヨリ
在ローザンヌ近東平和會議代表宛
(電報)

近東平和条約ノ調印ニツキ了承ノ件

第五八号

貴電第一四八号ニ関シ從來御報告ノ趣旨ニテ勞山条約ニ調
印セラレ差支ナシ尚条約文復本十五部並出来得レハ英國全

權事務所等ニテ作成ノ英訳文数部調印次第大至急郵送アリ
タシ

英へ転電シ尚前段ハ其他ノ各大使並ニ土へ転電アリタシ

三九

七月二十三日

在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

沿岸貿易並ニ軍艦ノ海峡通過問題ニツキイス

メットト意見交換ノ件

第一六〇号

(七月二十四日接受)

二十三日日本使「イスメット」ニ面会先ヅ条約愈々調印ニ決
シ日土兩國間ニモ条約關係成立スルニ至レルハ同慶ノ次第
ニテ此後兩國ノ国交益親善ナランコトヲ希望スル旨ヲ述ベ
次イデ訣別ニ先立チ一、二意見ヲ交換シタキ義アリトテ往
電第一五七号沿岸貿易ニ関スル英、仏、伊宛土國ノ書簡ニ
言及シ本件ハ前回貴全權ト会谈ノ際ニハ三国ノ既得權会社
ノ清算ノ為必要ノ期間營業繼續ヲ土國側ニテ許与スル趣旨
ト明カニ了解シ居リタルニ拘ハラズ今回ノ土國側書面ニ依
レバ業務整理ノ目的以上ニ亘リ或ハ三国会社トノ話合ヒ次
第ニテハ長期間ノ特許トモ成リ得ル様思考セラルル処日本
ハ世界ノ大海運國ノ一トシテ航海自由ノ問題ニ對シテハ大

ナル利害關係ヲ有シ從テ本件三国会社ノ問題ニ関シテモ特ニ注意シ居ル次第ナルニ付テハ該会社ニ対シ清算ノ目的以上ニ特權ヲ与フル場合ニハ日本ノ海運業者ニ対シテモ同等ノ考量ヲ与ヘラレンコトヲ希望スト述ベタル処「イスメット」ハ実ハ本件土国側ノ書面ニハ土国ノ希望ニ反スル文句アルモ伊、仏、英ノ圧迫甚ダ數ク且本条約調印間際ノ事ニモアリ又現実ノ問題トシテハ土国ハ来年一月一日以降最大限二年半ノ間營業繼續ヲ認ムル義務ヲ負ヒタルニ過ギザルガ故ニ不本意ナガラ之ガ調印ヲ承認シタル次第ニテ唯今ノ所ニテハ右年限ノ間ノ義務ノ外考慮シ居ラズ尤モ他日交渉ノ曉条件次第ニ依リ三国ノ船会社ニ二年半以後或ル年限間繼續從事セシムル事無シトモ限ラズ而シテ此場合ニハ他ノ外国ノ船会社ニ対シ最惠國待遇ヲ以テ均霑セシムベキ權利ニ非ザルハ勿論ナルモ同時ニ或ル國或ル会社ニノミ特典ヲ与フルト云フ趣旨ニ非ザルヲ以テ土國人ハ日本ニテ差別待遇ヲ受ケザル限り条件ノ如何ニ依リテハ或ハ日本ノ海運業者ニモ右又ハ類似ノ特權ヲ与ヘ他國ニ均霑ヲ許サザル事モ有リ得ベキ事ナリト答ヘタリ依テ本使ハ右「イスメット」ノ説明ヲ諒トスル旨ヲ述ベ且条約協約及付属文書中ニハ主

露國ノ同協約参加ハ如何ナル形式ヲ以テスルモノナリヤ並右参加ト勞農政府正式承認問題トノ關係ニ関スル各國間ノ了解ノ有無及前記關係ニ対スル主要諸國ノ見解折返シ回電アリタシ

四一 七月二十四日 在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

露國ノ海峽協約参加ノ形式ニ関シ回報ノ件

第一六一号 (七月二十五日接受)

貴電第五九号ニ関シ

第一回會議ニテ海峽問題開始當時ヨリ同盟側ニ於テハ露國ノ参加ハ何等法律上ノ承認ヲ意トスルモノニアラストノ立前ニテ態ト承認問題ニ触ルルヲ避ケ難無シニ會議ヲ続行シ來レル次第ニテ今回露國ノ調印ヲ德意シタル際ニモ右趣旨ニ變更ナク勿論露國ノ調印ハ他日法律上ノ承認ヲ得ル一階梯トナルヘシト想像セラルルモ承認問題ノ如キハ當會議ノ權限外トシテ何人モ之ヲ考慮シタルコトナシ右ノ次第ニ付海峽協約及ヒ最終議定書中ニモ調印國名ヲ列挙シタル内ニ露國ニ関シテハ單ニ「la Russie」ト記載シ態ト「ソビエット」ノ文字ヲ省キ露國全權ニハ姓名ヲ記シタルノミニテ官名等

トシテ土國宣言書中海峽三国軍艦通過ノ件ヲ諷シタルモノナリ或ハ外觀上日本ガ他國ト同等ノ地位ニ非ザルヤノ解釈ヲ惹起スル余地アルヤモ計リ難キモ日本トシテハ土國政府ガ特ニ日本ニ差別的待遇ヲ与ヘントスルモノトハ考ヘ居ラズト述ベタル処「イスメット」ハ之ニ対シ勿論其ノ通りニテ若シ條約中右ノ如キ條項アリトセバ夫レハ土國ノ意思ニ基キタルモノニ非ズト明言セリ

以上ハ今後日土間國交樹立ノ衝ニ當ル諸官ノ為或ハ參考トモ成ルベクト存ジ電報ス
英、土へ転電セリ

四〇 七月二十三日 在ローザンヌ近東平和會議代表宛
(電報)

露國ノ海峽協約参加ト同國承認問題トノ關係
ニツキ主要諸國ノ見解回電方訓令ノ件

第五九号

貴電第一五六号ニ関シ

露國ノ海峽協約参加ト承認問題トノ關係並露國参加ノ形式ニ付テハ客往電第三八四号ヲ以テ申進シ置キタル処今般

全部省ケル次第ナリ又露國カ君府ニテ調印ノコトナリタルニ関シテモ起草委員會ニテハ態ト調印議定書ノ作製ヲ見合セタル処之亦露國ニ関スル文書ヲ成ルヘク少クシテ承認問題ニ付「コミット」スルヲ避ケンシタル趣旨ニ出テ露國ノ調印ニ関シテハ往電第一五一号(註)ノ對露通牒ニテ足レリトノ見解ヲ持シ居レリ尚同協約第十二条ハ今回左ノ通り修正セリ第一項 de la Roumanie ノ次ニ de la Russie ヲ加ヘ同項末尾 la présente Convention ヲ du present Traité ニ改メ其次ニ à mesure de la ratification de celle-ci par ces Puissances. ヲ加ヘ第三項 aux Étatsノ間ニ autres ヲ加フ
英、土へ転電セリ

四二 七月二十四日 在ローザンヌ近東平和會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

近東平和條約ソノ他諸文書ニ調印終了ノ件

付記一 大正十三年二月十六日松井外務大臣発清浦内閣

總理大臣宛

ローザンヌ會議關係條約及ヒ議定書御批准奏請ノ件

二 大正十三年四月五日着在英國林大使発松井外務

大臣宛電報第二〇一号

モスレムノ外交上ノ重要性ニ鑑ミローザンヌ条約ノ早期批准ヲ可トスル旨申進ノ件

三

大正十三年五月十七日清浦内閣総理大臣発松井外務大臣宛通牒外甲第一六号

ローザンヌ會議關係條約及ビ議定書御批准裁可ノ件

第一六四号

(七月二十五日接受)

二十四日午後予定ノ如ク労山大学講堂ニ於テ瑞西国大統領司会ノ下ニ平和條約其他諸文書ニ調印ヲ了セリ

「ユーゴスラヴィア」ハ調印ニ参加セス米国代表ハ式ニ参列セルモ最終議定書ニ調印セス其他調印国名既報ノ通

希、土、蘭、波、「チエック」及在欧洲各大使へ転電セリ

(付記一)

大正十三年二月十六日松井外務大臣発清浦内閣総理大臣宛

ローザンヌ會議關係條約及ビ議定書御批准奏請ノ件

別紙甲号

ローザンヌ會議ニ於テ我國全權ノ署名シタル諸條約及ビ諸議定書

乙号

ローザンヌ會議ノ前又ハ後ニ於テ我國全權ノ署名シタル諸條約及ビ議定書

条一機密第二六号

テ日本国委員以外ノ關係諸国委員ニ依リ署名セラレタル協定、宣言及議定書ノ正文及訳文各四部併セテ添付致置候

甲号

一、平和條約

二、海峡ノ制度ニ關スル條約

三、「トラース」国境ニ關スル條約

四、居住及裁判管轄ニ關スル條約

五、通商條約

六、「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル文書中一定ノ規定ニ對スル白耳義国及葡萄牙国ノ加入ニ關スル議定書

七、「カラガッチ」ノ領域並「インブロス」島及「テネドス」島ニ關スル議定書

八、千九百二十年八月十日「セーヴル」ニ於テ主タル同盟国及希臘国間ニ締結セラレタル希臘国ニ於ケル少数民族ノ保護ニ關スル條約ニ關スル並同日付ヲ以テ同国間ニ締結セラレタル「トラース」ニ關スル條約ニ關スル議定書
九、「セルブ・クロアット・スロヴェニア」国ノ署名ニ關スル議定書

大正十三年二月十六日

松井外務大臣

清浦内閣総理大臣宛

「ローザンヌ」會議關係條約及議定書御批准

奏請ノ件

大正十二年四月二十三日ヨリ同年七月二十四日ニ亘リ開催セラレタル第二回「ローザンヌ」會議ニ於テ帝国全權委員カ關係各国全權委員ト共ニ署名シタル別紙甲号記載ノ諸條約及諸議定書並右ニ關連シ帝国全權委員カ關係各国全權委員ト共ニ同會議ノ前又ハ後ニ於テ署名シタル別紙乙号記載ノ諸條約及議定書ノ御批准ノ儀ニ關シ別紙丙号、丁号、戊号及己号ノ通上奏致候間可然御取計相成度前記諸條約及諸議定書ノ正文及訳文各四部相添此段申進候也

追テ同會議ニ於テ帝国全權委員ハ關係各国全權委員ト共ニ「同會議最終議定書」及「大赦ニ關スル宣言及議定書」ニ署名シ又土耳其国全權委員トノ間ニ「居住ニ關スル條約第二条ニ關スル公文」ヲ交換致候ニ付右各正文及訳文四部相添置候

尚参考トシテ第一回又ハ第二回「ローザンヌ」會議ニ於

乙号

一、希臘国以外ノ同盟国国民カ土耳其国ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評価及賠償ニ關スル條約

二、羅馬尼亞国ノ「希臘国以外ノ同盟国国民カ土耳其国ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評価及賠償ニ關スル條約」ニ對スル署名ノ權限ニ關スル議定書

三、少数民族ニ關スル主タル同盟国及連合国ト希臘国トノ條約

四、「トラース」ノ主權ニ關スル主タル同盟及連合国ト希臘国トノ條約

編註 別紙丙号、丁号、戊号及己号ハ省略

(付記二)

大正十三年四月五日着在英国林大使発松井外務大臣宛電報第二〇一号

モスレムノ外交上ノ重要性ニ鑑ミローザンヌ條約ノ早期批准ヲ可トスル旨申進ノ件

第二〇一号

(一)對土勞山條約ニ對スル当国現政府ノ態度並ニ下院討論ノ狀況往電第一九七号ノ通ナルニ付遠カラズ当国ガ同條約ヲ批准スベキハ殆ド既定ノ事実ト云フベク英国批准ノ後ニ於

テハ同条約実施遅延ノ責任ハ日、仏ニ於テ負ハザルベカラザル結果ヲ出来スベキニ鑑ミ我國ニ於テハ成ルベク早く本条約御批准方取計ハルル様致度シ

(二)本条約實施ノ結果土国領域ノ著シク縮小セラルルハ事実ナルモ土国天然ノ地形ハ「スエズ」運河「ボスボラス」海峡「ダーダネル」等世界交通ノ要路ヲ控ヘル事各所ニ散在セル「モスレム」ガ個人ノ一大勢力タル等及從來ノ永キ歴史的關係等ニ顧ミ其ノ首都ノ君府タルト又ハ「アンゴラ」タルトノ問題ハ残レルガ今日ノ狀勢ニテハ主要列國ハ多分大使ヲ派遣スルニ至ルベシト觀測セラレ

三、「モスレム」ハ其ノ信徒ノ總數ヨリスルモ又其ノ占拠セル地域ノ國際的重要ヨリスルモ將又其ノ広汎ナル分布ヨリスルモ共ニ現代世界ノ一大勢力タリ今我國ノ立場ヨリ考察スルトキハ回宗トノ關係ハ將來最緊切ナラシメサル可カラサルモノノ一ナルヘシ自今右在土帝國代表者ヲ中心トシ本省ニ於テモ特ニ「モスレム」ノ行動ニ付研究セラレ其ノ主要人物トハ常ニ接觸ヲ保チ居ルコト肝要ト認メラル就テハ列國大使派遣ノ情勢ト「モスレム」ノ外交上ニ於ケル重要トニ顧ミ活動ノ便(宜)上帝國ニ於テモ土耳其ニハ条約

ニツキ英國政府ノ意向打診方訓令ノ件

第二一〇号

七月二十日勞山會議全權ヨリ露國ハ八月十四日迄ニ君府ニ於テ海峽協約ニ調印ノコトニ決定セル趣來電アリタル処露國ノ海峽協約参加ト露國政府承認トノ關係ニ付テハ客年貴使宛往電第三八四号ヲ以テ申進シ置キタル次第アルニ付會議全權ニ対シ今般露國ノ同協約参加ノ形式並右参加ト勞農政府正式承認トノ關係ニ関スル各國間ノ了解ノ有無及前記關係ニ対スル主要諸國ノ見解如何ヲ問合セタル処會議全權來電第一六一号(勞山ヨリ貴方ヘ郵送ノ答)ノ通回電アリタリ、然ルニ本件ニ関シテハ法律上ノ承認ト認ムル能ハザル根拠ヲ充分明瞭ニ為シ置ク必要アルニ付貴官ハ任國政府ニ対シ露國ノ協約参加ト露國政府承認トノ關係ニ関スル先方ノ意向ヲ求メラレ結果至急電報アリタシ

右本大臣訓令トシテ仏白伊ヘ轉電アリタシ尚伊白ヘハ本電ト共ニ客年貴使宛往電第三八四号並勞山會議全權來電第一六一号轉電アリタシ

四四 七月二十八日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

批准ト共ニ直ニ大使タラシメ得ル人物ヲ派遣セラレ置カルルヲ可ト思考ス右御參考迄ニ本使ノ私見ヲ申進ス

在仏、伊大使及土ヘ暗送セリ

(付記三)

大正十三年五月十七日清浦内閣總理大臣發松井外務大臣宛通牒外甲第一六号
御批准裁可ノ件ローザンヌ會議關係條約及ビ議定書

外甲第一六号

大正十三年五月十七日

内閣總理大臣子爵 清浦 奎吾(印)

外務大臣男爵 松井 慶四郎殿

通牒

大正十三年三月三十一日条一機密第四五号

「ローザンヌ」會議關係條約及議定書御批准ノ件上奏ノ通裁可ヲ經タリ

(欄外註記) 五月三十一日御批准アリタリ

四三 七月二十六日

内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

露國ノ海峽協約参加ト露國政府承認トノ關係

海峽自由通過原則ノ確立ニ関スル理論的解釈

ニツキ申進ノ件

第四五六号

(七月二十九日接受)

長岡公使ヨリ

貴電第四〇四号ニ関シ

倫敦專門家會議ノ當時土國對案カ *conformément à* ノ字句ノミ第一第二兩項ヲ結合セルコトニ付同盟側諸國委員ハ左シテ重キヲ置カサル模様ナリシカ土國對案ノ真意ハ右ノ字句ノ修正ニ依リ海峽協約ヲ待テ自由通過ノ權利ヲ認メタルモノトナス見地ニ出ツト考ヘラレタルニ依リ理論上規定ノ効力ノ範圍ニ大差アルヲ指摘シタル次第ナルコト勞山發往電第一四九号中ヲ以テ申置キタル通りナル処同盟諸國委員ニ於テ土國對案ニ重キヲ置カサリシハ實際問題トシテ之ヲ見ルニ海峽協約ノ規定ニ関シ紛議ヲ生スル場合ニハ平和條約ノ海峽通過自由ニ関スル規定モ亦同時ニ其渦中ニ入ルヘク從テ自由通過原則カ平和條約ニ依リ確認セラレタリトナスト否トハ大差無シト云フニアリタルモ理論上日本ノ見解正當ナルニ顧ミ第二次勞山會議起草委員會ニ於テ同盟側原案ヲ維持シツツ土國對案ノ形式ヲ斟酌シ仏國委員ニ於テ

ainsi qu'il est prévu 云々ノ修正ヲ案出シタルモノニテ土国委員ハ此間ノ消息ヲ覺ラス之ニ同意シタルカ日、英、仏ノ間ニハ右ノ事情良ク諒解セラレ居ル次第ナリ然ルニ大戦以前ニハ海峡ハ各国軍艦ニ対シ閉鎖セラレ居リタルヲ以テ前頭修正ノ趣旨ヲ主張スルニハ平和条約ノ実施ヲ待タサルヘカラス然レ共一度同条約実施ニ入ル時ハ海峡自由通過ノ原則ハ玆ニ確立シ将来海峡協約ヲ變更セントスル場合ニモ平和条約規定ヲ基礎トシ其範圍ニ於テノミ之ヲ許スコトナル次第ナリ從テ自由通過ノ原則ハ海峡協約ヲ待タスシテ存在スト云フヨリモ寧ロ平和条約ニ依リ此原則ヲ定メ海峡協約ニテ其細則ヲ定メタルモノト解スヘキモノニテ少ク共英、仏委員ハ右ニ諒解シ居レリ而シテ土国側ニ対シ右ノ原則論ヲ差控ヘタルハ前陳ノ事情ニ顧ミ条約実施前ニ之ヲ主張スルハ徒ニ紛糾ヲ来ス虞アルヲ(脱)コト勞山發往電第一四九号ニテ申進シタル通りナリ

伊ヘ転電セリ

四五 八月六日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

海峡条約調印ヲ以テ露国政府ノ正式承認ト見

申入レタリ

英伊ヘ転電セリ

四六 八月八日 内田外務大臣ヨリ
在仏国石井大使宛(電報)

海峡条約調印ヲ以テ露国政府ノ正式承認ト見
ナサザル旨ノ宣言参加ニ異議ナキ旨回訓ノ件

第四二七号

貴電第四七四号ニ関シ

帝國政府ハ露国ノ海峡条約参加ヲ以テ勞農政府ノ正式承認ヲ意味スルモノト解セサルヲ以テ關係諸国カ同様ノ趣旨ヲ明カニスル為宣言ヲ為ス場合ニハ之ニ参加シ差支ナシ

四七 八月十五日 在伊国落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

露国代表海峡協約ニ調印ノ件

第一六三号

(八月十六日接受)

露国代表「ヨルダンスキー」ハ十四日当地ニテ海峡協約ニ調印セリ

英、仏、土、智恵古ヘ転電セリ

ナサザル旨ノ宣言参加ノ可否ニツキ請訓ノ件
第四七四号 (八月七日接受)

英宛貴電第二一〇号及往電四六七号後段ニ関シ

四日仏国外務省ヨリ左記ノ趣旨ノ「ノート」ヲ接受セルニ就テハ折返シ其ノ回答振何分御回示ヲ乞フ

海峡条約審議ノ為メ露国ヲ勞山會議ニ招請スルコトニ決定セル際ニ於テモ仏政府ハ常ニ「ソビエト」政府同条約ニ調印スルコトアルモ右ハ何等同政府ノ承認トハ認め難キ旨ヲ注意セリ

露国ノ最近ノ形勢ニ依レバ近ク「ヨルダンスキー」同条約ニ調印スルガ如シ、若シ同条約調印国ガ露国ニ其ノ調印ヲ許容スルコトヲ以テ同国ヲ承認シタルモノト露国ガ公ニ主張スルニ於テハ其事態ヲ成ルベク速ニ明瞭ナラシムルコト必要ナルベシ、仏国政府ハ時宜ニヨリ露国委員ノ海峡条約調印ハ如何ナル意味ニ於テモ關係諸国ガ現莫斯科政府ヲ正式ノ露国政府 (Gouvernement régulier de la Russie) トシテ承認スルモノニアラズトノ宣言ヲナスコトニハ異存ナキ処日本政府ハ右宣言ニ参加セラルベキヤ其意向向承知致シタク尚本件ニ付テハ英伊兩國政府ニモ其ノ意向回示方ヲ

四八 十月二十日 在仏国石井大使ヨリ
伊集院外務大臣宛

近東平和条約財政經濟条項ニ関スル報告送付

ノ件

付記 七月二十四日ローザンヌニ於テ署名サレタル通商
条約第二款第九條及第十條

機密公第八三号 (十一月三十日接受)

大正十二年十月二十日

在仏

特命全權大使子爵 石井菊次郎(印)
外務大臣男爵 伊集院彦吉殿

對土平和条約財政經濟条項ニ関スル報告送付
ノ件

勞山對土平和条約財政經濟条項ニ関スル報告佐藤公使ヨリ
提出有之候条右玆ニ及進達候御査閱相成度此段申進候

敬具

本信写送付先 在英、伊大使、在蘭公使、在君府

對土平和条約財政、經濟条項ニ関スル報告

本報告ニ於テハ第一次、第二次勞山會議ヲ通シ財政經濟条

項ノ經過大要ヲ記述スル事トセリ而シテ此等条項中ニハ本邦ニ關係ナキ事項多々アリ且ツ問題夫レ自身複雑ヲ極メ解決至難ナリシノミナラス諸規定ノ正確ナル解釈説明ニ至リテハ夫々専門的智識ヲ必要トスル次第第ニシテ斯ノ如キハ本報告ノ能クスル処ニ非ス茲ニハ單ニ問題ノ經過ヲ概説スルニ止メ以テ他日専門家ノ研究ニ資スルニ止メントス

大正十二年（一九二三年）八月末日

佐藤参事官提出

（前略）

（三）賠償金分配問題

（イ）希国以外ノ同盟国間賠償金分配協約案ノ成行

付屬書、賠償金分配協定案（最終案）^{（省略）}

（ロ）平和条約第五八条關係独塊金貨ノ性質^{（省略）}

（ハ）該金貨ノ処分ニ關スル米國代表ノ抗議^{（省略）}

付屬書一、一九二二年七月五日付米國代表グルー

氏覚書^{（省略）}

付屬書二、仏國専門委員バルジユトン氏ノ意見書^{（省略）}

（イ）平和条約第五八条ノ賠償条項カ多大ノ困難ヲ經テ漸ク確定スルニ至レル経緯ハ前章ニ之ヲ詳述セリ而シテ同条ニ所

謂独塊金貨ヲ同盟國人ノ個人損害賠償資金ニ充當スル件ハ同盟国間ニ異議ナカリシ処ナルモ同シク同条ニ規定セル土國軍艦ニ對スル手付金約七百万金貨土磅ヲ該賠償資源中ニ加フル件ハ一旦之ヲ承諾シタル英國政府カ前言ヲ翻セルニ依リ実行不可能トナリタル事情モ亦已ニ述ヘタリ仏伊兩國ハ英國政府ノ食言ニ對シ頗ル快カラサルノミナラス賠償資金ノ手薄トナリシニ依リ甚シク不安ヲ感シ殊ニ仏國側ハ第二次勞山會議中何トカシテ資金ノ減額ヲ恢復セント百万苦心ノ結果同國専門委員ノ發議ニ依リ該軍艦購入資金トシテ土國政府カ英國ニテ募集セル一九一一年五分利國庫債券（九十三万一千土磅）カ幸ニ全部英國政府ノ有ニ歸セルヲ利用シ英國政府ヲシテ之ヲ賠償資金中ニ加ヘシメントシ仏國政府ヨリ同政府ニ交渉セル結果漸クニシテ同政府ノ承諾ヲ得茲ニ独塊金貨及本件土國國庫債券ノ二口ヲ以テ賠償ノ資源トスルニ決セリ

而シテ該資金ノ分配ニ關シテハ希国以外ノ同盟国タル英、仏、伊、日、羅、塞ノ六ヶ国間ニ一ノ協定ヲ締結シ個人損害ノ見積リ並ニ賠償金分配ノ方法ヲ決定セントシ主トシテ英仏専門家ニ於テ分配協定ノ試案ヲ起草シ幾度カノ修正ヲ

經タル後平和条約調印ノ日最後ノ案トシテ本項末尾ニ添付セル協定案ヲ得タリ而シテ本邦側ニ於テハ予テノ御電訓ニ依リ同案ニ調印ノ意向ヲ有シタルモ英伊間ニ協定成ラス遂ニ第二次會議ニ於テモ勞山ニ於テハ之カ調印ヲ見ル能ハスシテ離散スル事トナレリ

本協約案ニ依レハ一九一四年八月一日以後土國官憲ノ為シタル徵發沒收等ニ基ク個人損害ハ本協約ノ適用ヲ受ケ一定ノ賠償ヲ受クル事トナリ居ル処本邦關係被害ノ主タルモノ即チ独船「ピーター・リックマース」号ノ積載貨物ノ徵發ハ同年八月十七日ノ出来事ナルカ故ニ同号徵發貨物關係ノ損害ハ本協約適用範圍内ニ入ルモノト解釈セラレ從テ本邦側被害ハ他ノ同盟国並ニ取扱ハルル事トナルヘシ元來土國カ戰爭ニ參加セルハ同年十月二十九日ニ付キ純理上本協約ニ於テハ同日以後ノ徵發其他ニ依ル損害ヲ考量ニ入ルルヲ以テ足レリトスヘキ筈ナルモ斯クテハ本邦側ノ損害ハ本協約ノ範圍外ニ出テ他方本協約以外ニ於テ土國側ヨリ我方ノ為メニ特ニ賠償ヲ得ルノ望殆ント皆無トナリシヲ以テ我方委員ハ八月一日說ヲ主張シ英仏伊三國モ我カ要求ヲ容レ茲ニ本協定第六条（a）項ニ一九一四年八月一日以後對土平和条

約實施ノ日迄テ同盟國人ノ受ケタル損害ニ對シ賠償ヲ支払フヘキ規定ヲ見ルニ至レル次第ナリ

右ニ付キ今後行ハルヘキ賠償協約再審議ニ當リ本邦側ニ於テ最モ注意ヲ要スヘキ点ハ第一、右日付ノ問題及第二、徵發沒收ニ依ル損害賠償ヲ協約中ニ包擁セシムルノ二点ニ過キサルヘシ

註 Peter Rickmers 号ハ在漢堡独國船会社 Rickmers

Reederei Aktion Gesellschaft ノ所有汽船ニシテ「アントワープ」ニテ一九一四年七月十七日積込、支那、日本、浦潮向等ノ貨物、主トシテダイナマイト其他機械油、硝子、鐵道材料、雜品等ヲ積載シ極東ニ向フ途中戰爭勃發ノ為一九一四年八月中小亞細亞「ペイルー」港ニ避難入港シ積荷ノ殆ント全部ヲ陸揚シタル後同年十一月ニ至リ同港ヨリ出港逃走ヲ企テタルモ連合國艦隊ノ為メ港外ニ於テ撃沈セラレタルモノナリ而シテ陸揚セル同船積載貨物ハ全部同地ニ於ケル土耳其ノ州總督所謂 Yai ニ依リ徵發セラレタルモノナルモ之ニ對シ該船会社ニ於テモ別ニ徵發証ヲ所有セス唯同船積荷目錄ノ末尾ニ一九一四年八月十四日付ヲ以テ州總

督 Azmi ノ署名セル注意書ヲ付記シ以テ該積荷目録記載ノ荷物カ軍需品ニ適スル故ヲ以テ徵発ニ関スル法規ニ依リ之ヲ徵発シ所轄官庁ニ送付セル旨ヲ明カニセリ而シテ本邦荷受人ハ茂木商店、村井貿易会社、野沢組、立石商会、佐野令三其他数名ニシテ徵発ノ日付ハ本省及在英大使來電ニモ一九一四年八月十四日トアリ以上ハ勞山會議中本省、君府、漢堡總領事、在英大使館等ヨリ得タル報道ヲ綜合シテ得タル事実ナリトス

伊国側ノ本協定ニ反対ノ理由ハ最初ノ原案第六條第一項(d)ニ依レハ一九一四年八月一日ノ現在ニテ同盟國人カ優越ナル利害關係ヲ有セル土国会社即チ利權会社ノ蒙リタル損害モ亦個人損害ト同シク賠償スル事トナリ居ル点ニ在リテ伊国側ニハ此種ノ会社殆ント皆無ナルニ反シ英仏ニハ其利害關係ヲ有スル利權会社多々アリ此故ニ会社ノ損害ヲモ賠償ニ加ウルニ於テハ前述セル英國政府ノ食言ニ依リ啻サヘ小額ト成リタル賠償資金中ヨリ伊国ノ個人損害ニ振向ラルヘキ部分甚タシク削減セラルル事ナルヘク之レ伊国側ノ承諾ヲ困難トスル処ニシテ且ツ利權会社ニ對シテハ希土兩國ノ何レカヨリ別途賠償ヲ受クル余地アルニ於テ益々公平ヲ

失スルモノナリトセリ之ニ對シ英國側ハ個人損害ト会社ノ受ケタル損害間ニ區別ヲ設クル理由ナシトシ仏國側ハ英國ノ如ク絶対的ナラス寧ロ兩國間ノ争ヲ調和セントスル態度ニ出テ利權会社ノ損害賠償ニ振向ケラルヘキ金額ノ最大限ヲ百万金貨土磅ニ限定シ以テ不合理ニ賠償資金ヲ会社損害ニ吸収スルヲ避ケントスル方法ヲ立テ英國側モ政府ノ訓令ヲ得テ遂ニ之ニ賛成シ別添最終案ニハ其趣旨ニテ第六條第一項(d)ニ一項ヲ追加セルモ伊国側ニテハ右妥協案ニモ同意ヲ与ヘス茲ニ於テ本件協約ハ終ニ勞山ニ於テ調印ヲ了スルニ至ラス後日關係國間ニ改メテ商議スヘキ旨ヲ約シ解散セリ而シテ解散當時ノ想像ニテハ來ルヘキ商議地ハ巴里ニシテ仏國側ヨリハ外務省極東課員 Bargeton 氏(勞山會議仏專門委員)之ニ當リ英ヨリハ同シク同會議ノ財政專門委員タリシ大藏省員 Waley 氏來リ会スヘシトノ事ニテ伊国側委員ノ顔触ハ全然不明ナリキ

因ニ英仏伊三國ノ對土要債額カ凡ソ幾何ニ達スヘキヤハ我方ニ取リ參考トナルヘキ問題ニ付キ勞山會議中之カ探知ニ力メタル処仏國專門委員ノ予想トシテ我方委員ニ内話スル所ニ依レハ右三國ノ賠償請求額(個人及会社ノ損害)トシ

リ

(中略)

○第二、經濟條項

(一)財產、權利、利益

テ英仏兩國ノ分各十億仏法伊國ノ分約五億仏法ニ達スヘク合計約二十五億法但シ右ハ申請額ニ付キ之ヲ査定スレハ約十億法迄テ減額シ得ヘキ見込ナリト云フ而シテ前章ニ述ヘタル賠償資源二口合計約六百万金貨土磅ヲ時価相場六十法替トシテ換算スレハ三億六千万法トナリ即チ前記査定額ノ三分ノ一ニ達スルニ過キス而シテ該比率ヲ本邦側損害額拾万円ニ適用スレハ右損害額カ適法ノ要債額トシテ査定セラレタルモノト仮定スルモ其三分ノ一即チ約三万円ニ相当スル損害賠償金ノ割當ヲ受クルニ過キサル事トナルヘシ

伊國專門委員ノ予想ニテハ三國ノ要債額ハ伊國ノ一ニ對シ仏國二、英國三ノ比例ニシテ伊國ノ要債額全部査定済ミノモノ三億五千万「リーラ」ニ達スト云ヘリ右ノ予想ニシテ事實ニ近シトセハ賠償金ノ割當ハ要債額ノ約五分ノ一ニ達スルニ過キサルヘシ

何レノ場合ニ於テモ本邦側ノ割前ハ損害要債額其者カ小額ナル丈ケ極メテ輕微ノ金額ナルヘキ事予想ニ難カラス之カ増額方ニツキ御訓電ノ次第アリ相當注意ヲ怠ラサリシモ我要求スヘキ額他國ニ比シ余リ懸隔ノ大ナル為問題全体ニ関スル努力ヲ試ルモ他國ヲ動カシ得ル機會ハ遂ニ無カリシナ

條約第六五條乃至第七二條ハ財產、權利、利益ニ關スル規定ニシテ賠償條項ト密接ノ關係アリ即チ賠償規定第五八條第二項ハ同盟國人及土國人ノ個人的戰爭損害ノ相殺ニ關スル第一項ノ原則ニ拘ラス條約第三編經濟條項ノ適用ヲ妨ケストセルカ故ニ經濟條項ノ規定ハ全部賠償條項以外ニ立ツ事トナリ從テ本邦唯一ノ土國人關係管理財產タル「レバシ」ノ財產モ賠償規定ト關係ナク財產、權利、利益ニ關スル規定ニ依リ支配セラルル事トナレリ(財政分科会ニ於テハ最初條約第六五條乃至第六八條ニ限り第五八條ノ適用以外トセル処其後財產、權利、利益及契約ニ關スル規定全部ヲ除外シ次テ除外ノ範圍ヲ經濟編全部ニ拡大セリ)

以下本邦關係事項ニ付キ簡單ニ記述セントス

條約第六五條ハ本條約ノ結果土國領土トシテ残存スル地方ニ現ニ存在シ且ツ識別シ得ル同盟國人ノ財產、權利、利益ハ現状ノ儘直チニ之ヲ權利者ニ返還スヘク同時ニ同盟國ノ

領土又ハ保護国内ニ存在スル土国人ノ財産等ニシテ識別シ得ヘキモノモ亦同シク之ヲ權利者ニ返還スヘキ原則ヲ規定ス而シテ條約第六六条ハ右財産ノ還付ニ関スル賦課金ノ免除及第三者ノ損害賠償ヲ規定シ且ツ其末項ニ於テ還付スヘキ財産、權利、利益カ本條約調印ノ日ニ於テ締約国ノ一ニ依リ清算セラレタル場合ニ在リテハ該締約国ハ本件財産又ハ權利、利益ヲ原物ヲ以テ返還スル代リニ清算ニ依リ得タル金額ヲ權利者ニ交付シテ原物返還ノ義務ヲ免カレ得ル事トシ唯權利者ノ要求ニ基キ混合仲裁々判所カ清算價格ヲ不当ト認メタル場合ニ於テハ當事者ノ合意ナキ限り同裁判所ハ其衡平ト認ムル價格迄テ清算金ヲ増額スルヲ得ト為シ且ツ當事者間ノ合意成立ノ日若クハ裁判所ノ決定ノ日ヨリ二ヶ月内ニ關係国カ該裁判所ノ決定ニ依リ支払ヲ実行セサル場合ニハ原物ノ返還ヲ要ストセリ

同盟国殊ニ英國ハ個人財産ノ原物返還ニ重キヲ置キ土国内ニ於ケル英國人財産ニシテ現ニ存在シ且ツ識別シ得ヘキモノハ土国ヲシテ原物ヲ以テ之ヲ返還セシメントシ同時ニ英國内ニ於ケル土国人財産ノ返還ヲ承認シ英國政府カ管理清算セル土国人財産ニ對シテハ清算ヨリ得タル金額ヲ權利者

ニ交付シ以テ原物返還ノ義務ヲ免レントセリ(土国人財産ニシテ英國政府ノ清算セルモノ一二件アリト云フ)而シテ戰爭開始當時君府其他土国領土ニ於テ沒收徵發セラレタル英國人ノ貨物莫大ノ金額ニ達スル由ナルモ此等ノ個人貨物ニ對シ仮令第五八条ノ規定以外ニ於テ土国政府ノ賠償責任ヲ確認セシメ得タリトスルモ之ニ依リ受クヘキ土国政府ノ債券ノ如キハ一文ノ値打ナク融通ノ途ナカルヘキカ故ニ英國政府ニ於テハ土国政府ノ為メニ徵發沒収セラレタル英國人ノ貨物ニ對シテハ全部之ヲ第五八条ノ賠償中ニ包含セシメ特ニ之カ為メニ賠償ヲ要求セサル事トシ單ニ現存スル個人財産ノ原物返還ヲ以テ満足スヘシトセリ

仏國ハ自国内ニ於ケル土国人財産ノ管理清算セルモノナキニ反シ土国内ニ於ケル自国人財産夥多ナルカ故ニ英國側ノ主張ニ係ル原物返還主義ハ其利益トスル処ニシテ伊国亦略同様ノ地位ニ立テリ

要シ又管理後清算済ナルニ於テハ清算ヨリ得タル金額ヲ本人ニ交付シ原物返還ノ義務ヲ免カレ得ヘク右金額ニ関シ本人ニ不服アル場合ニ於テハ日土兩國間ニ在リテハ之ヲ仲裁裁判ニ付スル事ナク兩國政府間ノ交渉ニ依リ追加支給ノ必要ノ有無及右支給金額ノ決定ヲ為スヘキモノタリ然ルニ本省來電ニ依レハ同人所有ノ土地建物ハ清算ノ結果條約ノ規定ヲ俟タス還付ノ手續完了済ミノ趣ニ付キ之レ即チ本條約ニ規定セル原物返還ノ主義ニ付合セルモノニシテ此上問題ヲ惹起スルカ如キ事ナカルヘク管理財産トシテ繼續管理中

ノモノハ本人ノ預金三万余円ニ過キサル由ナルヲ以テ之亦面倒ナル交渉案件タルヲ得サルヘシト思考セララル而シテ「レバン」カ本省來電ニ示スカ如ク果シテ「メソポタミヤ」人タル土国人ナリシトセハ本條約第一編第二款國籍ニ関スル規定ニ依リ他日新興國タル「メソポタミヤ」ノ國籍ヲ取得スルニ至ルヤモ知レス此場合ニ於テハ同人財産ノ処分ハ最早經濟編ノ規定ニ依ルヲ得シテ同國ノ保護國タル英國政府トノ交渉ニ移ルカ如キ珍現象ヲ呈スルニ至ルヤモ難計カルヘシ

條約第七一条(旧第七八条)戰前要求ニ関スル規定ニ日本

カ参加セントセル経緯ハ第二次勞山會議ノ總括報告及起草委員會報告ニ詳カナルカ故ニ茲ニ之ヲ省略ス猶ホ茲ニ一言注意ヲ要スルハ經濟條項中屢々混合仲裁々判所ニ付議スヘキ事項ノ規定アルモ日土兩國間ノ關係ニ於テハ第九八条ノ規定ニ依リ仲裁々判ニ付議スヘキ事項ハ總ヘテ日土兩國政府間ニ於テ商議妥協シ仲裁々判所ニハ提起セサル事トナリ居ル一事ナリトス而シテ本件亦起草委員會報告中ニ詳カナリ

(二)經濟條項中其他ノ規定

財産、權利、利益ニ関スル規定以外ノ經濟條項中第二款契約ニ関シテハ説明ヲ要スヘキモノ第八三条(旧第九三条B.C.)ノ日本ニ関スル除外規定アルニ過キサルモ同条最後ノ「レダクシオン」ハ起草委員ノ手ニ成リタルモノニ付キ其報告ニ讓ル事トシ又第三款混合仲裁々判所ニ関スル規定ハ全然經濟分科會ノ関与セサリシ処ニ付キ本報告中ニハ之ニ言及セス

○第三、居住及裁判管轄ニ関スル協約

税制條項(第一章第一款第八条乃至第一三条)

居住協約中第一款税制條項ハ經濟分科會ノ所管ニ属シ主ト

シテ仏國專門委員商工省通商局長「セリュイス」氏ノ起案ニ係レリ税制条項ハ土国内ニ於ケル同盟國人ノ居住營業若クハ財産、權利、利益ノ所有ニ関シ課税賦課金上土国民ト同一ノ待遇ヲ賦与スヘキ原則ヲ規定シ商工業、金融業若クハ運送保險業ニ従事スル外國会社ニシテ土国内ニ於テ營業スルモノニ對シテモ亦同様ノ營業ニ従事スル土國会社ト課税上一待遇ヲ与フル事トス又土国内ニ設ケラレタル外國会社ノ支店代理店等ニ関シテモ之ト同一ノ規定ヲ適用スル事トシ且ツ此等支店又ハ代理店ノ營業ニ對スル課税ニ関シテハ該外國会社カ土国内ニ投シタル資本實額又ハ土国内ニ於テ掲ケタル利益ニ對シテノミ賦課スヘキ事トス（第八條第九條）

第一〇條ハ土國政府カ租税賦課金等ノ免除ヲ許可スル場合ニ於テ此種免除ハ凡ヘテ内外國人又ハ会社ニ同一ニ適用セラルヘキ旨ヲ規定ス同盟側ノ原案ニハ本條ニ関シ頗ル広範ニシテ自己ニ都合良キ規定ヲ設ケ土國政府カ自國ノ生産、商業又ハ運送ヲ保護センカ為メニ設定スル事アルヘキ賦課ノ免除若クハ奨励金戻税其他一切ノ奨励手段ハ内外國人及会社ノ差別ナク一樣ニ適用セラルヘク以テ同盟國人又ハ會

社ノ不利益トナルヘキ差別待遇ヲ妨止スルヲ要スト規定セルモ第一次勞山會議ニ於テ土國側ノ強硬ナル反對ニ遇ヒ同盟側ニ於テ逐次讓歩ノ已ムナキニ至リ終ニ賦課ノ免除ニ関シテノミ差別待遇ヲ妨止スルヲ以テ満足スルノ止ムナキニ至レリ本條末項ハ土國委員ノ希望ニ依リ追加セラレタルモノニシテ國家ノ經營スル事業又ハ公共事業ニ従事スル利權享有者ニ對スル納税ノ免除ハ他ノ外國会社ニ於テ之カ均霑ヲ主張シ得ヘカサルモノトセリ

第一一條ハ前數條ニ依リ同盟國人ニ賦課シ得ヘキ諸税地方税等ハ土國人ニ對スル税額ヲ超エ若クハ税ノ種類ヲ異ニスルヲ得ストス

第一二條ハ土國內ニ在住シ又ハ營業ヲ為ス同盟國人若クハ其財産並ニ土國內ニ存在シ營業ヲ為ス外國会社又ハ支店代理店等ニ對シテハ戰時ニ於テモ強制公債又ハ其他ノ財産上ノ非常徵收ヲ強制スルヲ得ストセリ本條ハ第一次勞山會議經濟分科會ニ於テ強制公債ニ關スル限リ別ニ異議ナカリシモ其他ノ財産上ノ非常徵收ヲ為ササルヘシトノ約束ニ對シテハ土國側ニ於テ強硬ナル反對アリシモ終ニ本文ノ通り決定セリ

同盟國ハ本協約ニ於テ土國ニ於ケル「カピチュラシオン」ノ權利ヲ全部拋棄セリ然ルニ本協約ノ調印國ニ非ラサル諸國中米國、獨逸、兩國其他戰時中ノ中立國ノ或者ハ依然土國ニ對シ旧來ノ「カピチュラシオン」ニ基ク權利ヲ存続シ居ルヤノ疑アリ本件ニ付キ土國ハ一九一四年開戰當時土國ノ為シタル宣言ニ依リ此等諸國ノ有シタル「カピチュラシオン」ハ消滅セリト主張スルモ如斯解釈ニハ同盟國自身反對シ來レル処ナリ依テ將來ニ對スル保証ヲ得ンカ為メ特ニ第一三條ヲ設ケテ「カピチュラシオン」ノ撤廃ニ関シ土國ハ將來他ノ外國人ニ對シ土國人以上ノ優遇ヲ与ヘサルヘク又土國人及同盟國人間ニハ本款規定ノ事項ニ関シ同等待遇ノ主義ヲ適用スヘキ事トセリ

但シ上述數條ニ規定セル処ハ本協約第一條ノ相互條件ニ繋カルモノニシテ即チ同盟國內ニ於ケル土國人若クハ土國会社ニ對シ同等ノ待遇ヲ与フルニ非ラサレハ該同盟國ハ土國ニ對シ此等數條ニ掲クル待遇ヲ要求スルヲ得サルモノナリ

○第四、通商協約

通商協約ハ英、仏、伊、日、希、羅、塞ノ各國ヲ一方トシ土國ヲ他方トシテ締結セラレ平和條約ト同時ニ調印ヲ了セ

ル協約ニシテ平和條約經濟條項ノ大部分居住協約ノ税制條項ト共ニ主トシテ仏國商工省通商局長セリュイス氏ノ立案ニ係レルモノナリ而シテ同氏起草ノ案文ハ稍モスレハ簡明ヲ欠キ意義ヲ捕捉スルニ甚シク困難ヲ感スル嫌アリ平和條約經濟條項ノ大部分ハ第二次勞山會議ニ於テ同氏ノ参加ナクシテ大修正ヲ加エ得タルカ故ニ頗ル簡潔ナルヲ得タルモ通商協約ハ第二次會議ニ於テモ同氏自身巴里ヨリ出張シ來リテ其討議ニ當リタルノミナラス同盟側ヲ通シテ通商事務ニ通曉セル者同氏ノ右ニ出ツルモノナカリシ等ノ事情ニ依リ本協約ノ條文ハ依然凡ヘテ同氏ノ筆ニ成ルニ至レリ（最近締結セラレタル仏西、仏波通商條約等ハ皆「セリュイス」氏ノ手ニ成リタルモノニシテ其規定ノ複雑セル仏國外務省側ニモ種々ノ批難アリ若シ帝國政府ニ於テ最近ノ機會ニ仏國ト通商條約締結ノ意図ヲ有セラルルニ於テハ勢ヒ氏ト交渉ヲ要スル事トナルヘク氏ノ遺口ニ関シテハ予メ充分ノ用意ヲ為スヲ要スヘシ）通商協約ハ「カピチュラシオン」ノ撤廃ト共ニ直接各國ノ利害ニ影響スル條項ヲ包擁スルモノ多々ナル關係上同盟側及土國側間ニ議論甚シク沸騰シ又互ニ懸引ヲ事トシ時ニ最モ不愉快ナル值切台ヒヲ為シタル事

スラアリ然レトモ出来上リタル協約夫自身ハ兎ニ角戦後ノ土国トノ通商關係ノ基礎ヲ設ケ殊ニ同国ニ於ケル經濟上ノ「カピチュラシオン」廃止ノ後始末ヲ付ケ數世紀ニ亘ル難問ヲ解決セルモノナルカ故ニ同盟国並ニ土国ノ何レニ取リテモ重要ナル意義ヲ有スル協約タル事論ナク又本邦ニ取リテハ本協約ハ從來條約上ノ關係ヲ有セサリシ土国ト初メテ締結セル通商協約ニシテ今後日土兩國間ニ早晚締結セラルヘキ通商條約ノ先驅者タル点ニ於テ又最も重要視スヘキ文書タルヲ疑ハス而シテ本協約ノ討議ニ當リテハ從前本邦側ニハ特ニ考量ニ値スル對土貿易關係ヲ有セサリシ關係上進シテ本邦ノ利益ヲ擁護スヘキ特種ノ規定ヲ設クル必要ヲ見ス僅カニ英仏伊ニ比シ不利益ナル差別待遇ヲ受ケサルニ留意スルヲ要シタルニ過キス然レトモ戰爭前永年ニ亘リ土国ト重要ナル輸出入貿易ヲ有シ且ツ同國方面ノ通商航海ニ從事セル夥多ノ船舶業者ヲ有スル此等諸國ト殆ント全ク通商關係ヲ有セサリシ我國トノ間ニ全然區別ヲ設ケス土國ヲシテ本邦ニ對シ英仏伊ト絶對ニ同等ノ待遇ヲ与ヘシメントスルハ實際上不可能ノ問題ニ屬スルカ故ニ一二ノ点殊ニ土國ノ沿岸貿易特許ノ問題ニ於テ本邦ヲ此等三國ト徹底的ニ同一

產物ニ對シ輸入禁止ノ除外例ヲ設クル場合ニ於テハ右除外例ハ同様ノ產物ニ付キ各同盟國ニ對シ一樣ニ適用セラルヘキモ右解禁ハ貿易額ニ比例シテ之ヲ許与スヘシトナリ居リ斯クテハ戰前土國トノ貿易ヲ有セサリシ本邦ノ如キハ自然土國ノ許与スヘキ輸入禁止解除ノ特典ニ浴スルヲ得サル事トナルヲ以テ我方ニ於テ極力抗議ノ結果漸ク現規定ノ通り修正セシムルヲ得タリ)

土國ハ又相互條件ヲ以テ内外國品ニ對スル消費稅印紙稅ノ均一賦課ヲ約シ付屬表第二ニ記載ノ品目ニ對シテハ一定ノ消費稅ヲ賦課スルヲ得ル事トシ(第四條)土國カ輸出貨物ニ對シ設定スル事アルヘキ輸出稅ハ相互條件ヲ付シテ輸出先ノ何レナルヲ問ハス凡ヘテノ國ニ對シ一樣ニ適用セラルヘシトセリ(第五條)猶ホ第一条乃至第五條ニ規定ノ諸事項ニ付キ土國カ同盟國以外ノ國ニ對シ許与スル事アルヘキ有利ナル待遇ハ同盟國ニモ均霑セシム尤モ土國ノ割讓地若クハ隣接國ニ對シテハ國境貿易ノ如キ特種關係ニ付キ一定ノ例外ヲ認ム(第六條)

土國及其他ノ締約國ハ互ニ其輸入貨物ニ對シ原產地証明ヲ提出セシムルヲ得トシ且ツ土國側ノ提議ニ基キ成ルヘク証

ノ地位ニ置ク能ハサリシハ又寔ニ已ムヲ得サル処ナリトス以下各條ニ付キ簡單ニ説明ヲ試ミントス

同盟側案第一条ニ本協約施行ノ日ヨリ「カピチュラシオン」ニ基ク一切ノ通商制度ヲ撤廃スヘシトノ趣旨ノ規定アリシモ右ハ本協約第二十六條ニ於テ總ヘテノ「カピチュラシオン」ノ撤廃ヲ明確ニ規定スル事トナリシ結果之ヲ削除スルニ決ス本協約第一条ニ於テ本協約施行後適用スヘキ土國ノ輸入稅率ハ一九一六年九月一日ノ稅率ヲ以テスル事ヲ規定シ第二条ニ於テハ土國紙幣ノ下落ニ基キ該稅率ニ對シ一定ノ増加係數ヲ加乘スル事トス而シテ右増加係數ハ旧案ニハ土國金貨磅ニ對スル土國紙幣相場ノ上下ニ依リ之ヲ増減スル事トセルヲ改メ新協約ニハ英貨磅ニ對スル土國紙幣ノ開キニ依リ係數ノ高低ヲ決スル事トセリ

第三条ハ一定ノ例外ノ場合ヲ除キ土國ハ輸出入ノ禁止ヲ為ササルヘキ事ヲ約シ又例外的禁止ハ相互條件ヲ以テ總ヘテノ國ニ對シ一樣ニ適用セラルヘク且ツ禁止貨物ニ對シ除外例ヲ設ケ若クハ特典ヲ与フル場合ニ於テハ一國ノ通商ヲ庇護シテ他國ノ通商ニ損害ヲ与フルカ如キ事ナカラシム(「セリュイス」氏ノ最初ノ案ニハ土國カ同盟國又ハ其他ノ外國

明書ノ形式ヲ一定センカ為メ仏西通商條約ノ形式ニ從ヒ一定ノ原產地証明書ノ雛形ヲ添付ス(第七條)

第八條ハ「本協約有効期間土國ニ對シ他ノ總ヘテノ外國ニ与フルト同一ノ待遇ヲ与ヘサル締約國ハ本協約第一款ノ規定(第一条乃至第七條)ニ依リ利益ヲ要求スルヲ得ス」トセリ本條ニ關シ最初同盟側原案ニハ「土國ニ對シ自國法制ノ範圍内ニ於テ他ノ總ヘテノ外國ニ与ヘ得ヘキ待遇ヲ与ヘサル締約國ハ」前記第一款規定ノ利益ヲ要求シ得サル事トナリ居リシモ第二次勞山會議ニテ討議ノ結果土國ノ要求ニ依リ「自國法制ノ範圍内ニ於テ」ナル文句ヲ削除スル事トナレリ本邦側ハ右削除ニ依リ別段不便ヲ感セサルカ故ニ之ニ同意セルモ仏國ハ總ヘテノ國ニ對スル最惠國待遇ノ均霑ヲ認メサル結果右削除ニ同意スルヲ困難トシ終ニ本協約調印ト同時ニ仏國全權ヨリ土國全權宛書翰ヲ送付シ以テ仏國ニ輸入セラルヘキ土國品ニ對スル待遇振ヲ明カニシ同書翰付屬表ニ列挙ノ品目ニ對シテハ最低稅率ヲ課シ其他ノ一般品目ニ對シテハ最低稅率ノ外同稅率ト一般稅率ノ差ニ五割ヲ乘シタルモノヲ加乘スル事トシ右ノ了解ノ下ニ本條ニ同意スル事ニ決セリ仏國全權ノ書翰付屬表中土國產生系カ仏

国ニ於テ最低税率ヲ課セラルル事トナリ居ル事實ハ本邦ニ
取リ注意スヘキ事項ノ一ナルヘク仏国ハ土国産品ノ大部分
ニ対シ優遇ヲ与フルモ自国工業ハ為メニ何等脅威ヲ感セサ
ルカ故ニ放縱ニ最惠待遇ヲ与ヘ以テ土国側ノ好感ヲ買ヒ本
協約ノ他ノ点ニ於テ利スル処アラント企図セルモノノ如シ
第九条(旧案第一〇条)ハ航海及沿岸貿易ニ関スル規定ニ
シテ通商協約中本邦側ノ最モ苦心セル条項ナリトス
同条第一項ハ相互条件ヲ以テ他ノ締約国ノ船舶ニ対シ土国
ハ自国船舶ト同一ノ取扱ヲ与フヘク又他ノ外国船舶ニ対シ
自国船舶以上ノ有利ノ取扱ヲ許スル場合ハ締約国船舶ニ
モ同一取扱ヲ許スルヲ要ストス

第二項ニ於テハ土国ハ他ノ各締約国ニ対シ又此等ノ締約国
ハ各自土国ニ対シ漁業、沿岸貿易及港務ヲ自国国旗ニ限リ
許可スルノ權利ヲ留保ス而シテ同条ニ所謂沿岸貿易トハ一
国内ノ一港ニ於テ積載セル旅客及貨物ヲ同一国内ノ他ノ港
ニ海路運搬スルヲ云フト規定ス

本条第二項ニ関シテハ第二次勞山會議ノ終期ニ至リ本省ヨ
リ電報アリ同項ニ採用セル沿岸貿易ノ定義ハ所謂米國主義
ト称スルモノニシテ年来帝國政府ノ反対シ来レル処ナルカ

締盟國ハ自国国旗ニ限リ漁業及沿岸貿易ヲ許可スルノ權利
ヲ留保ス」トアリテ一見例ヘハ英土間ノ關係ニ於テ沿岸貿
易ヲ規定セルト同時ニ英日間ノ關係ヲモ規定セルヤノ觀ヲ
呈スルモ原来本協約ハ同盟國及土国間ノ協約ナルカ故ニ同
盟國相互間ニ本項ニ規定セル沿岸貿易ノ定義カ適用セラル
ルモノトハ何人モ思考セス三、若シ國際條約ヲ以テ沿岸貿
易ノ定義ヲ規定シ各國共通ノ原則ヲ設定スヘキモノトセハ
夫ハ其目的ノ為メニスル國際條約ノ締結ヲ必要トシ土国ト
ノ平和克復ノ結果トシテ同盟國及土国間通商關係ノ復活ヲ
規定ノ主眼トセル本協約ニ於テ直ニ沿岸貿易ノ定義ヲ掲ケ
タリトスルモ是ハ土国トノ關係ニ於テ便宜採用セル定義ニ
シテ直チニ之ヲ以テ同盟國相互間ノ關係ニ於テ一般ニ適用
セラルヘキ原則ヲ掲タルモノト見做ス可ラサル事勿論ナリ
ト云フカ如キ異論出テ英仏側ニ於テ容易ニ我修正ニ賛成セ
ス伊國ハ本邦ト同様ノ地位ニ在ルカ故ニ我提議ニハ賛成ナ
リシモ進シテ我ト提携シテ英仏ニ当ラントスル程ノ熱心ナ
ク遂ニ我方提議ハ之ヲ撤回スルノ已ムナキニ至レリ但シ其
代リ我方ノ注文ニ依リ第二項冒頭ヲ修正シ明カニ同盟國及
土国間ノ關係ヲ規定セルモノニシテ同盟國相互間ノ問題ニ

故ニ今本条項ニ賛成セハ從來ノ主張ヲ捨ツル事トナルヘキ
ノミナラス他日英國政府カ印度及英本國間ノ貿易ヲ沿岸貿
易ナリト主張スル場合之ニ対シ最早ヤ抗議ノ余地ナキ事ト
ナリ我カ航海業者ニ取リテハ重大ナル關係ヲ有スル次第ニ
付キ出来得可シハ沿岸貿易ヲ成ルヘク狹義ニ解釈シ内海ヲ
隔テタル領土ト本國間ノ貿易ニ限リ之ヲ沿岸貿易ト見做シ
大洋ヲ隔テタル領土ト本國間ノ交通ハ其範圍外タラシムル
事トスルカ若クハ本項ノ規定ヲ土国側ノ一方ノ權利ヲ留保
シタル態ニ修正シ同盟側ノ權利ニ対シテハ全然言及セサル
事トシ以テ前陳ノ如キ我方ノ不利益ヲ避クルニ力ムヘシト
ノ訓令ニ接セリ然レトモ右訓令ノ実行ニ當リテハ乍遺憾多
大ノ障害ニ遭遇セサルヲ得サリキ即チ一、本省訓電中ニハ
我方ノ希望スル如キ沿岸貿易ノ定義案カ最近既ニ「ゼネバ」
ニ於ケル交通會議ニ於テ他ノ重要關係國ノ諒解ヲ得タルモ
ノナルカ如キ廉アリシモ為念大急ニテ取調タル結果ハ事實
必シモ然ラサリシコトヲ発見シタル様ノ次第ニテ又我方ニ
テ修正ノ提議ヲ為シタルハ已ニ第二次勞山會議ノ終期ニ近
ク何人モ會議ノ終了ニ焦心シ成ルヘク沿岸貿易ノ根本的定
義等ニ触ルルヲ避ケントスル風アリ二、同盟側原案ニハ「各

非ラサル事ヲ明カニスルト同時ニ六月二十二日ノ第三委員
會ニ於テ落合全權ヨリ「日本全權ハ第九条ノ規定ヲ承諾ス
ルモ之ヲ以テ日本政府カ從來支持シ来レル沿岸貿易ニ対ス
ル見解ヲ變更若クハ拋棄セルモノト解釈スヘカラサル」旨
ヲ声明シ之ヲ議事録ニ止ムル事トシ各國全權之ヲ領承セリ
此外同盟側旧案ニ依レハ同条第三項トシテ土国国旗ノ沿岸
貿易独占ニ対スル例外トシテ平和條約ニ依リ土国ノ割讓地
ニ対シ一定ノ特例ヲ認ムヘキ事ヲ規定シ又第四項ニ土国ハ
過渡的制度トシテ五年間同盟國ノ船舶ニ対シ一般的ニ土国
内ノ沿岸貿易ニ従事スルヲ許可スヘキ規定ヲ設ケタリ然ル
ニ右第四項ノ規定ニ関シテハ種々ノ経緯アリ最初仏國委員
ノ起草セル案ニハ右過渡的制度トシテ戰前土国ノ沿岸貿易
ニ従事セル船舶業者ニ対シ五年間從前通り其營業ヲ繼續セ
シムヘキ事トナリ居リシ処斯クテハ本邦航海業者ハ全然除
外セラルルヲ以テ本邦側ヨリ嚴重抗議ノ結果漸ク前陳ノ如
ク一般的ニ同盟國船舶ニ対シ過渡的制度ヲ認ムル事ニ同盟
側内輪ニテハ協議經マリタルモ土国側ハ右第三、第四項共
ニ最初ヨリ留保シ居リテ讓歩ノ色ナク他方英仏伊三国ニハ
戰爭前ヨリ土国ノ沿岸貿易ニ従事セル会社多數アリ而シテ

一般航海業不振ノ折柄急ニ土国内ノ沿岸貿易ヲモ停止セラ
ルルニ於テハ一層營業困難ニ陥ルヘキヲ以テ此等会社ノ清
算ニ必要ナル期間例ハ二年間營業繼續ノ特許ヲ得ントシ
伊側ヨリ土国ニ懇請スルト同時ニ日本側ニ対シテモ主義上
ノ問題ニノミ執着スル事ナク寛大ノ態度ニ出テラレン事ヲ
切望スル旨再三依頼アリ依テ我方ニ於テハ第二次勞山會議
ニ臨ムニ当リ本省ノ訓令ヲ帶シ英仏伊既得權会社ノ窮狀ヲ
諒トシテ強ヒテ主義上ノ均等待遇ヲ主張セサルヘキモ此等
会社ニシテ一定ノ年限後ニ至リ猶ホ沿岸貿易ヲ繼續營業ス
ルニ於テハ我方モ均等待遇ヲ主張スヘントノ方針ヲ明カニ
シテ本件成行ニ注意セル処土国側ノ反対依然強硬ニシテ
第三第四兩項共遂ニ本条ヨリ削除ノ已ムナキニ至レルモ三
国側亦既存会社ノ保護ニ力メタル結果幾多ノ曲折ヲ經テ遂
ニ右兩項削除ノ代リ英仏伊三国各三会社ニ限り来年一月一
日以降二年間營業繼續ヲ許可スルノ趣旨ニテ土国全權ヨリ
三国全權ニ文書ヲ発スル事ニ決シ第二回勞山會議ノ最末期
ニ至リ本件漸ク落着ヲ告グルニ至レリ
然ルニ幾多困難ヲ經テ協定ニ達セル該土国全權ノ三国宛書
翰(會議既ニ終了シ条約調印ノ一兩日前ニ至リ始メテ我方

セストモ限ラスト答ヘタル趣ナリ

要スルニ本件ハ我方ニ取リテハ主義上ノ問題ニシテ現実ノ
利益ニ触ルル訳ニモアラス且ツ勞山會議ニ於テハ此以上ノ
結果ヲ収ムル事困難ナリシヲ以テ我全權ニ於テモ前記土国
全權ノ説明ヲ諒トシ一ト先ツ本問ヲ打切ル事トセリ若シ帝
国政府ニ於テ土国ノ沿岸貿易ヲ重要視セラルルニ於テハ本
件ハ他日土国トノ通商条約締結ニ當リ本邦側ヨリ提議ヲ試
ムヘキ一案件タルヘシ

猶ホ「撤兵ニ関スル議定書付屬宣言」ニ於テ土国側ハ一九
二三年一月一日土国内ノ沿岸貿易ニ従事セル船会社ニ対シ
同年末迄テ其營業ヲ繼續シ得ヘントセリ

第一〇条ハ前条記載ノ漁業、沿岸貿易及港務ニ関スル例外
ヲ除キ同盟国及土国間ニハ互ニ他方ノ船舶ニ対シ航海、運
搬、碇泊等ニ関シ全然自国船舶ト同一ノ待遇ヲ与フヘキ事
ヲ規定ス

第一条ハ船舶積荷及旅客ニ関スル書類ニシテ戦前土国ニ
於テ有効ト認メラレタルモノハ依然有効タルヘントセリ本
条ニ関シ土国側ヨリ土国ニ來航スル船舶ハ総ヘテ土国語ニ
テ關係書類ヲ提出スルヲ要スル法律規定ノ存在ヲ理由トシ

ニ通牒シ來レルモノ)ヲ看ルニ三国ノ既得權会社ノ業務整
理ノ必要以外ニ亘リ土国政府ト此等会社トノ話合次第ニ依
リテハ一時的沿岸貿易ノ許可ハ或ハ長期間ノ特許トモ變リ
得ル余地アルヲ發見セルカ故ニ落合全權ハ本問ヲ提ケテ
「イスメット、パシヤ」ヲ訪問シ(七月二十三日)以前ノ
会见ニ於テ斯ル事態アルトキハ決シテ黙過シ難キ旨陳ヘ置
キタルコトヲ指摘シ日本モ世界大海運國ノ一トシテ自由航
海ノ問題ニハ大ナル利害關係ヲ有スル次第ニ付三国会社ノ
例外的營業ノ特許力事業清算ノ範圍ヲ超エ長期間ノ特權ト
化スル場合ニ於テハ日本モ同等ノ待遇ニ均霑セン事ヲ主張
セサルヲ得サル旨申出ラレタルニ對シ土国全權ハ前記土国
側書翰案ノ如キ提議カ土国ノ意ニ滿サリシニ依リ極力反對
セルモ三国ノ圧迫甚タシク遂ニ已ムヲ得ス之ヲ承諾スルニ
至レル次第ヲ弁シ且ツ現在ニ於テハ二年間三国会社ノ營業
繼續ヲ承諾セルニ過キストナシ尤モ他日条件如何ニ依リテ
ハ長期ノ特許ト變ルナキヲ保シ難ク此ノ場合第三国ニ同一
待遇ヲ許スル筋合ニ非ラサルハ勿論ナルモ同時ニ日本ノ
航海業者ニ於テ有利ノ条件ヲ提供スルニ於テハ他国ニ均霑
セシムル事ナクシテ日本会社ニノミ沿岸貿易ノ開始ヲ許可

本条ニ規定セル各般ノ書類モ亦右法律ノ規定ニ依リ土国語
ニテ提出スヘキ旨ノ請求アリ利害關係大ナル英国専門委員
大ニ困惑ノ結果急遽同盟側専門委員ニ諮リ右ノ如キ土国法
律存在スル以上強テ之ニ反對シ却テ不利益ヲ増大ナラシム
ルヨリハ寧ロ出來得ル丈ケ同盟側ニ都合ヨキ条件ヲ以テ本
件ヲ纏ムルニ如カスト為シ左ノ趣旨ノ同盟側宣言案ヲ作製
シ土国側ヲシテ之ヲ承認セシメ本會議ニ於テ宣言スル事ト
セリ

「土国港務官ニ於テ其職務遂行上必要トスル場合ニ於テ
ハ他ノ締約國ノ船舶若クハ積荷旅客關係証明書又ハ其他
ノ書類ノ土国語訳文ノ提出ヲ要求スルヲ得ヘシ但シ此等
ノ書類及其他ノ商業上ノ書類ノ原本ニハ土国語ノ使用ヲ
義務トスルモノニ非ス」

右宣言ニ依リ關係書類ノ原本ハ土国語タルヲ要セサル事ト
ナリシ点ニ於テ大ナル困難ヲ排除シ得タルモ翻譯文ノ添付
ハ之ヲ必要トスヘク本邦船舶業者ニ取リテハ不便尠カラス
ト思考シタルモ英仏伊ニ於テ之ヲ承諾セル以上我方獨リ反
對スル根拠ナク乍不本意之ニ同意セリ尤モ實際上ノ問題ト
シテハ到着港ニ於テ特定ノ代理人ニ依頼シ一定ノ書式ニ依

リ簡單ニ訳文ヲ作ル方法アリトノ事ナリ

第二二条乃至第一七条ハ特ニ説明ヲ加フル事項ナシ

第一八条本協約ノ有効期間ヲ五ケ年トス但シ本協約第一款（第一条乃至第七条）ニ関シテハ希、羅、塞等ノ諸隣接國ハ成ルヘク速カニ通商上ノ新狀態ニ適應セル条约締結ノ必要アルカ故ニ三十ケ月以後何時ニテモ本協約ヲ廢棄シ得ル事トシ廢棄後六ケ月ニシテ協約ハ其効力ヲ失スル事トス又土國及同盟國ハ共ニ本協約失効前何時ニテモ新通商条约締結ノ交渉ヲ開始スヘキ事ヲ約シ本協約失効前ニ右交渉纏マラサル場合ニ於テハ各締結國ハ行動ノ自由ヲ得ヘキ事ヲ規定ス

本条有効期間ノ問題ハ本協約ヲ通シテ土國側ノ最モ強硬ナル態度ヲ持シテ下ラサリシ処ニシテ日英仏伊ニ對シテハ五年ノ期間ヲ認ムルニ各ナラサリシモ其他ノ小國ニ對シテハ絶對ニ同一ノ期間ヲ与フルヲ拒絶シ小國側又体面上如斯差別待遇ヲ甘受スルヲ肯セス解決頗ル困難ニ陥リシモ漸ク大國側ノ調停ニ依リ本文ノ如ク落着セリ

此他旧案第一九条ニ本協約締約國以外ノ諸國ノ參加規定アリシモ白「葡」「チエミック」ノ三國ニ對シテハ本協約ト同

intérieurs de quelque nature que ce soit.

Article 10.

Sous réserve des exceptions prévues à l'article précédent pour la pêche, le cabotage maritime et les services des ports, un traitement égal à celui des navires nationaux sera accordé à titre réciproque par la Turquie, d'une part, et chacune des autres Parties Contractantes, d'autre part, en ce qui concerne le droit d'importer ou d'exporter toute espèce de marchandises ou de transporter les voyageurs à destination ou en provenance du pays, et la jouissance de toutes facilités quant au stationnement, au chargement et au déchargement des vaisseaux aux ports, docks, quais et rades.

Il y aura aussi une égalité absolue, sous la même condition de réciprocité, en ce qui concerne les droits, charges et paiements de toute espèce prélevés sur les navires, comme les droits sanitaires, les droits de port, de quai, de mouillage, de pilotage, de quarantaine, de phares et autres droits similaires, perçus au nom ou au profit du Gouvernement, des fonctionnaires, des individus privés, des associations ou des établissements de toute espèce.

一趣旨ヲ以テ直チニ条约締結ニ着手スヘシトノ土國側約言ヲ諒トシ同条削除ニ決セリ

（付記）

七月二十四日ローザンヌニ於テ署名サレタル通商条约第二款
第九条及第十条

SECTION 2.

Article 9.

La Turquie s'engage, à condition qu'un traitement réciproque lui soit accordé en la matière, à accorder aux navires des autres Puissances Contractantes un traitement égal à celui qu'elle accorde aux navires nationaux ou un traitement plus favorable qu'elle accorde ou pourrait accorder aux navires de toute autre Puissance.

La Turquie conserve à l'égard de chacune des autres Puissances Contractantes, et chacune de celles-ci conserve à l'égard de la Turquie, le droit de réserver à son pavillon la pêche, le cabotage maritime, c'est-à-dire le transport par mer de marchandises et voyageurs embarqués dans un port de son territoire vers un autre port du même territoire, et les services des ports, c'est-à-dire le remorquage, le pilotage et tous services

La Turquie s'engage de même, moyennant réciprocité, à ne grever les marchandises importées ou exportées d'aucun droit différentiel, surtaxe ou majoration, de quelque nature ou sous quelque dénomination que ce soit, fondés sur le pavillon du navire importateur ou exportateur, sur les ports d'arrivée ou de départ, sur le voyage du navire ou sur les escales, les droits et taxes imposables aux marchandises importées ou exportées n'étant déterminés que par leur origine et provenance ou leur destination et étant également applicables pour toutes les autres Puissances Contractantes, en vertu des dispositions de la Section I.

（右和文）

第二款

第九条

土耳其國ハ他ノ締約國ノ船舶ニ對シ自國ノ船舶ニ与フルト均等ノ待遇又ハ他ノ一切ノ國ノ船舶ニ對シ与ヘ若ハ将来与フルコトアルヘキ最惠待遇ヲ相互条件ノ下ニ許スルコトヲ約ス

土耳其國ハ他ノ各締約國ニ對シ、他ノ各締約國ハ土耳其國

ニ対シ、漁業、沿岸貿易即チ其ノ領域内ノ一港ニ於テ積載シタル貨物及旅客ヲ同一領域内ノ他ノ一港ニ海上輸送ヲ為スコト並港灣役務即チ曳船、水先案内及一切ノ港内役務ヲ自国船舶ニ留保スルノ權利ヲ保有ス

第十條

一方ニ於テ土耳其国他方ニ於テ他ノ各締約国ハ漁業、沿岸貿易及港灣役務ニ関スル前条ニ定ムル例外ヲ留保シ各種貨物ヲ輸出入シ又ハ出入旅客ヲ輸送スルノ權利並港、船渠、埠頭及港外碇泊所ニ於ケル繫留及積卸ニ対スル一切ノ便益享受ニ関シ相互条件ノ下ニ内国船舶ニ与フルト均等ノ待遇ヲ許与スヘシ

政府、官公吏、私人、団体若ハ各種營造物ノ名義ヲ以テ又

ハ其ノ利益ノ為ニ課セラルル衛生税、港税、埠頭税、碇泊税、水先案内料、檢疫税、燈台税及其ノ他類似ノ税金トシテ船舶ニ賦課セラルル各種ノ料金、負担及支払ニ関シテモ同一ノ相互条件ノ下ニ亦絶対ノ均等待遇ヲ許与スヘシ

輸入又ハ輸出ノ貨物ニ賦課スヘキ料金及税金ハ第一款ノ規定ニ依リ其ノ生産地及輸出地又ハ其ノ荷受地ニ依リテノミ決定セラレ且他ノ一切ノ締約国ニ対シ均シク適用セラルヘキモノナルヲ以テ土耳其国ハ相互条件ノ下ニ輸入又ハ輸出ノ貨物ニ対シ輸出入船舶ノ国籍、發著港、航路又ハ寄港地ニ基キ何等ノ差別的料金、付加税又ハ増加税ヲ其ノ性質又ハ名称ノ如何ヲ問ハス賦課セサルコトヲ約ス

事項二 欧州復興及ビ対独賠償問題

四九 一月二日

在仏国奥山臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

パリ賠償會議ニ提出セントスル仏国案ノ大要

報告ノ件

第一号

(一月三日接受)

新聞情報ヲ綜合スルニ一月二日巴里首相會議ニ対スル仏国案ノ大要左ノ如シ

一、独逸債務ノ減額ハ仏国ノ對連合國債務ノ減額ヲ条件トスルモノニシテ即チ「c」証券ト之ト略ボ同額ナル連合國間債務ノ相殺ニ依リ「c」証券ニ相等スル額ヲ独逸債務ヨリ減ズル事ニ同意ス可シ若シ右ノ相殺不可能ナルニ於テハ仏国ハ連合國ニ対スル債務ノ利子ヲ支払フ可キモ之ハ仏国ガ独逸ヨリ荒廢地復旧ノタメ必要ナル額即チ仏国ガ「a」及「b」証券ニ対シ受取ル可キ利子ト略ボ同額即チ百億金馬克ヲ受取ル可キ事ヲ条件トス

二、仏国ハ二ヶ年ノ支払猶予ヲ独逸ニ許ス可シ但同猶予ハ占領軍ノ費用及実物支払ニ適用セラレザル可ク單ニ現金支払ノミニ関スルモノトス

三、保障委員會ヲ伯林ニ移シ之ヲシテ独逸財政並「ライヒスバンク」ニ対スル監督ヲ勵行セシメ必要ノ場合ニハ独逸債券所有者ノ代表者ヲシテ同委員會ニ助力セシム可シ尚独逸ヲシテ馬克安定ノ方策ヲ講ゼシメ之ヲ賠償委員會ノ審議ニ付セシム可シ

四、担保取得ニ関シテハ「a」賠償委員會ノ決定セル木材引(脱)確保スル為「ライン」占領地域ニ於ケル国有森林ノ exploitation ヲ為ス事「b」「ルール」地方ノ或ル地点ニ於テ石炭ノ引渡ヲ監督セシム可キ連合國委員會ヲ設定スル事「c」「ライン」地方及「ルール」地方ノ税関收入ヲ連合國ガ直接徴収スル事右ハ新タニ関税ヲ設クルモノニ非ズシテ現ニ「ライン」地域ノ東境並「ルール」河ノ出口ノ諸地点ニ存在スル税関ニ連合國税関吏ヲ配置シ直接関税徴収ヲ為サシムルモノナリ「d」「ライン」地方及「ルール」地方ニ於テ石炭税ヲ徴収スル為連合國委員會ヲ設クル事右石炭税ハ一年約四億金馬克ニ上ル可ク同委員ハ独逸ヲシテ右金額ノ約四分ノ一ヲ外國通貨ヲ以テ支払ハシムルノ權限